

内閣府食品安全委員会事務局
平成19年度食品安全確保総合調査報告書

リスクコミュニケーションの 評価手法等に関する調査

調査報告書

平成20年3月

 株式
会社 **三菱総合研究所**

目次

I 調査の概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の対象者	1
3. 調査項目	1
II. 消費者等の関心事項に対応した効果的な意見交換会の実施に関する調査	
1. フォーカスグループインタビュー	6
1.1 実施目的	6
1.2 基本的な調査項目	6
1.3 調査の対象とする消費者の層	6
1.4 調査対象者	7
1.5 調査方法	8
1.6 インタビューフロー	8
1.7 インタビュー結果	11
1.7.1 20代女性	14
1.7.2 40代女性	24
1.7.3 結果のまとめ	34
2. インターネットアンケート	38
2.1 インターネットアンケート実施概要	38
2.1.1 調査方法等	38
2.1.2 調査項目	38
2.2 調査結果	39
2.2.1 食品の選択行動について	39
2.2.2 食品の安全性に関する知識・関心	43
2.2.3 食品安全委員会等の認知	48
2.3 結果の考察	56
3. 調査結果の整理、分析、検証	59
3.1 食品安全に関する消費者の意識	59
3.2 意見交換会に関する消費者意識	60
4. 効果的な意見交換会の企画及び実施方法の検討	63
4.1 目的	64
4.2 目標	65
4.3 対象、規模	66
4.4 実施方法	67

Ⅲ. 意見交換会の評価手法に関する調査

1. アンケート票の作成.....	74
1.1 留意事項.....	74
1.2 アンケート票の作成.....	75
2. アンケート実施方法に関する調査.....	91
2.1 アンケートの効果的な実施方法.....	91
2.2 アンケート結果の分析・活用方法.....	95

Ⅳ. まとめ及び今後の課題

1. 消費者等の関心事項に対応した効果的な意見交換会の実施に関する調査.....	99
1.1 フォーカスグループインタビューの結果.....	99
1.2 インターネットアンケートの結果.....	100
1.3 意見交換会に対する消費者意識.....	101
2. 意見交換会の評価手法に関する調査.....	104
2.1 アンケート票の作成.....	104
3. 調査結果の取りまとめ.....	107
4. 今後の課題.....	109
4.1 消費者の食の安全に関する意識について.....	109
4.2 意見交換会に関する消費者の意識について.....	109
4.3 意見交換会の評価について.....	109
付録 意見交換会評価用アンケートテンプレート.....	111
付録 意見交換会評価ガイド.....	117
付録 インターネットアンケートデータ.....	137

I 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、リスクコミュニケーション手法の一つである意見交換会について、消費者等の関心事項を把握するための調査を実施し消費者等の関心事項に対応した効果的な意見交換会の企画、実施方法について検討するとともに、意見交換会の評価手段として、効果的なアンケート調査を実施するための具体的な方法について、調査、分析することを目的とした。

2. 調査の対象者

本調査は、効果的な意見交換会の実施に資する知見を得ることを本旨としている。ここでは、潜在的な参加意欲はあるもののこれまでに実際に参加したことのない消費者層の参加を促進することが効果の第一義と考え、この層が関心を持つテーマに注目して調査を進めた。調査の主な対象となる消費者層のイメージを図 2-1 に示す。

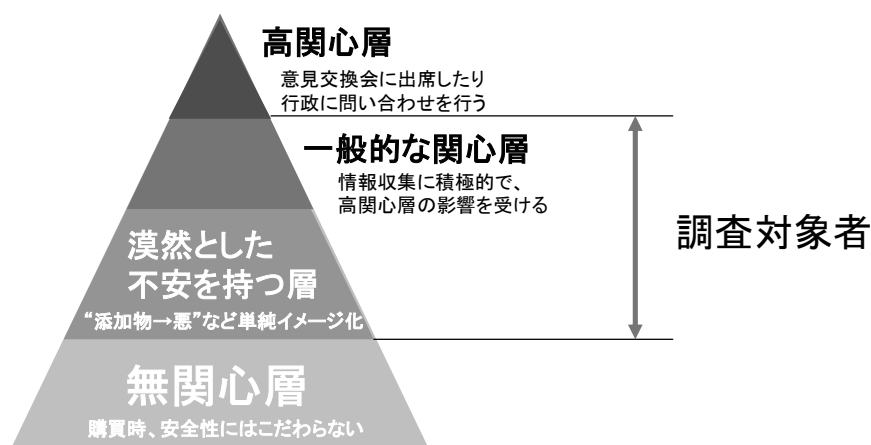


図 2-1 調査対象者のイメージ

3. 調査項目

(1) 消費者等の関心事項に対応した効果的な意見交換会の実施に関する調査

食品の安全性に対する消費者等の関心度を把握するため、フォーカスグループインタビュー及びインターネットアンケートによる調査を実施するとともに、当該調査結果と類似調査（世論調査等）の結果を照合し、当該調査結果の妥当性を検証した。また、消費者等の関心度の高いテーマについて、効果的な意見交換会の企画、実施方法

について検討を行った。

(2) 意見交換会の評価手法に関する調査

消費者等のニーズに応じた意見交換会及び食品安全委員会として実施すべき意見交換会について、その有効性に関する評価手法の一つであるアンケートの実施方法について調査、検討した。

(3) 調査結果の取りまとめ

(1) で取りまとめられた結果を参考にして、(2) により得られた意見交換会の評価手法に基づき、意見交換会の評価のシミュレーションを行い、評価手法の有効性を検討するとともに、消費者の関心事項等に基づいて実施する意見交換会の評価手法を検討するための資料を取りまとめた。

Ⅱ．消費者等の関心事項に対応した効果的な意見 交換会の実施に関する調査

目次

1. フォーカスグループインタビュー	6
1.1 実施目的.....	6
1.2 基本的な調査項目	6
1.3 調査の対象とする消費者の層	6
1.4 調査対象者	7
1.5 調査方法.....	8
1.6 インタビューフロー.....	8
1.7 インタビュー結果	11
1.7.1 20代女性	14
1.7.2 40代女性	24
1.7.3 結果のまとめ	34
2. インターネットアンケート	38
2.1 インターネットアンケート実施概要	38
2.1.1 調査方法等	38
2.1.2 調査項目	38
2.2 調査結果.....	39
2.2.1 食品の選択行動について	39
2.2.2 食品の安全性に関する知識・関心	43
2.2.3 食品安全委員会等の認知	48
2.3 結果の考察	56
3. 調査結果の整理、分析、検証.....	59
3.1 食品安全に関する消費者の意識	59
3.2 意見交換会に関する消費者意識	60
4. 効果的な意見交換会の企画及び実施方法の検討.....	63
4.1 目的	64
4.2 目標	65
4.3 対象、規模	66
4.4 実施方法.....	67

1. フォーカスグループインタビュー

1.1 実施目的

食品の安全性に対する消費者等の関心度を把握するため、フォーカスグループインタビュー（FGI）による調査を実施した。また、消費者等の関心度の高いテーマについて、効果的な意見交換会の企画、実施方法について検討を行った。

1.2 基本的な調査項目

以下の項目についての消費者の意識を把握すると共に、昨年度実施した調査¹における FGI の結果との比較も行えるよう、具体的な調査項目を設定した。

- ・食品の安全性に関する基礎的な知識
（食育の推進目標等、食育に関する基本的な知識を持っているかどうかの把握を重要項目として聴取する）
（その他、消費者の懸念が大きいなど、特に関心を高く示すテーマを含む）
- ・食品の購入、選択方法など、食行動の現状
- ・食品安全委員会、食品健康影響評価、食品の安全性に関するリスクコミュニケーション等の認知度（認知経路、認知内容等を含む）
- ・意見交換会への参加意識

1.3 調査の対象とする消費者の層

本調査は、効果的な意見交換会の実施に資する知見を得ることを本旨としている。ここでは、潜在的な参加意欲はあるもののこれまでに実際に参加したことのない消費者層の参加を促進することが効果の第一義と考え、この層が関心を持つテーマに注目して調査を進めた。調査の主な対象となる消費者層のイメージを図 1-1 に示す。

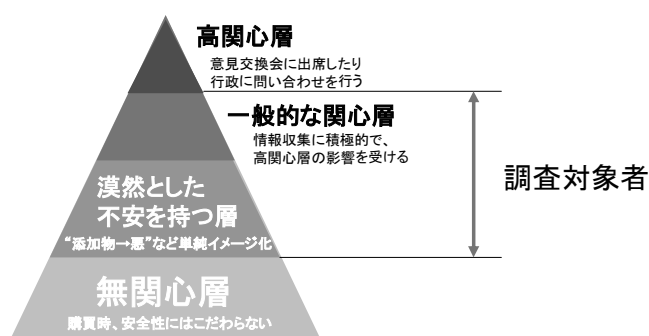


図 1-1 調査対象者のイメージ

¹平成 18 年度「食品の安全性に係るリスクコミュニケーション等に関する調査」（食品安全確保総合調査、内閣府食品安全委員会事務局勧告広報課）（株）三菱総合研究所が調査を担当）

1.4 調査対象者

意見交換会への参加者が少ない世代等（20歳代から40歳代の学生や主婦、食品関連事業者以外の会社員等）を対象とし、1グループ当たり7名程度のグループを2グループ構成して調査を実施した。グループ構成を表1-1に示す。

表 1-1 インタビュー調査対象者のグループ構成

	対象者の属性	特徴
グループA	3都県（都心より30km以内）在住 20代、女性（未婚、一人暮らし）	意見交換会への参加が少ない一方、偏食など食への意識改善が必要とされている世代。昨年度実施の30代主婦と比較する
グループB	3都県（都心より30km以内）在住 40代、主婦（子供有り）	公害が深刻化した時代（1970年代）の記憶を持つ世代。30代主婦、20代学生の結果と比較することで世代間の相違を見る

[スクリーニング質問]

インタビューは、従来から意見交換会への参加が少なかった層の関心を把握し、そうした層が関心を持つような意見交換会のあり方を検討することを主眼とした。このため、調査対象者の抽出にあたっては、積極的に意見交換会に出席するような高関心層や、意見交換会への出席を望み難い無関心層を除外することで、意見交換会への潜在的な出席可能性を現実的に持つ層を選定するスクリーニング質問を設けた。スクリーニング質問には、昨年度調査と同様に、日頃の食品の購買行動や食品安全に関する基本的な考え方を問う質問群を用意した。

（高関心層の除外）

- ①「これまで行政が行なう食品安全に関する意見交換会に参加したことがありますか？」に対して明確に「はい」と回答した人は除外
- ②以下の5段階評価質問（「あてはまる／まああてはまる／どちらともいえない／あまりあてはまらない／あてはまらない」）において、以下の基準により「あてはまる」もしくは「まああてはまる」と回答した人は除外

グループA（20代女性）：7問中、5問以上 ※質問e（子供に～）を除外
 グループB（40代女性）：8問中、5問以上

- a. レトルトなど加工食品は、原料の安全性や添加物が気になるので買わない

- b. 弁当・惣菜類は、原料の安全性や添加物が気になるので買わない
- c. 価格が高くても、安全な食品を選択している
- d. 外国産の野菜や肉は危険だと思う
- e. 子供には炭酸飲料やスナック菓子は与えない
- f. ファーストフードは、身体に悪いので食べない
- g. 残留農薬や食品添加物について、日頃から勉強している
- h. 食品についている表示や賞味期限などはそのまま信じない

(無関心層の除外)

- ③日頃の食品（生鮮、加工食品の他、飲料、菓子なども含む）の購入或いは宅配頻度が「週 2〜3 日」以上であること
 - ④購入チャネルとして「スーパー」「コンビニエンスストア」「個人商店」「デパートの地下食料品売場や高級食料品店」を「まったく利用しない」人は除外
- ※ただし、20代の未婚女性については、②e（子供には・・・）の質問は除外。

1.5 調査方法

表 1-1 に示した 2 グループを対象に、グループインタビュー方式により調査を実施した。インタビューでは、注目する問題に焦点をあてた大きな質問の流れ（インタビューフロー）をあらかじめ準備して、司会者がそれに伴いインタビューの進行を図った。参加者は、司会者の適切なファシリテーションを受けて、基調となるテーマに沿いつつ自由に意見を述べていく。実施にあたっては、参加者の属性を絞り込み、また基調となるテーマとその流れを用意したうえで、司会者が適切にファシリテートすることにより、参加者の自由な発言を許しつつ結果としてテーマにフォーカスされた発言が尽くされることに特に配慮した。

1.6 インタビューフロー

インタビューは全体を 2 時間で構成し、設問の流れは表 1-2 に示すように設定した。身近な話題から導入し、徐々に議論や意識を活性化しつつ効果的に情報を得ていくことに配慮し、インタビューの順序及び時間配分を設定した。また、仕様に記載されている調査項目に加えて、意見交換会への参加意識についても聴いた。

表 1-2 インタビューフローの例

区分	時間配分	調査項目	設問のポイント（例）
自己紹介	10分	（ウォーミングアップ）	家族構成、料理の頻度、食品の購入場所、外食の頻度など
導入	35分	食品の安全性に関する基礎的な知識 （消費者の懸念が大きいなど、関心や不安を持っているテーマを深掘りする）	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全に不安を覚えていることはなにか。その理由はなにか。 ・（以下の項目※3を提示の上）特に関心のあるものはなにか。その理由はなにか。 食品添加物／残留農薬／食品中に存在する汚染物質・化学物質／遺伝子組換え食品／動物用抗菌性物質（いわゆる抗生物質）／BSE（牛海綿状脳症）／食中毒（微生物、ウィルス、かび毒、自然毒）／鳥インフルエンザ／新開発食品／いわゆる健康食品／リスクコミュニケーション／リスク分析の考え方／食育 ・食育とはなにか。なにが問題となっているか。推進目標はどのようなものであるか。 ・食育が目標としている知識について、実際どの程度理解しているか。（食品の選択、必要な調理、食中毒の防止など）
展開1	10分	食品の選択方法など、食行動の現状	<ul style="list-style-type: none"> ・購入時には、どのような情報を重視して選択しているか。その理由はなにか。 ・安全性が高いと思われるものについて多少価格が割高でも購入することがあるか。 ・成分表示や生産地表示、生産方法についてはどの程度重視しているか。どの程度信頼しているか。
休憩	10分	（進行に応じ、休憩時間は適宜調整する）	

区分	時間配分	調査項目	設問のポイント（例）
展開 2	25 分	食品安全委員会、食品健康影響評価、食品の安全性に関するリスクコミュニケーション等の認知度	<ul style="list-style-type: none"> ・（食品安全委員会、食品健康影響評価、食品安全性に関するリスクコミュニケーション活動を伝える最近の新聞記事を提示の上）これらの記事を読んだことはあるか。 ・新聞以外でこれらの話題、情報に接したことがあるか。それはどのような経路か。 ・食品安全委員会とはどのような組織だと思うか。 ・食品健康影響評価とはどのような内容だと思うか。 ・リスクコミュニケーション活動とはどのような内容だと思うか。
発展 1	20 分	意見交換会への参加意識 ※4	<ul style="list-style-type: none"> ・食品安全委員会が主催する意見交換会を知っているか。出席したことはあるか。 ・（意見交換会の開催実績、プログラム例を提示の上）参加したい／したくないと思うか。その理由はなにか。 ・どのような会であれば、参加したいと思うか。 参加目的／テーマ／実施方法・形態（実施時期、開催規模、時間、プログラム）など
発展 2	10 分	食品安全委員会 HP について	<ul style="list-style-type: none"> ・（食品安全委員会の HP の例を提示の上）率直な感想はどうか。わかりやすそうか、利用しやすそうか。（もしあれば）どのように改善すればよいか。

※3：意見交換会のアンケートで提示しているテーマ区分を適用

※4：web アンケートの選択肢に準じて深掘を行なう

提示資料 1： 意見交換会のアンケートで提示している（食品安全に関する）テーマ区分

提示資料 2： 食品安全委員会の活動を伝える最近の新聞記事 [BSE の検査条件の緩和（3/2 毎日新聞、12/8 読売新聞）]

提示資料 3： 意見交換会の開催実績、プログラム例、説明資料の例（BSE のリスク評価）

提示資料 4： 食品安全委員会 HP の表示例

1.7 インタビュー結果

インタビューは、以下の日時、場所で行った。

[20代女性]

日時：平成20年3月8日 14:00-16:00

場所：三菱総研2階会議室

参加者：20代の女性（未婚）7名（表1-3参照）

ファシリテーター：三菱総研・義澤

[40代女性]

日時：平成20年3月8日 10:00-12:00

場所：三菱総研2階会議室

参加者：40代の女性（主婦）7名（表1-4参照）

ファシリテーター：三菱総研・義澤

以下に、インタビューの結果をまとめる。文中、箇条書きの記号は次の通り。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">■ （分析者の所見）➤ （具体的な発言例） |
|--|

また、具体的な発言例の文中の（ ）は分析者による補足を示す。

なお、発言例については、必ずしも正確でない内容が含まれているが基本的に発言内容どおりに記載した。

表 1-3 インタビュー参加者のプロフィール (20代女性)

参加者	属性	買い物の回数	買う場所						レトルトは買わない	スーパーやコンビニの弁当・惣菜は買わない	安全な食品を選択する	外国産は危険だと思ふ	ファーストフードは食べない	残留薬等について勉強している	賞味期限を信用しない	居住地
A	フルタイム	毎日	スーパー	コンビニ	デパートの地下	ディスカウントストア			あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	あてはまる	あてはまらない	東京都
B	フルタイム	週に4~6日	スーパー	コンビニ	個人の商店	デパートの地下	高級食料品店	ディスカウントストア	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	あてはまる	ややあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	どちらともいえない	東京都
C	フルタイム	毎日	スーパー	コンビニ	個人の商店				どちらともいえない	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	あてはまらない	ややあてはまる	あまりあてはまらない	東京都
D	学生	週に4~6日	スーパー	コンビニ	ディスカウントストア				あてはまらない	ややあてはまる	どちらともいえない	どちらともいえない	ややあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	東京都
E	学生	週に4~6日	スーパー	コンビニ					あてはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまらない	あてはまらない	ややあてはまる	東京都
F	フルタイム	週に4~6日	スーパー	コンビニ	デパートの地下				あまりあてはまらない	あてはまらない	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない	あてはまらない	あまりあてはまらない	東京都
G	フルタイム	毎日	スーパー	コンビニ	デパートの地下	高級食料品店			どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	どちらともいえない	神奈川県

表 1-4 インタビュー参加者のプロフィール (40代女性)

参加者	属性	買い物の回数	買う場所						レトルトは買わない	スーパーやコンビニの弁当・惣菜は買わない	安全な食品を選択する	外国産は危険だと思う	子供に炭酸飲料等は与えない	ファーストフードは食べない	残留薬等について勉強している	賞味期限を信用しない	居住地	子供	
			スーパー	コンビニ	ディスカウントストア													中学生	高校生
A	専業主婦	週に2~3日	スーパー	コンビニ	ディスカウントストア				あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	ややあてはまる	あてはまらない	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	神奈川県	中学生	高校生
B	パート	毎日	スーパー	コンビニ	ディスカウントストア				あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	あてはまる	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	千葉県	中学生	高校生	
C	パート	週に4~6日	スーパー						あてはまる	どちらともいえない	どちらともいえない	ややあてはまる	あまりあてはまらない	どちらともいえない	どちらともいえない	あまりあてはまらない	神奈川県	幼稚園・保育園	小学生
D	パート	毎日	スーパー	コンビニ	個人の商店	デパートの地下	高級食料品店	ディスカウントストア	ややあてはまる	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	どちらともいえない	どちらともいえない	ややあてはまる	どちらともいえない	東京都	中学生	高校生
E	専業主婦	毎日	スーパー	個人の商店	デパートの地下	ディスカウントストア			どちらともいえない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	あてはまる	どちらともいえない	東京都	中学生	高校生
F	専業主婦	週に4~6日	スーパー	コンビニ					あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	埼玉県	中学生	
G	専業主婦	週に4~6日	スーパー	コンビニ	個人の商店	デパートの地下			どちらともいえない	どちらともいえない	ややあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	どちらともいえない	東京都	小学生	中学生

1.7.1 20代女性

(1) 食生活について

■ 食生活について

- 作ったり作らなかつたりして。ひとり暮らしなので疲れたときは作らないんですけど、でもなるべくあまり栄養が偏らないように自分で作るようにはしています。
- ひとり暮らしなので、できるだけ節約して、きのうはお昼は会社の近くで食べたり、お弁当を買いにいったりして、自分で手がけたものではないんですけど、夜は節約を含めて一応自分で作ったのをと思って（自炊するようにしている）
- 不規則で朝が遅くて残業が多くて、平日はほとんどパンとかコンビニの弁当で。会社の残業のときとかも（外食している）。
- 食生活は大体お昼御飯は学食で食べていて、（略）いつもは朝御飯と夕御飯は自分でつくって食べています。
- 大学3年生で、今、就活とアルバイトとかで忙しくてまともに御飯を食べていなくて、ひとり暮らしなんですけど、きのうも朝食食べないで、昼はミスドで二つ食べて、夜はファーストフードでアップルパイを食べてというすごいヤンキーな生活なんですけど、買い物はたまに近くのスーパーで野菜とか買ってサラダをつくったりするんですけども、余り、最近調理してなくて、実は今日は朝も昼も食べていない状態
- 昼はでき合いのものを買うか、あとはちょっと、体重が本当にかかなりふえているので、それを気づかって自分でつくるときもあるんですけど、前日が大体飲み明かすと弁当を買うという形です。
- きのおのお昼はファーストフードを食べて、夕飯はサラダとパンを買って帰って食べました。ひとり暮らしで自分で食事をつくっているんですけども、キッチン周りが汚れるのが嫌なので揚げ物とか蒸し物は大体デパ地下とかスーパーで買って、ゆでたりとか生野菜とかは自分でつくるようにして食べています。

(2) 食育の認知

- 「食育」という言葉は一般的に認知されているが、その意味については食生活の改善と受け取られている。また、生活全体を見直すなどの精神論も認識されている。マスメディアに加えて、高校や大学の授業などからも知識を得ている
- 余り知識はないんですけど、やっぱり食事をきちんととるとか、家族そろって食事をするとか、何か食事が楽しくできる環境とか、そういうイメージがあるんですけど。
- （食育は）雑誌だったり、テレビだったり新聞で見たことが（ある）。
- 私は余り知識はないんですけど、だからどちらかというと食生活の見直しじゃないで

すけど、もう一回考えてみていて、余り考えないで毎日を送っちゃうのをもう一回見直すという形で皆で考える、そんなのでイメージがあります。

- 私もテレビや雑誌や、あと、大学で教員免許を取っているのですが、そういう関係はたしか、そういうちょっとしたことを聞いた気もするんですけども、学校でも食育を始めていて、親御さんにも朝をちゃんと食べさせてあげるという習慣をつけたりとか、あと、何をなくしたりとか、朝御飯をしっかり、栄養バランスの方のいいやつをとらせるという、親にも何かそういう通知をしていくべきだという授業を受けた気がします
- 孤独の食事の孤食だったり、個々の食事の個食だったりをなくそうということは家庭科の授業で高校生のときにやったのと、あとは子育てで体をつくるのは食事なんだよということを、子供自身だったり親だったりにわからせるようなことを食育なのかなというふうに。
- 私はテレビとかメディアでよく耳にするキーワードで、多分、最初は最近の子供の食生活がちょっとヤバイみたいのところから派生して行って、でもそれがどんどん子供に対してだけでなく、もっと全体的な、大人を含めてもっと食生活のあり方をよく考えてみるべきみたいな、そういうことを含めて言っている（というイメージ）
- 知識はないんですけど、小さいころから食事を通して何か個食をなくしたりとか、食事の質の改善、加工食品をとらないとか、そういう子供のころから体にいい食事をとろうみたいな、何か食事を通して成長していこうみたいな（イメージ）

(3) 食の安全として心がけていること、問題と思っていること

■ 食中毒の予防については、食器やまな板の除菌に気をつけている

- 食材をよく洗うということですね。（略）あと、食器とまな板とかおなべとか、そういうものもちゃんときれいにするようにはしています。
- 一応清潔を保つという点で食器をきれいに洗ったり、まな板と包丁は私は魚と肉とかに分けてはいけないんですけど、一応除菌とかを必ず一回一回して。
- ふだん料理するときには、まな板は一つしか持っていないので野菜を切ってから肉や魚を切るようにしたり、あとは友だちがいっぱい集まってなべをしたりする機会があるので、そのときには肉を切るまな板として牛乳パックを開いたものを洗って乾かして、それを使っています。
- （肉を切るまな板として牛乳パックを使うのは）（高校の）授業でやったので、それは便利だったので、そのまま捨てられるので使って。
- （肉を切るまな板として牛乳パックを使うのは）母がやっていて、魚とかって、結構、においがまな板についてしまったりするので、そういうにおいの強いものはそういうもので切ると、使って、もうすぐ捨てられるので便利だと。
- 私は大腸菌の話とか聞くとギクッとするんですけど、全然加熱すればいいや精神で何

も分けてないですし、切るときもこのままで食べちゃうとか焼いちゃうんだったらと思って、お肉、切った後に野菜切ったりとか普通にしています

- 包丁は肉・野菜とか果物とかで分けて持っているんですけど、まな板が一つしかないのので、最初に野菜を切って生物を切ってから肉か魚を使う、そのために使うという感じで、使い終わった後は熱湯消毒の後に、洗剤で除菌するという感じですね。

■ 食の安全についての情報はメディアや店頭に加えて親や学校の授業から得ている

- 食材を買うときに着色料はすごい気にして、小さいころから親に言われていて、色のついているものを買わないとかは気にしています
- 着色料も高校のときに習ったときは、いろいろこれはやばいとか思ったんですけど、最近はまだ食べればいいやと思って何も気にしていませんね。
- 添加物でソルビン酸とか、そういう何とか酸とかが発がん性があるとか、着色用の何号とかでも、中学でも習いましたし、高校でも習ったんですけど、習いたてのころというのはやっぱり何か食べ過ぎたらがんになるんだと思うと、(略) 何も買えなくなっちゃうなど。
- (肉を切るまな板として牛乳パックを使うのは) (高校の) 授業でやったので、それは便利だったので、そのまま捨てられるので使って。
- (肉を切るまな板として牛乳パックを使うのは) 母がやっていて、魚とかって、結構、においがまな板についてしまったりするので、そういうにおいの強いものはそういうもので切ると、使って、もうすぐ捨てられるので便利だと。
- 何かモヤシとかはとりあえずは特定のモヤシを買っておけば問題ないのかな。浅はかなのでとりあえずそれしか買わないというのはあるんですけど、あとは野菜だとかどこ産と必ず書いてあるじゃないですか。そういうので見ているので、多分、中には混ざっているものとかも、正直、あるかもしれない。ただ、野菜よりはお肉とかというのも結構いろいろ外国産とか出ているんですけど、とりあえず国産を買った方がいいのかなという考え方があって買っています。
- 海外に一回住んでいたときがあって、そのときに異常に中国産の八百屋さんというんですか、が値段が全然安いです。スーパーに比べて値段が全然安くて、ニンニクとかも普通のスーパーで買うとこのぐらいしか買えないのに、そのスーパーで買うと山で買えるというか、その印象が強くて。(略) あと、やっぱり扱いというか、その八百屋さんだけなのかもしれないんですけど、そこに置くまでに、置いてあるところというのが本当に清潔ではなかったですね。倉庫みたいなところが見えていたんですけど、下におっこつたりとかして、畑に生えている泥がついているのかなと思っていたら、それを普通に飛ばしている姿を見ちゃったので。
- 特に中国産は買って料理をしたりすると友達がすごい、異常に嫌がるんですね。
- 大体やっぱりテレビが一番大きくて、その次に店頭。(略) ポップみたいな(もので)

何かやっぱり売り場の担当者の写真がついていて、そのコメントが載っていたりとか、野菜だどつくっている担当者の顔がついていたりとか、そういうのを見て。(略) 安心できて買えるかなとか。

■ 生産者の顔が見える食品は安心

- ポップみたいな（もので）何かやっぱり売り場の担当者の写真がついていて、そのコメントが載っていたりとか、野菜だどつくっている担当者の顔がついていたりとか、そういうのを見て。(略) 安心できて買えるかなとか。

■ なるべく国産を買う。中国産は避ける

- 何か気にするといえば例えば国産のものだけを買おうとはしているんですけど、多分、外食とかするときには国産だけではないと思うので、家で料理するときにはもう国産のみしか買わないです。
- 私も中国産とかはなるべく買わないようにして、主に肉だけなんですけど国産を必ず買うようにと思っています。
- 今の残留農薬ですけど、今、中国産ギョーザで、最初、農薬だと言われていたときにテレビで取材をしていて、ギョーザじゃなくて野菜が売られていて、もう何か物すごい残留農薬があるという前提で中国で売られているんですね。それをどうやって調理するんだらうということになって、家庭まで取材に行ってたんですけど、そうしたらスーパーの、普通に、例えば洗濯とか食器の洗剤コーナーに野菜を洗う用の洗剤が置いてあって、これも、だから買って帰るんだよと行って、帰ったらまずすごく大きい樽に全部野菜をつけて、そこに洗剤を入れてゴシゴシ、何か洗濯物でもするぐらいの勢いで洗ってやっているから大丈夫だろうと。だから何かもう全然世界が違うから、日本で同じようなことってあり得ないですから、何かそこも違うんだなと。同じように考えてはだめだなという、野菜を買ってきて水でサッと洗って使うという使い方をするのではやっぱりだめなんだという、中国産の。

■ 親や学校の授業の影響で無添加が良いと考えているが、現実には添加物も受け入れざるを得ないとの認識

- 食材を買うときに着色料はすごい気にして、小さいころから親に言われていて、色のついているものを買わないとかは気にして、今、もう外食は多いんですけど、明らかに添加物が入っていきそうなものとか、着色していきなものというのは余り避けて。
- 魚介類とかって、結構、着色しているものとか多いじゃないですか。イクラとかタラコとか。結構、調理しても色をつけているものってわかるので、余りついているものは食べないですね。
- 着色料も高校のときに習ったときはやっぱりパンの中身から見て、いろいろこれはや

ばいとか思ったんですけど、最近はまだ食べればいいやと思って何も気にしていませんね。

- 添加物でソルビン酸とか、そういう何とか酸とかが発がん性があるとか、着色用の何号とかでも、中学でも習いましたし、高校でも習ったんですけど、習いたてのころというのはやっぱり何か食べ過ぎたらがんになるんだと思うと、そうすると、でもソーセージとかを見ると絶対入っているし、ハムも絶対入っているのも何も買えなくなっちゃうなど。ただ、最初は気をつけるんですけど、だんだん見て入っているなと確認してもしょうがないやと買っちゃいます。
- 添加物もマイナス面だけで入っているわけじゃなくて、やっぱりその分、腐るのが遅かったりだとかするのが遅かったりだとかというのもあるので、しょうがないなと思いつつながら。
- 消費期限に絡む話だとちょっと違うんですけど、プリンとかを買おうと思ってたままに賞味期限とかが3カ月先とかのやつがあるんです。そういうのは逆に怖くなっちゃって、何が入って、保存料とかが入っているんですけど、何かプリンとか、お昼に買って、今、食べると思っているやつで1カ月以上賞味期限があるというのを買うのもどうかと。(略) そういうのは短い方がいいかなと。新鮮な感じが。

■ 賞味期限については風味は落ちるが食べられる、との認識。消費期限については痛みを懸念するが期限切れ数日であればおい等を確認して食べるとの認識

- 賞味期限は2日ぐらいで、消費期限は半日か1日ぐらいですね。
- 賞味期限は、結構、私もゆるくて、3~4日。物にもよりますけど。乳製品とかだと1日、2日ですけど、何か自分の判断で大丈夫だろうと4日ぐらいちょっと見たり。消費期限はできるだけ（早く使う）。
- 冷凍している場合だと1カ月ぐらい先でも平気で、冷蔵庫に入れていたものだと味とか見た目を見て自分で判断するので、その状態により、匂ったりとかちょっと味をみていて大丈夫そうだったら3~4日過ぎてても飲んじゃったり食べちゃうときもあるし、ちょっとやめておこうかなと思うとそのまま、早くても捨てたり。
- ほとんど気にしないで、賞味期限があってないようなものはもう全然幾ら過ぎていようが、においをかいでみたりとかして大丈夫そうなら使いますし、唯一気にするものは牛乳くらいかな。ちょっと過ぎていたら、大丈夫そうだなと思ったら暖めたりとか。
- 何も気にしてなくて、牛乳だったら膜が張れば飲めると思っているんで、1週間ぐらい過ぎていても普通に。(略) あと、しょうゆとかソースとかってなかなか減らなくて、絶対、賞味期限切れるんですけど、1カ月、2カ月、3カ月ぐらいは全然。あと、小麦粉とかも、多分、今の半年ぐらい切れているんですけど、ちゃんと暗くて暑くないところにしまってあるからいいやと思って普通に使ってますし、プリンとかも結構2~3日過ぎていても全然食べて。

- 私は未開封だったら3～4日、賞味期限は大丈夫なんですけど、一回あけちゃうとやっぱり守りますね、怖いので。消費期限は必ず守ります。

■ BSEについては、米国産牛肉への不安感はかなり払拭されてきている

- 逆にこれだけ言われている中で売っているものだから、検査とかしっかりしていて今は大丈夫かなと逆に思うこともあります。
- (私も) ほぼ同じ。お値段を見て手ごろであればまあまあいいかとか。
- この前、友達と鍋したんですけど、多分、別に何も思わず(米国産を)買ったと思います。安いものを買ったと。
- 外食に行ったら、多分、入っている、食べていると思うんですけど、自分で調理するときはなるべく国産にしようかなという感じで。
- 多分、(米国産は) 余り心配はしてないんですけど、とりあえず国産を買っておけばいいかなという、ただそれだけです。
- 米国産だけは控えています。(略) ちゃんと検査していないみたいなのでちょっと。
- オーストラリア産か国産しか売っていないので、できるだけ国産を心がけていて、でもちょっと安く済ませたいときはオーストラリア。(米国産が売られていたら) よく売れているようであれば買う、多分全然売れてない感じだったら買わないという感じですか。

■ 遺伝子組み換えについては、何が問題となっているかわからないという素朴な疑問を持っている

- この食品は遺伝子組み換えではありませんと書いてあるお菓子とかは見たことあるんですけど、別に遺伝子組み換えですと書いてあるものはないから、それを食べたときに何が自分の中に異変が起こるのかがよくわからなくて。

■ 健康食品、サプリメントはよく利用してる

- マルチビタミンだったり、あとはコラーゲンとかヒアルロン酸とか、美容系です。
- 美容系だとビタミンCみたいなものをとったりとか、あと、美白のものをとったりとか、あとはもう疲れたときはビタミンの錠剤を飲んだりとか、そういう形でくる。あと亜鉛です。鉄とか亜鉛とか
- 私は毎日、ビタミンCと、あと、鉄分のカプセルみたいなやつを飲んでます。
- 以前はビタミンAをとっていたんですけど、今は、むくみ、血流をよくするようなもの。
- 毎日でないのはビタミンとか鉄分をとっているんですけど、毎日クロレラ。
- 私はビタミン(C)だけ(を毎日とっている)
- 私もビタミンBとC・Dをとっています。

- 昔、コエンザイムQ10 がはやったときに、あれはもともと心臓の薬なので飲み過ぎると高血圧になるといううわさを聞いてやめました。
- サプリメントじゃないんですけど、にがりもはやりましたよね。あれもすごいやせたんですけど、それもやっぱりよくないとなってやめました。
- 周りがすごくはやると自分も乗らなきゃというのがあって一生懸命とったんですけど（略）あと、やっぱりテレビ番組とかの影響にもよって左右されて。

(4) BSEに関する報道と意見交換会での説明について

■ BSE 関連記事についてはテレビ報道の印象が残る

- テレビのニュースで聞いたことがあります。（7名中、3名）
- BSE に関する意見交換会の説明資料は、専門用語が多く前提知識もないのでわかりにくい、誰に何を伝えようとしているのかわからない、との評価
- 専門用語が多い。例えば、スタニング、ピッシングなど（がわからない）。
 - 全体的にやっているこの問題に対して理解がある前時点も少なく（わからない）。
 - （どこがわからないかも）言えないぐらい、もう本当にとにかく自分向けじゃないという、その道の人向きじゃないかと。
 - （知りたいのは）実際に、今、現状を、この問題ってすごい何年も前からありますよね。現状、どういうところまで来ていて、今、流通されているものがどういう根拠に、前提とか、何か大まかでいいから、実際、自分の生活に照らし合わせたときにスーパーでどういうところを気をつけたらいいかとかというのが知りたいけれども、ちょっとそれを知りたいと思ってみると余りにもかけ離れて。
 - （誰に何を）見せるというか、受けてほしい相手にどうなってほしいの、（そういう意図がわからない）というような感じがすごいあって、検査法でもエライザ法とかPCR法とか、この検査が何を目的にやられているのかわからない人にとっては検査結果がどうだったと言われても、ああ、そうなのとしか言いようがないと思うし、SRMとかいうのも、結局、何だかわからないまま、これがいけないものなのねという事柄がわかったとしても日常生活の役に立つのかと言われると立たないような気がしますね。
 - 一般の人に見せたいのであれば何で問題なのか、火を通せば食べていいの。そんなはずないよねとか、何でなんだろうみたい、そのぐらいので十分じゃないのかなと。
 - 皆さんと同じで、誰に向けたものなのかわからないという点と、例えば言葉が難し過ぎて、この資料でもイラストとかも少ないので、やっぱり知識がない人はわかりにくくて見にくいなという、何か文字ばかり見ているのは読む気がしないという感じを受けてしまうので、何かもっとわかりやすい言葉で、かつ、生活の身近なことに対し

でのアピールが、こういうことをしていますじゃなくて、こういうことを気をつけた方がいとか、そういう知識をくれるといいかな。

(5) 意見交換会への参加について

- 意見交換会への参加は、身近でない、専門的過ぎる、誰に何を伝えようとしているのかわからない、参加するメリットが見えないなどの理由で消極的
- 多分、(参加しない。) 全然興味がない。
- 私は学部もあって割と興味があるよなという気がするんですけど、食品安全フォーラムも聞いたことがあるので、何かで見たことがあるんじゃないかなと思うんですけど、このホームページ(参加募集のホームページ)を見たときに何か自分が行っていいのかなって、本当にそういう専門家じゃないと行っちゃだめなのかなというのが印象で受けるのと、あとは専門用語まで行かなくても、例えば9月3日のところで放射線照射食品と言われたって、放射線が食品に当たっていると普通は思わないじゃないですか。でも実はジャガイモが芽が出ないように放射線を日本でも当てることは認められているとか、そういうのは一般の人はわからないと思うので、本当、一般にも広報するのであれば実はジャガイモって放射線を浴びせられているとかいうの、そんなようなので広報すれば興味がわくのではないかと思います。
- 食品のこういう問題に関してはすごい興味があるんですけど、行くのが面倒くさい。もし結婚して子供ができたら子供のためにこういう食品の鉛とか、そういうのがだめというのを、体に悪いとなると何かわかるので、どう対策したらいいのかというのでこういうのに行きたいなと思うようになると思うんですけども
- やっぱり講演に行ってもまさにパワポでつくりました的な、大学の授業を思い出すんですけど。これを学びたい人じゃないと、まさに学ぶという感じです。これはもう教えてもらって、学んで研究をしたい人向きじゃないかぐらいに、まず例えばSRMというやつもわからないし、だからそれは研究したいというか、そういう知識をつけたい人じゃないですけど、(略) これに出て何のメリットがあるのかわからない。自分たちが実際聞きたいのは生活に密着したBSEの情報なのに、これはBSE本体の研究というか、対策法とか、科学的なんチャラみたいな、これを知ったところで、じゃどうしよう。
- 率直な感じなんですけど、食品安全委員会はこんな活動をしていますというのをアピールしているような感じにしか思えないので、何か私は個人的な感じになるかもしれないんですけど、見て学ぶというより、こんな活動をしているんですよと訴えているようにしか見えなくて、だれも対象になっていない気がするので、これを見ても別に安全が保証されているというわけでもなければ、結局、ことが起こってからどうしようかという問題じゃないかなと思うので、やっぱり行って何のメリットもない。時間

を費やしてみても、これだけやっても問題は起こるわけじゃないですか。

(6) 食品安全委員会のホームページについて

- 食品安全委員会の HP の印象も同様に、言葉が多く見づらい、一般の人に何を伝えようとしているのかわからない、自分の関心に対応した入口がないなどの理由により、利用しにくいと感じる
- 見にくいですね。下の一覧でダーッととなっているのも全部リンクになってしまっているので、字がすごい密集していて、何に関するというのは全部細かく見ていかないといけないのが結構見にくいので、パッと見た瞬間に面倒くさそうだなと思って見るのをやめてしまいそう。
- 映像配信という項目が右側にあるんですけども、これなんかちょっとおもしろそうだなと思って、遺伝子組みかえ、私もよくわかっていないところがあるので。これは動画とかで見れるんですね。(略) これは一般に向けて簡単に説明とかしているような感じの動画なんですか。(そうだというと思う)(略) もうちょっと何かイラストを、何か子供とお母さんが一緒に見たりして、何だろうねみたいな感じで、本当、ここにそういうのが、そういうコンテンツがあって、気軽に見えそうな感じにしないと(略) だからせつかくそういう、もしコンテンツがあるならば、もうちょっと場がこういうふうをクリックしやすいようにリンクしてあってもいいかなと。
- この映像配信もこういう文章で送るのではなくて、よく料理とか、そういうホームページを開くと映像が勝手に流れていますよね。ああいう感じでアジの開きが載っているところに動画が、配信できる動画みたいなやつをどんどん流していってくれればもうちょっといいのではないかなと。
- 一般の消費者とかをターゲットにするのであれば、この一番メインにしている部分というのが委員会とか、そういうところがすごい大きいじゃないですか。一般人がパッと見たらすごくかたくて難しく感じてしまうので、そういう一般消費者をターゲットにするのであれば衣食住、食中毒のこととか、日常生活でどう改善したらいいのとか、対策とかを見せないとすごくわかりにくいし、難しいと思う
- 大学のホームページだって、今、一般の方向けと在校生と受験生とか、カテゴリーになっていて、そこから探していくので、例えばこれも一般の方なのか委員会なのか、そういう業界の方なのか、そういう最初は(入口を分けたほうが良い)。
- 入り口の部分にあって、そこをまず対象を別々にしていかないと、これでは何だかよくわからないとなって、多分、これを見るというのは自分が探したい情報があるから行くので、多分、本当にリンク先に何かネットサーフィンとかしていて、ここに行こうと思わないので、本当に情報が欲しいときに探すときにこれを見てどこに自分の探したい情報があるのかがよくわからなくて、下の方に分野別情報とあるんですけど、

果たしてここに行ったら、例えばノロウイルスにかかると。それで何か知りたい、どう対処すればいいのか知りたいとかいうときに分野別情報のこれのかび毒・自然毒なのか、何を探したら対処法だったり原因だったりとかがわかるのかわからないという、キーワードを別とかになっていて、食中毒とか、そういうもっとわかりやすいキーワード別、キーワード検索だったり、キーワード別だったりのコンテンツみたいなのがあってもいいのかなと。探しにくい、情報が、これだと。

1.7.2 40代女性

(1) 食育についての認知

- 「食育」という言葉は一般的に認知されているが、その意味についてはスローフード志向とあいまって“ジャンク、ファーストフードではなく、手作りの無添加のものを食べる”と受け取られている
- 大分前から食育という言葉は聞いたことはあって、実際、世の中でどういう動きがあるかというのを具体的に自分でアクセスとしたことがないのでわからないんですけど(略)何か学校でいろんな食育のことを教えてあげたりとか、築地の市場の方々が集まってやっているということ、あるんだなというところを認識している程度
- 食育という言葉がよくインターネットですとかテレビですとか、よく見るんですけども、その意味まではそんなに見たりはしていないんですけども、やっぱり食事が大事だということが言いたいのかなということで、(略)ちゃんと食事をきちんと食べさせていけば子供は曲がらないよみたいなことを言われたので、それも食育なのかなと
- たしか私が住んでいる市の方でこの食育を推進されていると思うんですね。それでここ2～3年はよく耳にしまして
- 小学校の方でボランティアの父兄が朝御飯を学校でつくられている記事を読んだこともありまして、要は朝御飯をきちんととっていない子供が多い。そこから切れやすい子供が発生して学級崩壊という話をよく目にしました。
- 娘たちが小学校のころに食育というテーマじゃなくて、総合学習の時間に添加物がどれだけ悪いかという感じで手づくりおやつということでお母さんたちが提供して子供たちをグループに分けてそれについて語った授業というのがあったんです。(略)いろいろ入っていない手づくりのマドレーヌだったり、そういうのを使って、何でこれがいいのかというような、買ってきたものとの違いとか、お母さんたちが先生ではなく講義をした
- 食育の関係だったのかちょっと思い出せないんですけど(略)学校で近くの農家と契約していて一学年に1つのテーマがあって、何か一年通して農作物をつくるんですね。大豆をつくったときは、それをおみそにして、次の年に年越しておみそ汁を給食のときに食べるとか、(略)多分、ボランティアだと思うんですけど、協力して自分たちで育てたものを食べるという教科があったように思う

- 食べ物を通して生き方を見直す、といった精神論としても認識されている
- 食育って私のイメージなんですけど、栄養とか添加物がどうか、そういうことではなくて、恐らく精神的な部分を言ってるんじゃないのかと思うんです。

- 食育って、もう言葉の感じどおりで食べ物を通して生きる力を身につけていきましようという、家庭のあり方を見直しましょう、社会のあり方を見直しましょうということだと受けとめています。
- 食の大切さを通して社会のあり方、早寝早起き朝御飯の提唱もそういう食育の一つですし、30品目とって体のバランスを、体を動かすこと、日に当たること、コミュニケーションを取ること、そういうことも全部食育の中に含まれているんだということ

(2) 食育として心がけていること、問題とされていること

■ ファーストフードにより、本来の自然の味を忘れていることが問題

- 結局、忙しいとおなかを満たすためにとりあえず食べていてみたいなもので、そういった（ファーストフードなど）簡単なものとかをやっぱりバンバン与えちゃっているんで、子供がやはり、例えばイチゴをそのまま食べないというか、酸っぱくて嫌だという言い方をしたんですね。本来の（イチゴの味は）酸っぱいは酸っぱいけど甘くてイチゴでおいしいよというふうに言っても酸っぱくて嫌だって。好きなのに受けつけなかったりするんで、ちょっと失敗したなと思った

■ 子供が外でジャンクフードを食べたがることを食の安全の問題として懸念

- 外食はやっぱり中学生の娘がジャンクフードが、今、すごく好きで好きで、カップラーメンは食べたい、ファーストフードも行きたい、そういうのをやっぱりお友達とかとそういう外食がしたい。（略）親は楽なんですけど、やっぱりいろんな不祥事が今までもありましたし、今回のギョーザ事件もありましたし、カップラーメンとかも結婚して子供を産むまではだめだよというふうに教えてきたにもかかわらず、お友達の輪が広がれば広がるほど崩れていくものなので、どうやって食の安全を教えていけばいいのかなと思っています。

■ 子供の偏食への懸念

- 上の（高校生の）子は特に野菜も食べないですから、やっぱり男の子ですけど余りお通じもよくないようですし、しょっちゅう口内炎とかつくっているようなので、この間もちょっと薬局に行ったらビタミン剤を飲んでみなさいなんて言われて、そういうのに、結局、頼る羽目になったりとか、よくないなどは感じていた

■ 普段の日常会話で食に関する知識を教えるのが食育

- ふだんの家庭生活の中でも、このお魚の産地がどこだとか、これは季節のものだとか、そういうことを日常の会話に乗せていることがやっぱり食育かなと思ったりします

(3) 食の安全について、リスクに関する認識

■ 食の安全についての情報は子育ての時期に友達や親から仕入れた

- 情報を誰から仕入れるかという部分でいうとやっぱり子育てをし始めたときの同世代のお友達、子供におやつを手づくりするときの情報とか、そういうのはものすごくお友達に助けられた気がして
- 私は今、最近すごく思うのが母の影響が強いなというのがありまして、確かに妊娠したときに保健所の母親学級で栄養のバランスの大切さなどを教えてもらったあたりから始まっていると思うんです。(略) やはりお友達との情報交換などから頑張っって勉強し始めていったんですけれども、(略) ふと気づくとすごく母の影響を自分の中で感じる場所があって、うちの母はレトルト食品とか絶対使わない人で、冷凍食品も絶対使わない人で、だから自分が母親になると何てすごいお母さんなんだろうと今になると本当に尊敬するんですけれども、私はやっぱりちょうど中間点にいるというか、やっぱりお弁当にちょっと足りないすき間に冷凍食品を使うことはあるんです。あるんですけれども、でも極力使わないようにしている自分の価値観は子供のときからなのかなと思っています。

■ 食の安全についての情報は学校の授業などの影響も受けている

- 娘たちが小学校のころに食育というテーマじゃなくて、総合学習の時間に添加物がどれだけ悪いかという感じで手づくりおやつということでお母さんたちが提供して子供たちをグループに分けてそれについて語った授業というのがあったんです。

■ 食中毒の予防については、特に夏場の保存方法や生肉の扱い、子供への教育など、さまざまに工夫している

- ブロッコリーとか、(略) 野菜はよくきちんと洗うんですけど、洗ってすぐ保存するのではなくて(痛まないように)きちんと水気を切ってから保存するというのがあります。
- 子供たちには自分を信じろと、母を信じるなといつも言っています。特にお弁当なんですけど、食べようと思ってあけたら目で見て、においをかいで、だめならやめなさいと。
- 夏は食中毒が心配なので、(略) 炊く御飯に梅干を一つ入れると腐りにくいという話なので、それはします。
- お弁当に保冷材も入れますけど、心配なのでブロッコリーとか切干はつくったのを急速冷凍しておいて、それをそのまま、凍ったまま入れると保冷材効果も出るもので、夏場は特にそう。
- 最近はお友達が牛乳パックをまな板がわりにして、それでお肉とかを切ったらもうそ

のまま捨てちゃうという感じにして、そうすれば菌がそんなにつかないと思ったので、昔はリサイクルしてたんですけど今はもう牛乳パックは必ず取っておいて、もうまな板がわりに使って、お肉を切ったらその都度捨てたりとか。

- まな板をきれいに保つのが難しい性格なので、宣伝でまな板のばい菌と見たときに、うちはあれだとか思って、それで何年か前からやはり牛乳パックをまな板がわりにするようにして、野菜とかはそのまな板で切るんですけど、肉・魚は牛乳パックと決まっています

■ 生産者の顔が見える食品は安心

- すごくこだわってるわけではないんですけど、畑の隣に住んでいる方がつくってる畑なので、そんなに死ぬほどの農薬はかけてないだろうと信じて食べています。
- お米の方は父方の親戚が新潟で農家をしていますので、やはりこれもさっきと同じ道理で自分たちも食べているお米だから安心ということで、まとめ買いをして自宅で精米して食べています。

■ 外食、輸入食品、加工食品は「何が入っているかわからない」ので不安

- やはり今の報道等で外食産業の輸入食品に対するものだとか、あと、加工食品に何が入っているかわからないということの不安はある

■ 無添加が良いと考えているが、現実には添加物も受け入れざるを得ないとの認識

- (学校の授業で添加物がないお菓子をつくった) お母さんたちはそういう(添加物は悪者という)話し方でしたね。もともと授業で、例えばコーラだったら砂糖が何杯入っているとか、そういうことを子どもたちは聞いていて、ちょっとその授業だったので、添加物は悪者としての扱いだったと思います。(略)ですから材料にしても、きっと添加物がないと買ってきて、もしかしたら入っているかもしれないわけですから、そこまで厳密に言うと全く無添加のものというのは食べていないのではないかというような気もするので、気の持ちようといえは気の持ちようなのかもしれないんですけど。

■ 食中毒については、生卵、生魚、生肉の扱いに配慮している

- 卵で一時期サルモネラ菌ってありましたね。あれから生卵が食べられなくなったというのは、ちょうど子供が赤ん坊だったころだったので、それから生卵とか半熟でとか出さなくなった(略)中心の温度が何度で1分とか2分とかありますよね。それをすごく気にするようにはなりました。(略)(きっかけは)報道だけだったんですけど、何だかとても気になってしまって。
- うちも子供が5歳ぐらいのときに腹痛と高熱でひきつけまで起こして、それすごい

下痢が続いて、それで便を調べたら鳥か何かの種類の菌が出てきたということで、やっぱり鶏肉とか卵を触ったその菌じゃないかとお医者さんに言われたんですね。やっぱりそれから鶏肉をまな板で切った後に本当によく洗ったりですとか、(略)卵を触ったら必ず手を洗いなさいというのはすごく言っていますね。

- 最近はお友達が牛乳パックをまな板がわりにして、それでお肉とかを切ったらもうそのまま捨てちゃうという感じにして、そうすれば菌がそんなにつかないと思ったので、昔はリサイクルしてたんですけど今はもう牛乳パックは必ず取っておいて、もうまな板がわりに使って、お肉を切ったらその都度捨てたりとか。
- まな板をきれいに保つのが難しい性格なので、宣伝でまな板のばい菌と見たときに、うちはあれだとか思って、それで何年か前からやはり牛乳パックをまな板がわりにするようにして、野菜とかはそのまままな板で切るんですけど、肉・魚は牛乳パックと決まっています

■ 賞味期限については風味は落ちるが食べられる、との認識。消費期限については痛みを懸念するが期限切れ数日であればおい等を確認して食べる、との認識

- 賞味期限はもう味が落ちるんだよとあって、でもまだ食べられるとあって、結構、賞味期限は切れても子供たちにも食べさせていますし、(略)やはり新聞で賞味期限で捨てるのはもったいないという記事も読んで、もう賞味期限が切れてもぼんと牛乳を出したときにおかしかったら、においかいだりしておかしかったら飲むのをやめなさいと言うんですけど、それ以外はうちは賞味期限切れているのは当たり前という状態。(略)ただ、消費期限のときはちょっと心配になるので、なるべく消費期限内には使い切ろうとは思いますが、また、切れていてもおいをかいたりとか、それで確認して使うようにはしています。
- 賞味期限はおいしく食べられる期限だから、それを過ぎたらちょっとまずいかもよという程度の感覚。あと、消費期限についてもうちの下の子なんかは上手なので、(略)消費期限過ぎてるかもよと言ったら、3日だからまだ大丈夫とあって食べてしまうんですね。だから自分の鼻と口で判断して食べれるかどうかというふうにしている部分があつて

■ BSEについては米国産牛肉の購入をいまも躊躇。食卓になくても困らない

- やっぱりあの問題が上ったときのアメリカの対応が、どうしてそんなに日本人はこんなにうるさいんだという対応をしたように私は見受けられたんですね。そうするとやはり安くても、あと、もともとそれほど食べないというのものもあるんですけど、(略)使わなくなったらなつたで特に食事で困るようなことがなかったの、そのまま先入観が変えられることもないままというのが今の我が家の食卓の現状です。

■ 中国からの輸入食品を懸念。特に残留農薬

- 昔から中国は土壌が汚染されているから中国のものは良くないと言われながらも、うちはニンニクが好きで、中国のニンニクはネット売りですごい安く出ているのでよく愛用していたんですけど、皆、食べているだろうしとか、毒は入っていないだろうくらいに思っていたんですけど、やはりこの残留農薬のちょうど事件があってからちょっと今、中国のネット売りをあきらめて、青森産のこれとこれ、同じ値段でこれ三つという感じで買ってやっています
- もう昔から単純に中国の土壌はすごい汚染されていると。北京を見てもあれだなと思ったりしていたので、そこにもってきて農薬の話が出て、やはりその中にどれだけのものがあるかというのを思ったときに、やはり中国のあれはちょっとななんて思うようになった。
- 今はやはりモヤシが、だから食べれなくなっちゃって、日本でつくったモヤシでも大豆は中国産と書いてあるから、何となく今だめ。
- ほかのものを（中国産かどうか）一応チェックするけど、材料の中に中国産が入ってもわからないなというのはやっぱりいっぱいあるので、入ってきちゃうのは入ってきちゃうんだなと。
- 以前はよくモヤシを食べていたんですけど、どうしても中国と目にしただけでモヤシ離れを、今しているところなんです。
- 私も知らないで（モヤシを）買ってきて、家に帰ってきて裏を見たら中国と書いてあったので、もうそのままゴミ箱にいれたんですよ。
- おじがウーロン茶は中国産だから、あんなものは飲まないという人だったんですけど。

■ 遺伝子組み換えについては、漠然と悪いものと考えている

- 遺伝子組み換えなしというのを見るといいような気がして、だから私の中で遺伝子組み換えは悪いんだということにはなっていて、実際、何が悪いのか、体に取り入れてどうなっちゃうのか、自分の遺伝子に変化が起きちゃうのかしらとか、その辺まで全然知らないで、単に遺伝子組み換えでないと謳われると、じゃいいのかなという程度のことだったので、ちょっとその遺伝子組み換えもわからないなというのがありました。

■ 表示の偽装については強い不信感

- 私は総合的にいって日本の全部がこういう（食品の安全の）ことすべてに対して全く信用できない国だと思っているんですね。表示の仕方とかもコロコロ変わりますし、情報の開示もいかげんだったり、すべてに関して偽装だったりとかごまかしで、お役所仕事みたいところが絡んでくると思うんですよ。
- 貝。アサリとかシジミとか。国産と書いてあっても稚貝を入れてきて、国内で育てて

そこから入れれば国産とつくんだと聞いたら、何かもうどれを信じていいかわからないので、先ほどおっしゃったみたいに別に食べなくても食卓的に気にしないと思えばまあいいかという感じ

- ちょっと日本に対する怒りがあるのと、妥協していいかというのは、そこそこで暮らしているのでそんなに深く突き詰めて私はこうですという意見はないんですけど、でも総合的に言って日本全体が不安ですね。(略) 管理とかもそうですし、それを扱う人間を、謝罪すればいいというものじゃないっていちいち思うことが多いので。

(4) BSE に関する報道について

■ BSE 関連記事についてはテレビ報道の印象が残る

- (記事は) 新聞でも見ていると思うんですけど、テレビのニュースとかで (の報道が印象に残っている)。(略) アナウンサーが読むニュースでもそうですし、ワイドショーとかのああい画面つき、画面つきといったらへんだけど、そういうのをクローズアップするのもやっぱり出てくる。

(5) 食品安全委員会の認知

■ 食品安全委員会のイメージは白衣を着た専門家

- やっぱりそういう (専門家が議論している) 部門もありの、そういう検査機関とか、そういう白衣を着てマスクして検査をしているというような部門もありのという総合的な (イメージ)
- やはり、白衣を着ている人がいるような感じですね。
- テレビとかで、今、この言葉が出てきて、委員会の方で調査していますというとき白衣の人がたまたま映っていたんですけど、あれはここが依頼しているんですね、第三者機関か何かに依頼して調査しているとか。

(6) 意見交換会の参加について

■ 意見交換会については、子供に対する食の安全に関して友達から情報が流れてきた

- お友達が情報をくれてちょっと目を通して見たことがあります。(略) 特に自分たちよりも、やっぱり子供に対する食の安全の情報は流れてくる。

- 意見交換会への参加は、身近でない、専門的過ぎる、どう信じればよいかわからない、専門家に任しておけばよい、インターネットで見ればよい、結論ありきななので参加しても意味が無いなどの理由で消極的

- 行くまでには（至らない）。（略）ただ、もっと、うんと小さい地域で、例えば住んでいる市町村だったりとか（で開かれたものには）、参加したことはありますけど、ちょっと遠くまで出ていくのにはちょっと。
- 初めこの資料を見たときに講演会とかかなと思っちゃって、例えばこの言葉づかいでもリスクが無視できるとか無視できないとかと、もうちょっとわかりやすくリスクあるよとかないよとか、こういうことだよとか、なぜ無視できる・無視できないとか、そういう表現なのかなと思ってしまったり、あとは例えば専門の方が言っているそのことがすべて正解なのかという疑問があると、いろんな意見があって、もちろんそういうのは見ていくんだとは思いますが、どれを信じていいかという世界にはなってくるので、自分の能力では理解できないこともいっぱいあるなと思ったりとか、授業じゃないですけど、ついていけるかと思ったりとか。
- 考えなくてはいけないことなのかもしれないんですけど、この国、政府の委員会と言われると相当優秀な頭脳の集まりなんだろうなと思うと、難しいことをそこで考えてくればみたいな、そんなようなちょっと甘い考えがございまして。
- 敷居が高いというか、私の場所ではないというか、例えば栄養士とか保健所に勤めている方とか、そういう感じに食品の行政に携わる方たちのための勉強会というような受け取り方をしています。
- 普通の人が集まっているいろんな質問をして、勉強して、それを家に持って帰るものではなくて、あくまでも研究者の先生方とか、そういう仕事に携わっている方たちが集まってレポートを発表して、それに対する質疑応答があって、（略）要は大学の先生方とか、あるいは研究者の方たちのためのシンポジウムというか、そういうふうなとらえ方をこの書面ではしてしまうという。一般消費者に向けての講演には感じない。
- 題名もですね。敷居が高いというか、一般庶民の方はお呼びじゃないよという。
- 保健所の方でもいろいろ食育に関してイベントを開かれたりとか、地域の偉い方とか呼ばれてミーティングをされたりとかしているの、そういう方とつながって、保健所でしたら皆さん主婦の方は何度も足を運んだりとかする場所なので、そっちの方がまだもっと身近に感じられるのではないかと思うんです。
- やっぱ政府の委員会というのも信用できないというのがあって、それが本当に正しいのかなという疑問もあるので、何かあればテレビで情報は得られるかなと。
- ちょっとまず時間的に無理だなということが一番と、あと、インターネットのところで全部（出ているのであれば）（略）私はインターネットで読みます。自分の興味あるところだけ読ませていただく。
- こういうのは、多分、結果は決まっているというか、20 カ月以下輸入条件にしますけどいいですねというのを皆に言って回っている感じじゃないんですか。（略）結局はそうやって、そういう方向に持って行って、いいよね、いいねって、皆こういうのでOKだよと何となくジワジワと。

(7) 食品安全委員会のホームページについて

- 食品安全委員会の HP の印象も同様に、身近でない、言葉が難しい、自分の関心に対応したものではない、自分たちに向けられているものではないなどの理由により、見やすくはあるが入りにくいと感じる
- 最初の食事の絵が出てきているので、そういった意味ではさっき（の BSE の説明資料）よりは場違いではないんですけども、言葉がやっぱり難しい。漢字が多いといったら変ですけども、日本語なんですけど、要は難しくで引いちゃうんですね。子供ニュースが土曜の夕方にやっていてやっぱり一番わかりやすいニュースだなと思うぐらい、難しい言葉を使えばすごくありがたくは感じるんですけど、わからない。そんなに専門的に勉強していないので、もっとわかりやすく、かみ砕いて教えてほしい。
- キッズボックスがあるので、子供も一緒に見れるのかなという、子供と一緒に入り込んでいけるというのはすごく魅力的なので、これは全然そんなに敷居が高いとは思わない。
- 専門委員会とか意見交換会のこういう項目がちゃんと分かれてはいるんですけど、見やすいんですよ、色分けされてすごく見やすいんですけど、やっぱりそこにバサッと何月何日にこういう意見会という、この題名がちょっとかけ離れている。消費者として、生活者としてかけ離れているので、そこもちょっと、もっとこの項目に、例えばノロウィルスならノロウィルスとか、食品添加物の悩みとか、そういうもっと身近な言葉で入っていけるように（すれば）（略）一主婦としては入っていきやすいかな
- 各項目は何につながっているのかわからなくて、例えば、今、我が家でモヤシを食べられない状態になっているので、モヤシを食べたいのでモヤシについて安全委員会ではどういう遺伝子組みかえであるとか、中国のものであるとか、そういう、だから自分はモヤシについて調べたいんだけどという感じで、例えば鳥肉というので調べたいとか、そういうふうにした方が主婦は情報を得やすいですね。
- だから実際の生活に密着したタイトルと入り口があれば、（略）そういった情報を得るには非常に難しい言葉が最初に出てきたけど、入りにくいんだなというのがあって、自分が実際の生活で欲しい情報がやっぱり最初に出てくれば、そこからそのことについてだんだん深めていくということは興味の度合いによって変わりますが、できていくかなと思います。
- 魚について、今、どういうことが世の中で問題になっているかとかというのも魚をクリックすることによって引き出されてくれば、嫌だ、私の好きなあじがこうだったのとか、そういうことを勉強する入り口にはなるかなと。
- 一般の方向け解説をお探しの方となっているんですけども、それは右のリスク評価の下のところですね。一般の方向けの解説となっているんですけども、ここは一般の

方を対象としていない（トップページは一般の方を対象としていない）という。そういうことなのかなと思ったんですけど。

(8) 食品安全委員会からの情報発信について

■ 食品安全委員会はより生活者の身近なところで情報発信をして欲しい

- 今、接している両親とか近所の人たちの、私よりちょっと上の世代の人たちはこのホームページなるものがわからない。要するにインターネットに触れない。結構、私もいっぱいいっぱいのところにいるんですけど、だからそういう人たちがこういう部分じゃない情報を得るのはどうしたらいいのかなと。
- 例えばコストの部分とかもあると思うんですけど、人が広く行くスーパーにこういう何かのちょっとした情報が取り込める部分があるとか、例えばやっぱりどうしても私たちの世代だと子供中心に考えるので、子供が出入りしている小学校とか中学校とか、そういったところで情報が取り込めるような何らかの、配るとか。
- こういう（意見交換会などの）シンポジウムは絶対行かないと思うんですけど、例えばもうちょっと地域的に分かれていて、実際、安全について聞くことのできるモニターの会があれば自分も参加してみたいなどは思いました。

1.7.3 結果のまとめ

(1) 20代女性

a. 食生活について

- ✓ 一人暮らしであり、外食が基本であるが、栄養面や節約の観点から一部自炊もしている
- ✓ 外食としては、コンビニの弁当、ファーストフード、学食、デパートやスーパーの惣菜など

b. 食育の認知

- ✓ 「食育」という言葉は一般的に認知されているが、その意味については主に食生活の改善と受け取られている。また、生活全体を見直すなどの精神論も認識されている。マスメディアに加えて、高校や大学の授業から得た知識の影響も大きい
- ✓ 食生活の見直しとしては、朝きちんと栄養のバランスの良い朝食を作って食べる、個食、孤食をなくす、加工食品をなるべくとらない、など

c. 食の安全として心がけていること、食品のリスクに関する認識

- ✓ 食中毒の予防については、食器やまな板の除菌に気をつけている
- ✓ 食の安全についての情報はメディアや店頭に加えて親や学校の授業から得ている
- ✓ 高校では、着色料や（発がん性のある）ソルビン酸など、添加物を問題視する授業の影響を得ている。
- ✓ 食の安全に関する情報は、テレビが一番の情報源。店頭（ポップ表示など）で得られる情報の影響も大きい
- ✓ 生産者の顔が見える食品は安心
- ✓ なるべく国産を買う。中国産は避ける。中国産は、洗剤で落とさなければならぬほどの残留農薬が心配
- ✓ 親や学校の授業の影響で無添加が良いと考えているが、現実には添加物も受け入れざるを得ないとの認識
- ✓ 賞味期限については風味は落ちるが食べられる、との認識。消費期限については傷みを懸念するが期限切れ数日であればおい等を確認して食べる、との認識
- ✓ BSE については、米国産牛肉への不安感はかなり払拭されてきている。値段をみて手ごろであれば買う。外食先で使われていても気にしない。店頭で他の人もよく買っているようであれば自分も買う、など
- ✓ 遺伝子組換えについては、何が問題となっているかわからないという素朴な疑問を持っている
- ✓ 健康食品、サプリメントはよく利用している

d. BSEに関する報道と意見交換会での説明について

- ✓ BSE 関連記事についてはテレビ報道の印象が残る
- ✓ BSE に関する意見交換会の説明資料は、専門用語が多く前提知識もないのでわかりにくい、誰に何を伝えようとしているかわからない、との評価
- ✓ 実際に自分の生活に照らし合わせたときに、例えばスーパーなどで買い物をするときにどういうところに気をつけたらよいのか、などを知りたい

e. 意見交換会への参加について

- ✓ 意見交換会への参加は、身近でない、専門的過ぎる、誰に何を伝えようとしているかわからない、参加するメリットが見えないなどの理由で消極的

f. 食品安全委員会のホームページについて

- ✓ 食品安全委員会のホームページの印象も、意見交換会資料と同様に、言葉が多く見づらい、一般の人に何を伝えようとしているかわからない、自分の関心に対応した入り口がないなどの理由により、利用しにくいと感じる
- ✓ わかりやすい動画、映像配信が歓迎されている
- ✓ 自分の関心や身近な事柄についてのキーワードから内容に入っていけること、検索のできるものが歓迎されている。いまは欲しい情報が探しにくい

(2) 40代女性

a. 食育についての認知

- ✓ 「食育」という言葉は一般的に認知されているが、その意味についてはスローフード志向とあいまって“ジャンク、ファーストフードではなく、手作りの無添加のものを重視する”と受け取られている
- ✓ 食事をきちんと食べていない子供は切れやすく学級崩壊の原因にもなっているとの認識
- ✓ 食べ物を通して生き方を見直す、といった精神論としても認識されている

b. 食育として心がけていること、問題と思っていること

- ✓ ファーストフードにより、本来の自然の味を忘れていることが問題
- ✓ 子供が外でジャンクフードを食べたがることを食の安全の問題として懸念
- ✓ 子供の偏食への懸念
- ✓ 普段の日常会話で食に関する知識を教えるのが食育

- c. 食の安全として心がけていること、食品のリスクに関する認識
- ✓ 食の安全についての情報は子育ての時期に友達や親から仕入れた
 - ✓ 食の安全についての情報は学校の授業などの影響も受けている。特に、添加物の安全性など
 - ✓ 食中毒の予防については、特に夏場の保存方法や生肉の扱い、子供の教育など、さまざまに工夫している
 - ✓ 生産者の顔が見える食品は安心
 - ✓ 外食、輸入食品、加工食品は「何が入っているかわからない」ので不安
 - ✓ 無添加が良いと考えているが、現実には添加物も受け入れざるを得ないとの認識
 - ✓ 食中毒については、生卵、生魚、生肉の扱いに配慮している
 - ✓ 賞味期限については風味は落ちるが食べられる、との認識。消費期限については傷みは懸念するが期限切れ数日であれば、におい等を確認して食べる、との認識
 - ✓ BSE については米国産牛肉の購入をいまでも躊躇。食卓になくても困らない
 - ✓ 中国からの輸入食品に懸念。特に残留農薬
 - ✓ 遺伝子組換えについては、何が問題なのか突き詰めているわけではないが、漠然と悪いものと認識している
 - ✓ 表示の偽装については、事業者、行政双方に強い不信感
 - ✓ リスク管理についても一連の事件とその報道を通じて不信感を持っている
- d. BSE に関する報道について
- ✓ BSE 関連記事についてはテレビ報道の印象が残る
- e. 食品安全委員会の認知
- ✓ 食品安全委員会のイメージは白衣を着た専門家
- f. 意見交換会の参加について
- ✓ 意見交換会については、子供に対する食の安全に関して友達から情報が流れてきた
 - ✓ 意見交換会への参加は、身近でない、専門的過ぎる、どう信じればよいかわからない、専門家に任しておけばよい、インターネットで見ればよい、結論ありきなもので参加しても意味がない、などの理由で消極的
- g. 食品安全委員会のホームページについて
- ✓ 食品安全委員会のホームページの印象も、意見交換会の資料と同様に、身近でない、言葉が難しい、自分の関心に対応したものではない、自分たちに向けられているものではないなどの理由により、利用しにくさが感じられている
 - ✓ 色分けなどは配慮されており見やすいが、内容や言葉遣いに馴染みがないので、と

っつきにくい、閲覧できる入り口がない、と受け止められている

- ✓ 実際に生活に密着したタイトルと入り口が求められている

h. 食品安全委員会からの情報発信について

- ✓ 食品安全委員会はより生活者の身近なところで情報発信をして欲しい。例えば、人の集まるスーパーや学校、病院など

インタビューの結果からは、20代、40代ともに、基本的には同じような意見を持っていることが分かった。その点では、世代による大きな違いは今回の FGI では確認されなかった。

2. インターネットアンケート

2.1 インターネットアンケート実施概要

2.1.1 調査方法等

調査実施期間	2008年3月6日～13日
調査対象	「goo リサーチ ² 」消費者モニター
調査方法	「goo リサーチ」を利用した Web アンケート調査
有効回答数	2208件

2.1.2 調査項目

- 食品の選択行動
 - ・ 食品の購入頻度、食品の購入場所 (Q1、Q2)
 - ・ 食品を購入する際に配慮すること、参考にする表示(Q12、 Q13)
 - ・ 食生活について普段気をつけていること(Q5)
- 食品の安全性に関する知識・関心
 - ・ 食品の安全性等に関する考え方や行動 (Q3)
 - ・ 食品安全に関する知識の取得経路 (Q6)
 - ・ 食品の安全性についての不安の程度、関心テーマ (Q7、Q8)
 - ・ 食育に関する知識、食の安全性に関する知識 (Q9、Q10、Q11)
- 食品安全委員会等の認知
 - ・ 行政機関等が発信する食品の安全性に関する情報の認知 (Q14)
 - ・ 食品安全委員会のリスク評価結果の認知度 (Q15)
 - ・ 食品安全委員会が行なっている情報発信の認知度 (Q16)
- 意見交換会について
 - ・ 意見交換会開催の認知度 (Q17)
 - ・ 意見交換会への参加経験 (Q4 ; FGI)
 - ・ 意見交換会への参加意欲の有無、その理由 (Q18、Q19、Q20)
 - ・ 望ましい意見交換会のあり方：開催規模、時間等 (Q21、Q22、Q23)
 - ・ 意見交換会に期待するテーマ、プログラム (Q24、Q25)
- 食品安全委員会のホームページについて
 - ・ 食品安全委員会のホームページに関する意見 (Q26、Q27)

² 今回の Web アンケートでは、「goo リサーチ」を利用した。調査は、「goo リサーチ」に登録されている「消費者モニター」（総数 352,294 人、2008 年 3 月 3 日現在）を対象に行われた。モニターの属性は、<http://research.goo.ne.jp/segment/consumer.html> 参照のこと。

2.2 調査結果

2.2.1 食品の選択行動について

(1) 食品の購入場所、頻度

一週間のうち平均して食料品を買う日数は、3日(23.3%)、2日(18.8%)という回答が多い。一方、4日以上買い物をするという回答も半数程度を占める。

食料品を買う場所は、スーパーの利用割合が最も高く(96.1%が利用)、次いでコンビニエンスストア(68.4%が利用)が高いことがわかった。また利用頻度についても、スーパーが最も多く、半数程度(47.8%)の回答者が週に3日以上(「週に3~4日」又は「週に5~6日以上」と回答)利用している実態がわかる。

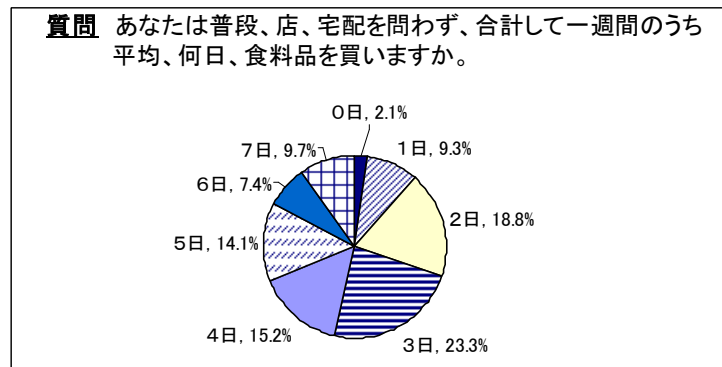


図 2-1 食料品の購入頻度

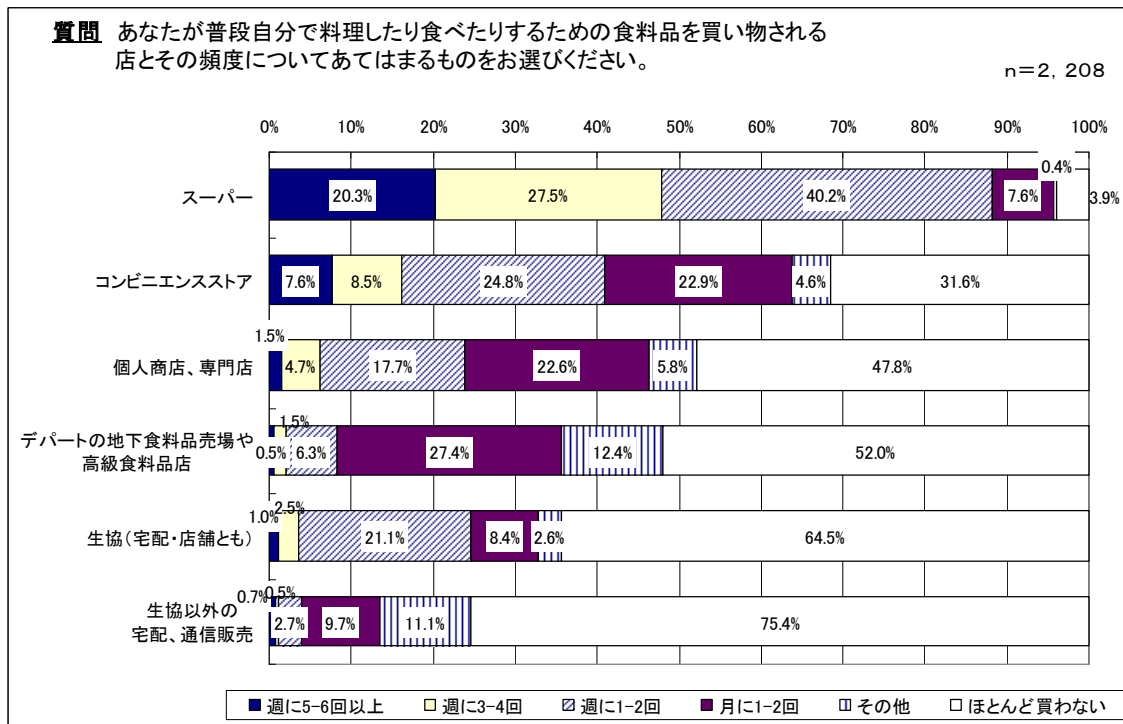


図 2-2 食品の購入場所、頻度

(2) 食品を購入する際に配慮すること、参考にする表示

食品を購入する際、気をつけていることとして「産地(国産、海外産等)」(81.2%)、「鮮度」(80.6%)を挙げる比率が最も高く、共に8割を上回っている。特に、「産地」については、平成18年度調査³から23ポイント上昇しており、消費者が産地を重視する傾向が読み取れる。一方、平成18年度調査では「価格」を挙げる割合が最も高く90.8%と大半を占めたが、今年度調査では74.1%と16ポイント低下している。

また、「生産者、流通業者」に気をつける、とする回答者は32.0%であり、他の項目と比較すると割合は低いが、平成18年度の17.6%から14ポイント上昇しており、増加傾向にあることがわかる。

質問 食料品を買う場合に気をつけることは何ですか。(複数回答可)

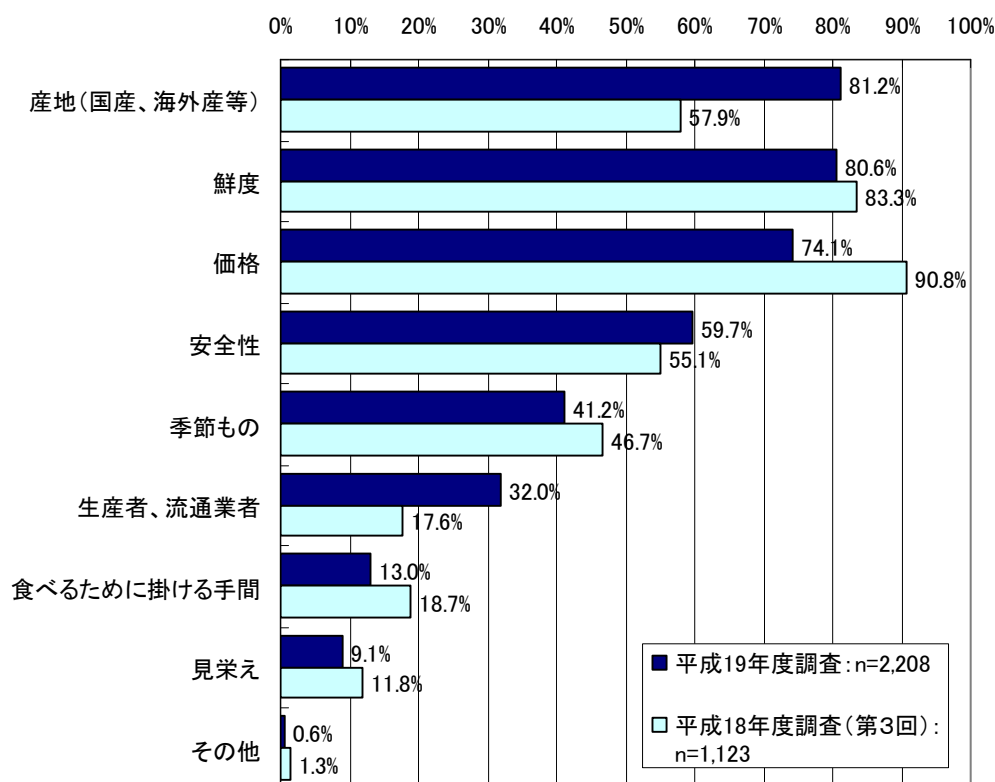


図 2-3 食品を購入する際に配慮すること、参考にする表示

食品を購入する際に参考にする食品表示として最も多く挙げられているものが、「賞味期限」(77.5%)であり、次いで「値段」(67.8%)が挙げられる。平成18年度調査と比較すると、「値段」を参考にする割合が1割程度減少している。逆に、「製造業者の名称、住所等」を参考にする回答者が28.7%と、約15ポイント上昇している。

先の質問を合わせると、産地や製造業者など、食品の流通の川下に関する情報への

³ 「食品の安全性に係るリスクコミュニケーション等に関する調査報告書 平成19年3月」

意識の高まりが強く読み取れる。

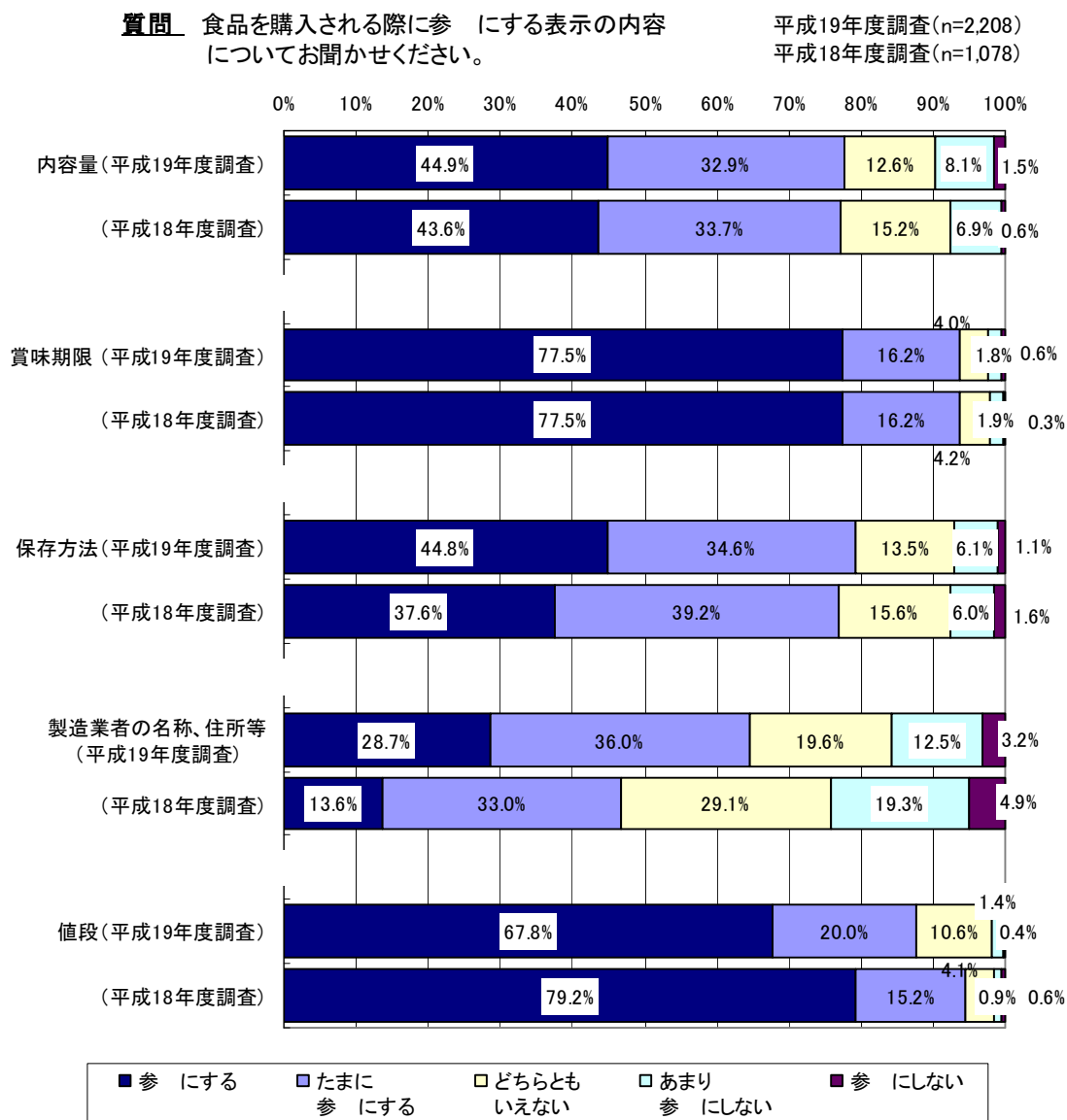


図 2-4 食品を購入する際に参考にする表示内容

(3) 食生活について

食生活について気をつけている事として、「1日3食をきちんと取る」や「栄養のバランスが偏らないようにする」などを挙げる割合が高く、各々71.3%、61.7%の回答が得られた。次いで「カロリーをとりすぎない」(48.1%)や「夜遅い時間に食事をしない」(46.5%)についても、半数に近い割合で普段気を付けていると回答している。

「食生活に関する世論調査(平成18年3月,NHK)」の結果と比較するといずれの項目もやや意識している割合が高い傾向が見られ、今回の調査対象は、一般の消費者の意識と若干の差異があることが推察される。しかし、気を付けている内容の順番などの全体的な傾向には差異がないこと、平成18年度調査との傾向の差が少ないことなどから、本調査結果についても再現性があるものと考えられる。

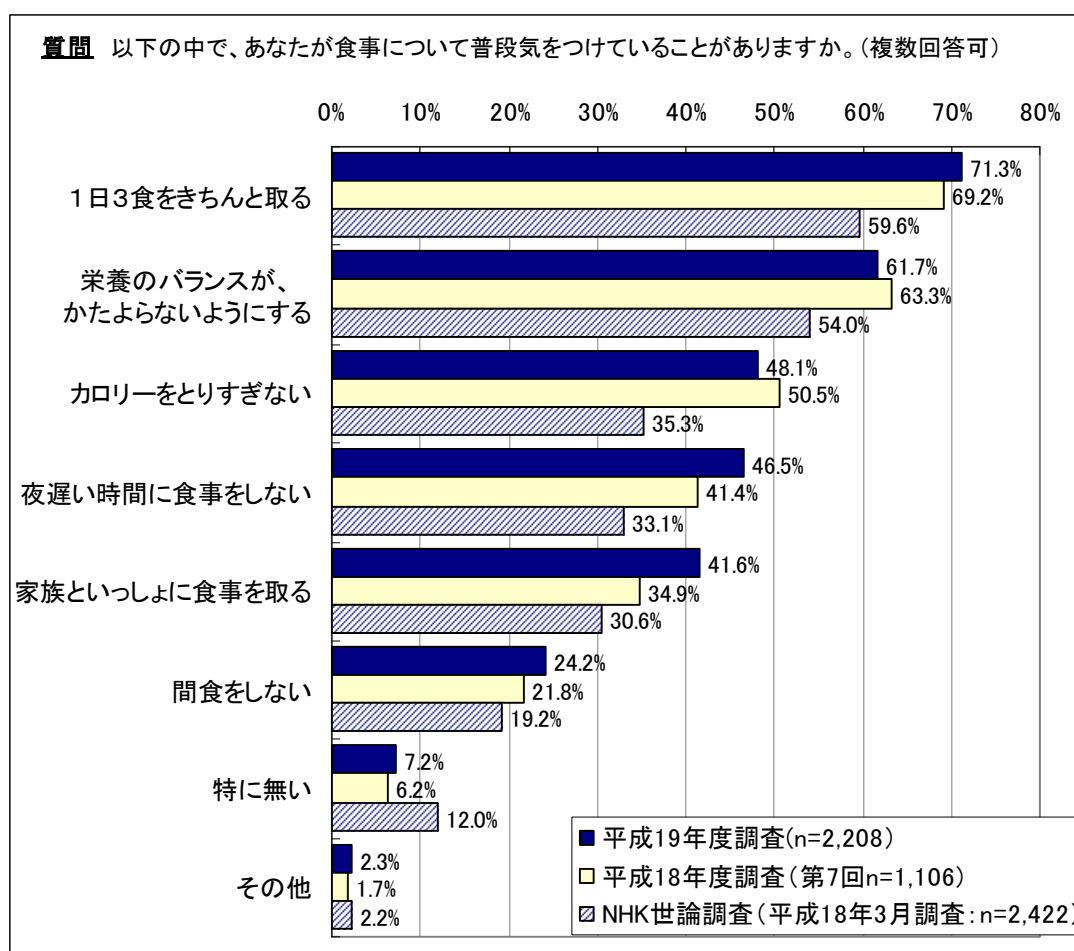


図 2-5 食事について普段気をつけていること

2.2.2 食品の安全性に関する知識・関心

(1) 食品の安全性に関する考え方や行動

食の安全に対する考え方にあてはまるものとして、「外国産の野菜や肉は危険だと思う」(58%)、「価格が高くても安全な食品を選択している」(46%)を挙げる割合が高い。

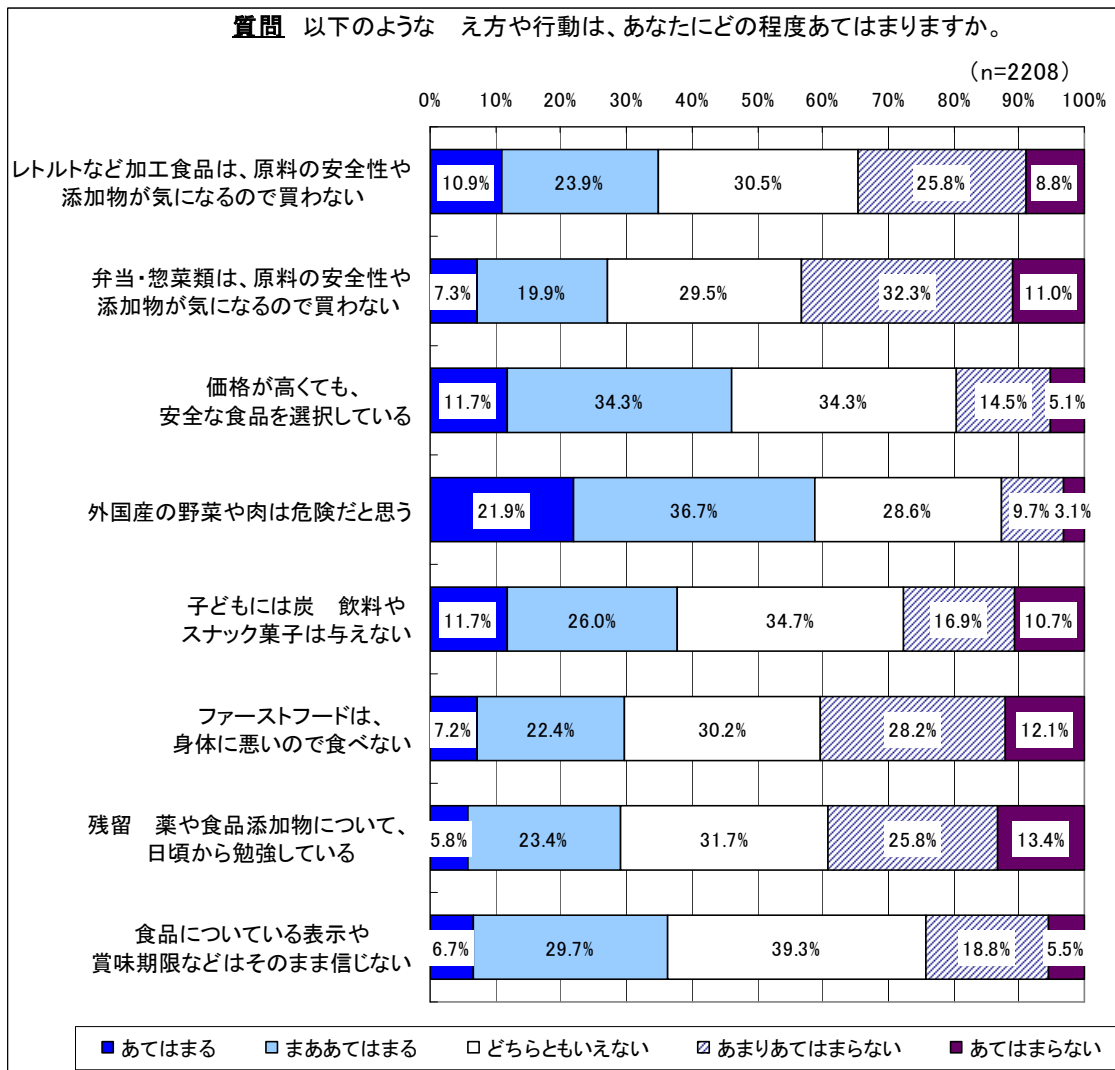


図 2-6 食事について普段気をつけていること

(2) 食の安全に関する知識の取得経路

また食品の安全性に関する情報について重要視されているものを把握するため、複数の情報源の中から重視するものから、順番に3つ選択してもらう質問を行った。

1番重視するものとして挙げられている割合が高いのが「国の機関（22.7%）」であり、信頼が高い情報として認知されていることが推察できる。次いで、「テレビ（15%）」、「新聞（13%）」が挙げられる。テレビ、新聞については、2番目、3番目に重視するものとして各々15%以上の割合であげられている。

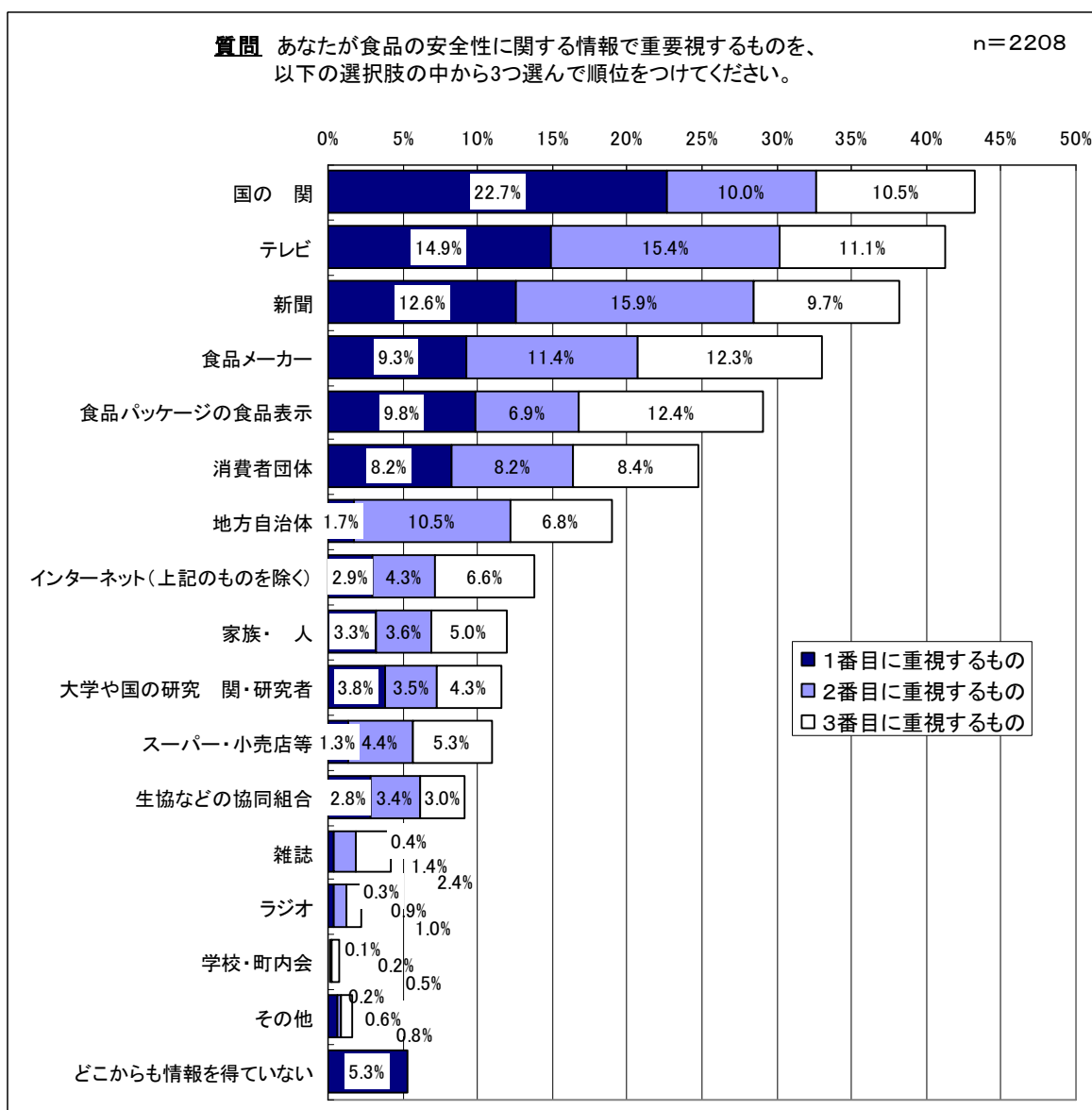


図 2-7 食の安全に関する知識の取得経路

(3) 食品の安全性について関心のあるテーマ、不安の程度

食の安全性の面から不安に感じると考えられる 10 つの要因を挙げ、各々について不安の程度を質問した。「非常に不安である」とする割合が高い要因が「残留農薬」(58.5%)、「BSE (牛海綿状脳症)」(54.4%)、「食品中に存在する汚染物質・化学物質」(53.2%)、「鳥インフルエンザ」(51.5%)である。これらはいずれも、半数以上の回答者が大きな不安を持つ要因としてあげており、「ある程度不安である」を含めると、85%以上が不安を感じるとしている。「ある程度不安である」を含めると不安として挙げる割合が高いのが、「食中毒」、「食品添加物」である。

一方、比較的不安とする割合が低いのは「新開発食品」、「いわゆる健康食品」等である。

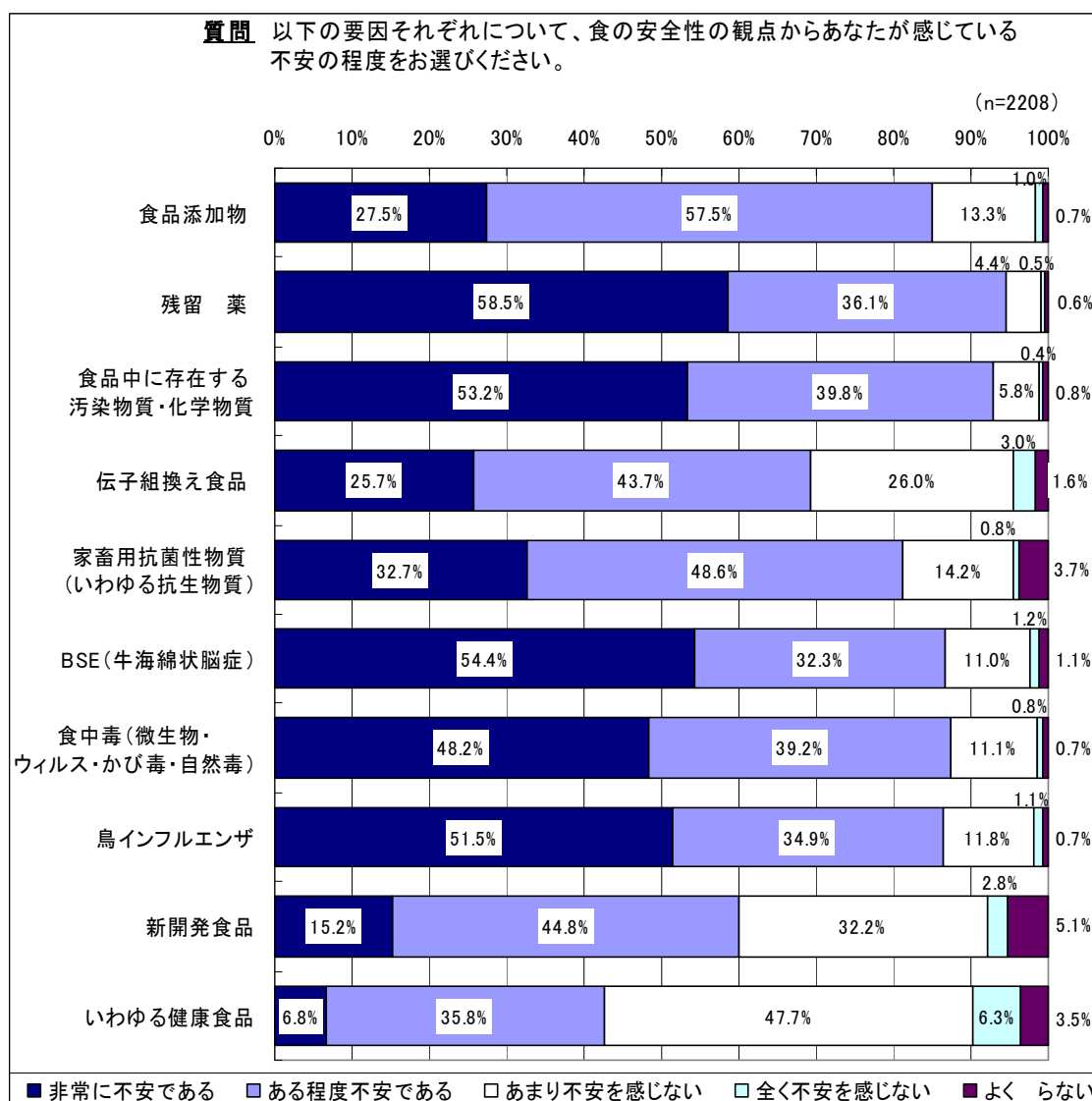


図 2-8 食の安全性の観点から不安を感じている程度

(4) 食育に関する知識

食に関する知識が十分にあるかどうか自己認識としては、知識が「十分にある」および「ある程度あると思う」という回答が、全体の半数を超えている。一方、「あまりないと思う」という回答も 38.4%を占めている。この傾向は、平成 18 年度調査、食育白書とほぼ同様であるが、若干、本調査の回答者では知識が「あまりないと思う」という回答が多い傾向がみられる。

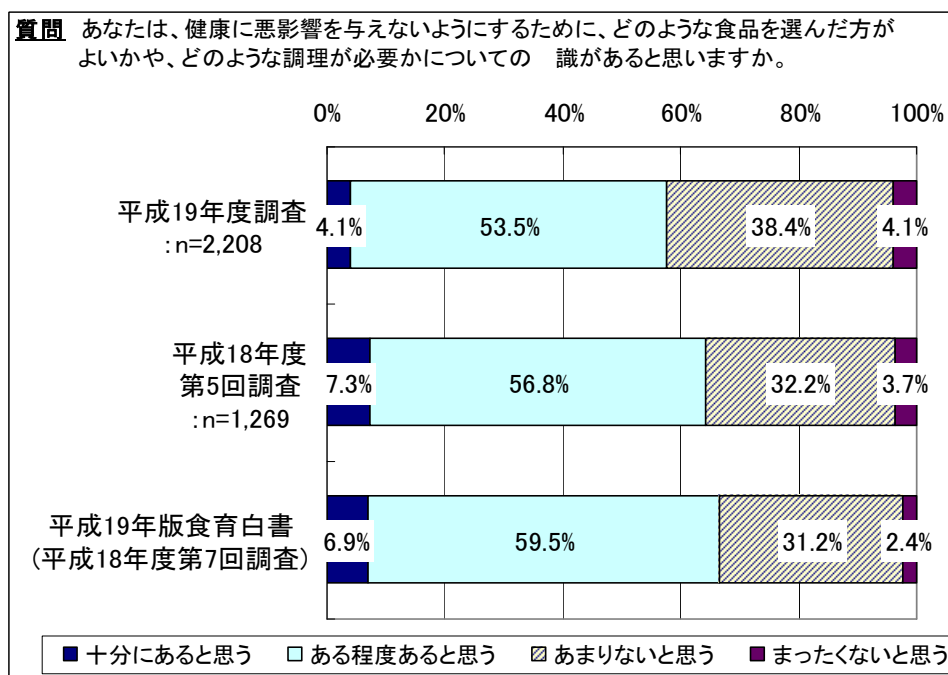


図 2-9 健康に悪影響を与えないようにするための知識の有無

本調査では、食生活に関する知識の有無について、上記の自己認識の質問の他、実際に食品安全委員会等のパンフレットの記載に内容について、周知されているかどうかを確認する質問を、食中毒と残留農薬をテーマに、行った。

具体的な食中毒を防ぐための知識として、最も周知度が高いのは「手洗いの効果」(90.1%)や「加熱調理が食中毒を予防する効果があること」(83.7%)等である。一方、「調理済み食品の室内放置」(43.4%)や「賞味期限切れ食品を食べる」(37.7%)ことで食中毒を誘発することの認知度は低い。

また、残留農薬に関する知識については、食中毒と比較すると総じて正答率が低いが、「一定量の農薬の食品中への残留が認められている」(55.2%)は半数以上の回答者が正しいという判断をしている。一方、「一部の農薬については残留基準が設定されていない」とする内容を正しいとする回答が 41.8%を占めた。この結果は、2003年の食品衛生法の改正により、2006年からポジティブリスト制度が導入されたこと

の周知が徹底していないことによるものと考えられる。

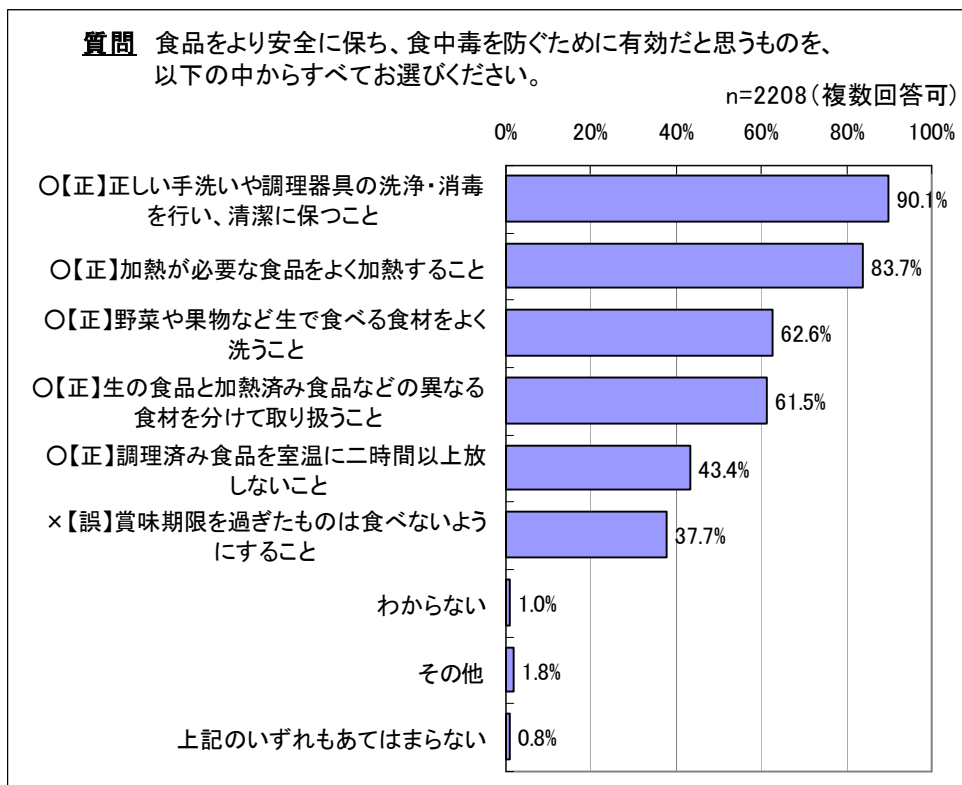


図 2-10 食品をより安全に保ち、食中毒を防ぐために有効だと思うもの

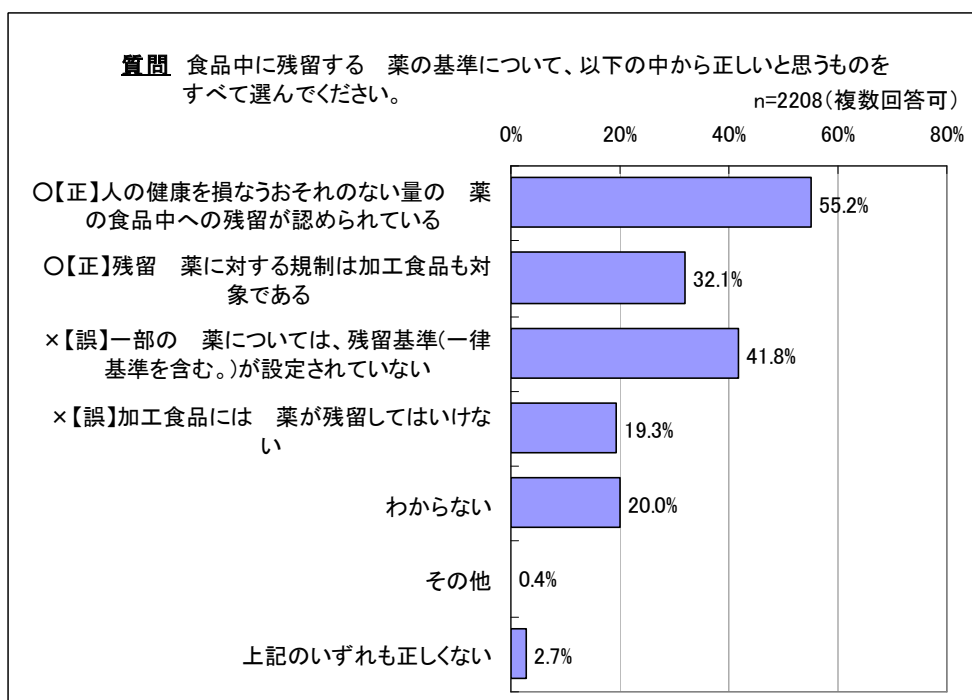


図 2-11 食品中に残留する農薬の基準に関する知識

2.2.3 食品安全委員会等の認知

(1) 行政機関が発信する食品の安全性に関する情報の認知

行政機関が発信する情報に関する認知度について、食品安全委員会の他、農林水産省、厚生労働省、保健所の4組織について各々質問を行った。食品安全委員会以外の3組織については、各組織が出す情報を「よく見たり聞いたりする」、「見たり聞いたりしたことがある」とする割合の合計が各60%を占める。

食品安全委員会の認知度は、他の組織に比べると若干低いものの、「よく見たり聞いたりする」、「見たり聞いたりしたことがある」という回答は50%程度を占めており、平成18年度調査と比較すると10ポイント程度上昇している。

質問 以下の行政機関から出されている食品の安全性に関する情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。 平成19年度調査(n=2208)
平成18年度調査(n=1106)

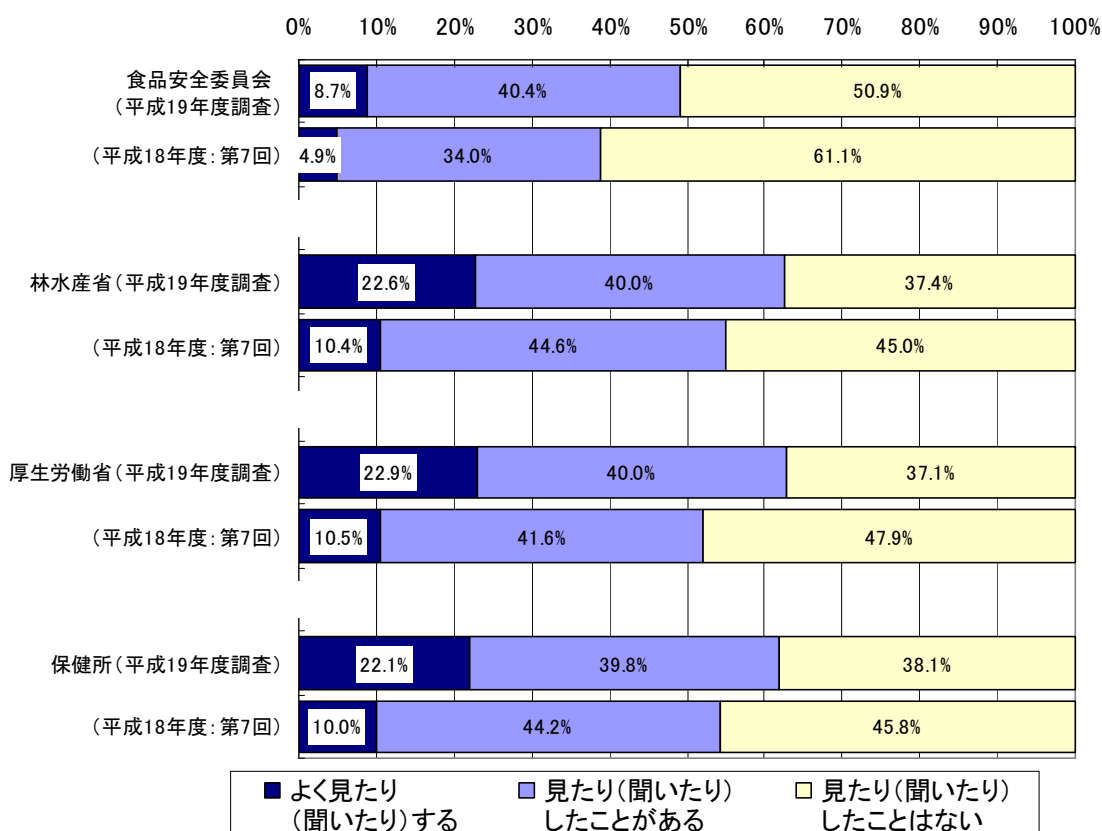


図 2-12 行政機関が発信する食品の安全性に関する情報の認知

食品安全委員会の活動内容の周知状況について、リスク評価の発表や公表資料等の認知度に関して質問を行った。

BSE のリスク評価結果を発表したことの認知度については、「良く知っている」と「ある程度知っている」を加えると 24.3%であった。これは、平成 18 年度の 2 回の調査結果をやや下回っており、公表後時間を経ることで記憶から遠ざかることも推察される。

一方、食品安全委員会が、自身で発信している情報である、ホームページやパンフレット類の認知度は各々 1 割未満に留まる。

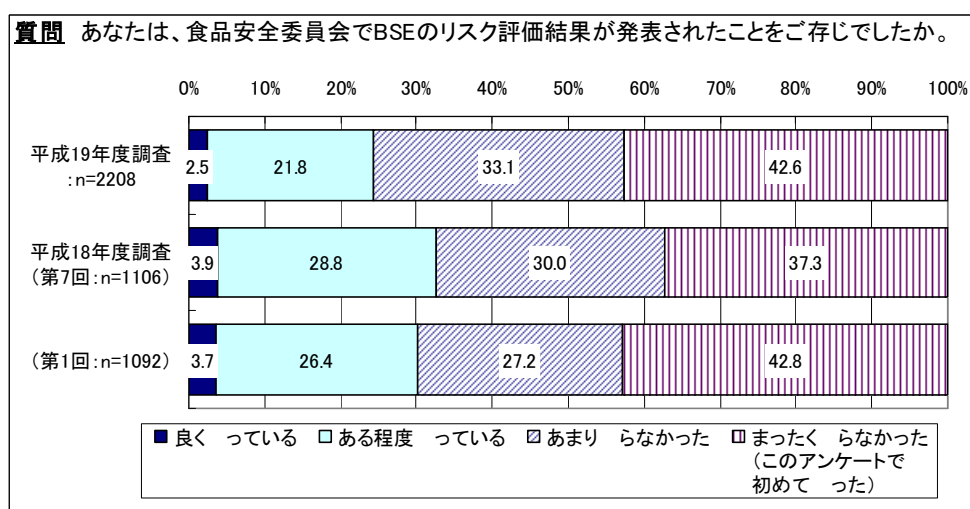


図 2-13 食品安全委員会が発信した BSE に関するリスク評価結果に対する認知度

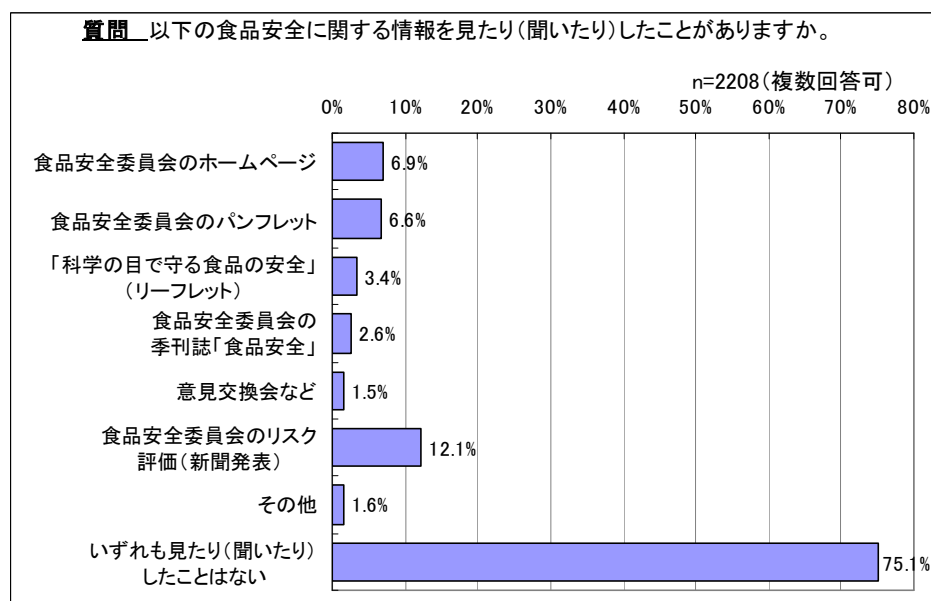


図 2-14 食品安全委員会が行っている情報発信の認知度

(2) 意見交換会について

食品安全委員会が定期的を開催している意見交換会についての認知度は 9.4%に留まる。平成 18 年度調査結果と比較しても認知度が低下傾向にあり、認知度向上に向けた活動が求められる。

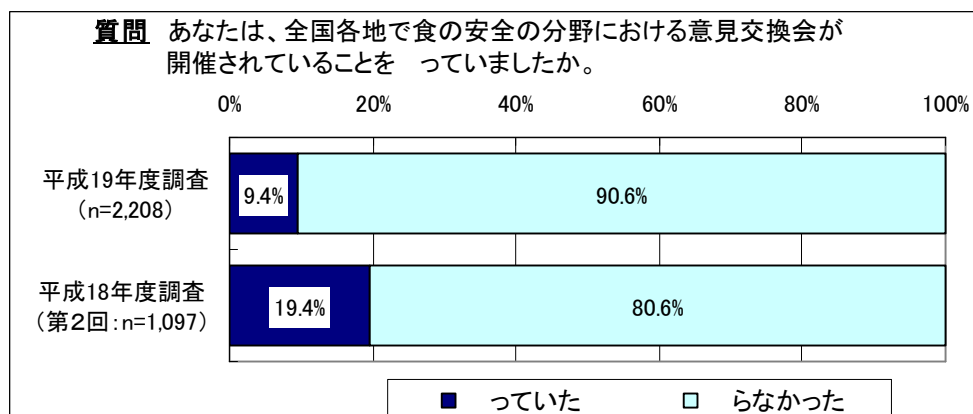


図 2-15 食品安全委員会が開催する意見交換会の認知度

意見交換会への参加経験がある回答者は 1.5%とごく少数に留まる。しかし「参加したいと思う」という意見は 32.4%を占め、参加希望のある消費者のニーズを踏まえることでより多くの消費者に参加が期待できる。現在参加を希望する割合を年齢層、性別で分析すると、40 歳代以上の女性や 50 歳代以上の男性で参加意向が強い傾向が見られる。

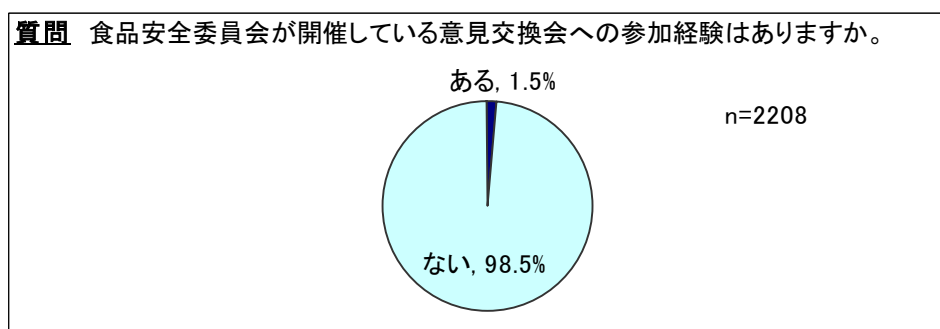


図 2-16 食品安全委員会が開催する意見交換会への参加経験

質問 あなたは、今後、食品の安全性に関連したシンポジウムや意見交換会などのイベントに参加したいと思いますか？

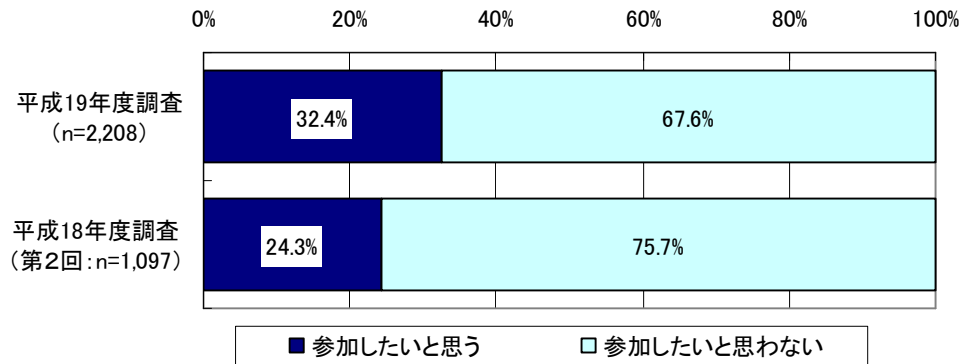


図 2-17 食品安全委員会が開催する意見交換会への参加意向

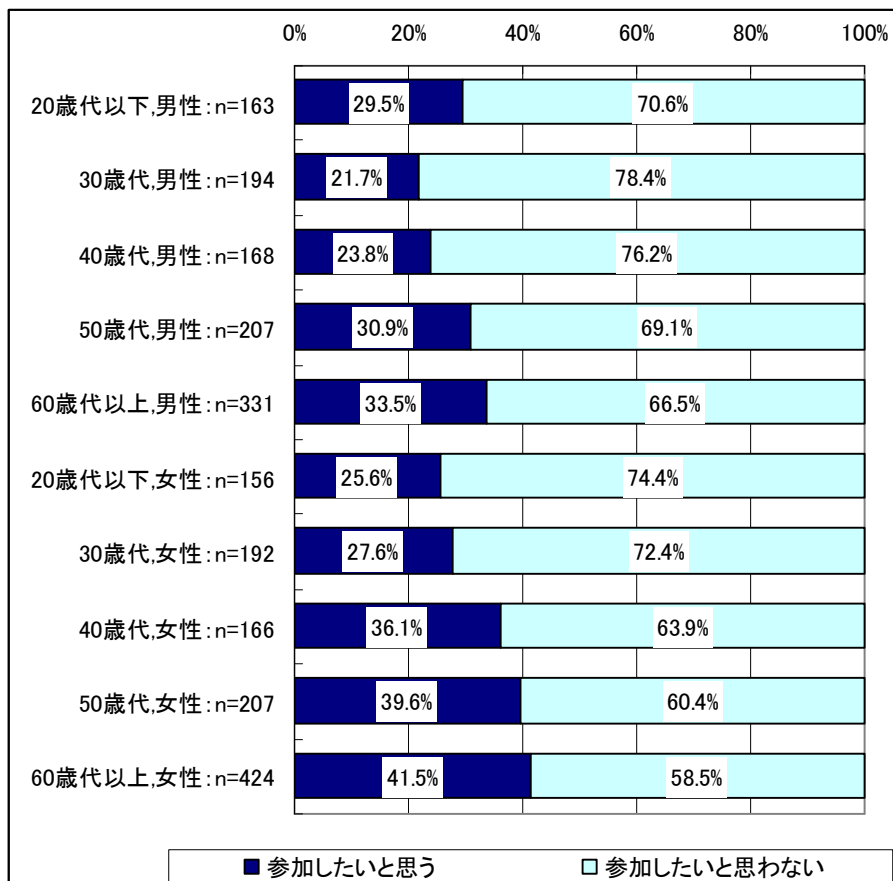


図 2-18 食品安全委員会が開催する意見交換会への参加意向（年齢、性別）

意見交換会に参加意向のある回答者の参加したい理由としては、合計すると「詳しい情報が得られる（78.5%）」、「わかりやすい説明が聞ける（46.8%）」、「両論をいわれているものに対して結論が得られる（42.3%）」などを挙げる割合が高い。

性別で見ると、男性は「聞きたいことを質問できる」や「参加者と意見の交換ができる」など、質問や意見交換に対する要望が強いのに対し、女性は「詳しい情報が得られる」や「結論が得られる」などの情報を受信する要望が強い傾向があることがわかる。

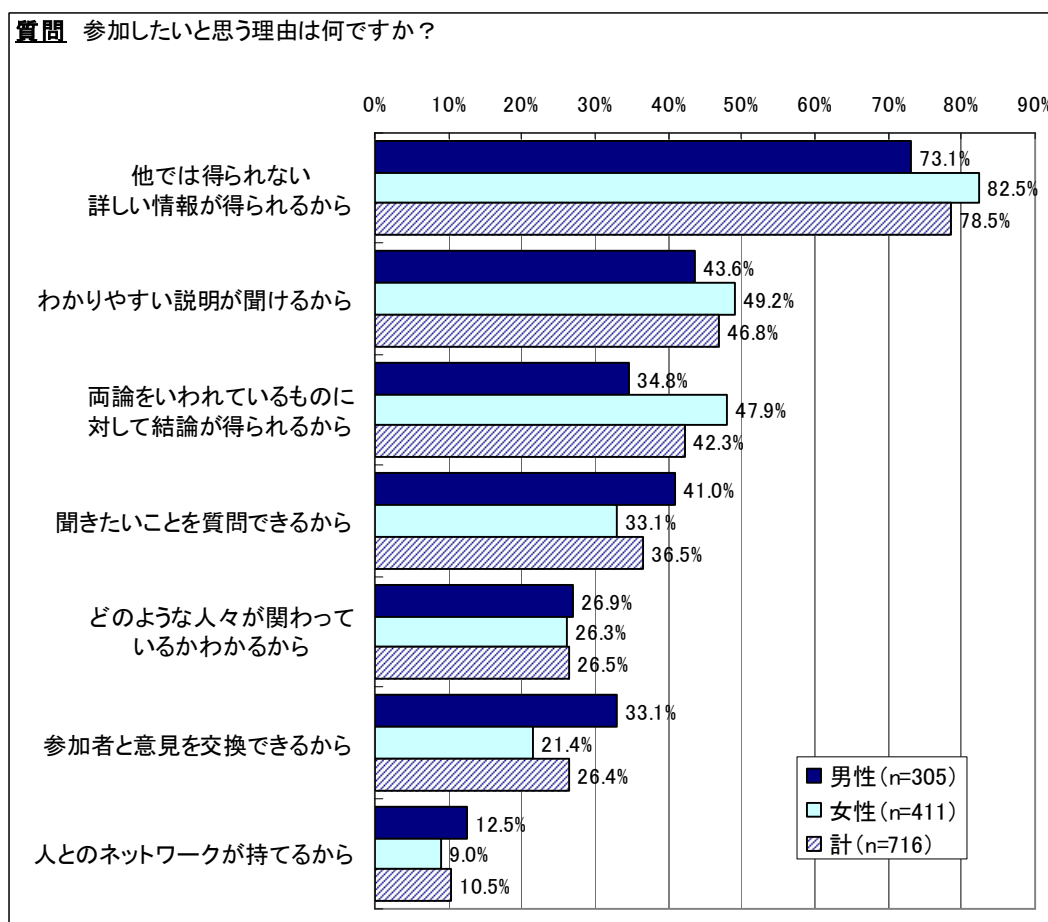


図 2-19 食品安全委員会が開催する意見交換会に参加したいと思う理由（性別）
（参加したいと回答した者のみ）

一方、参加したいと思わない理由については、「いつどこで開催されているかわからない」(38.1%) や、「開催の日時や場所が都合に合わない」(35.5%) を挙げる割合が高い。

具体的な要望としては、休日の午後や休日の午前中の開催を望む意見が多く得られた。

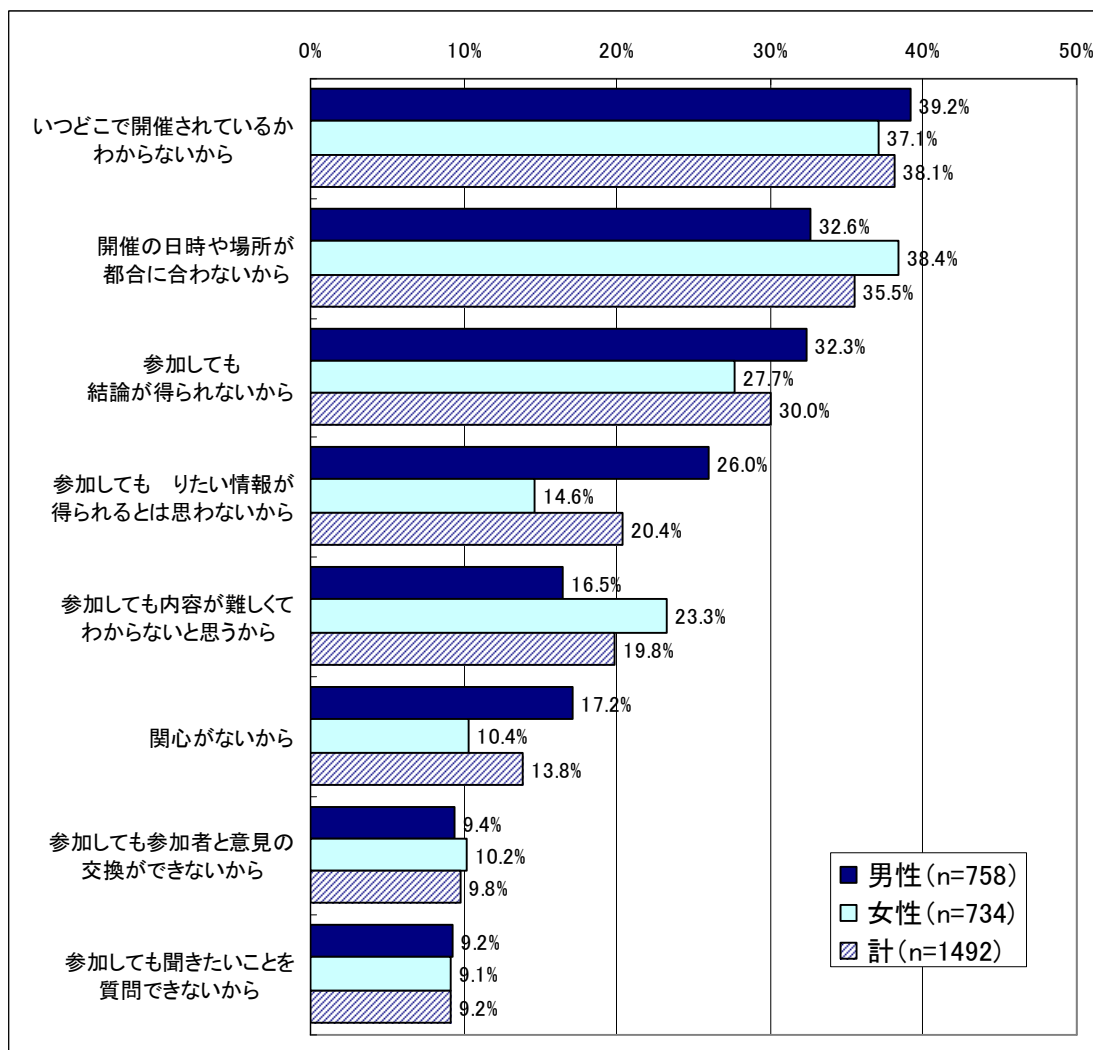


図 2-20 食品安全委員会が開催する意見交換会に参加したくないと思う理由

(参加したくないと回答した者のみ)

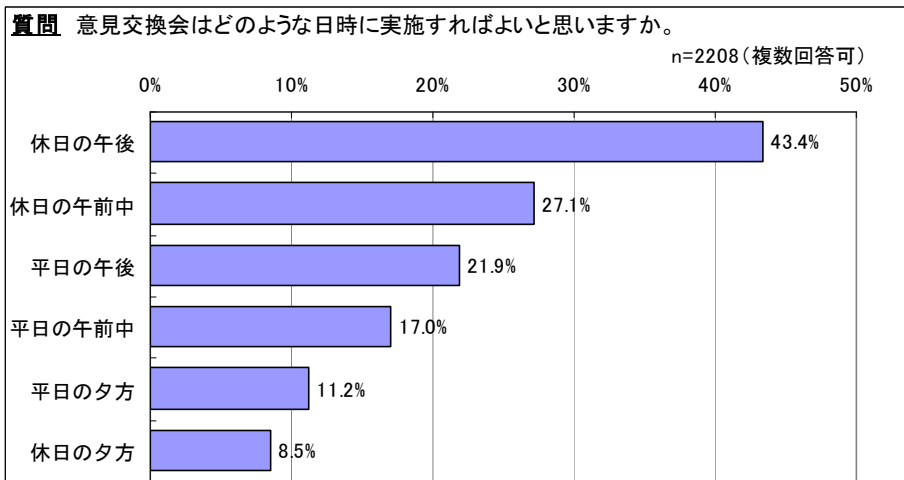


図 2-21 意見交換会の開催日時に関する要望

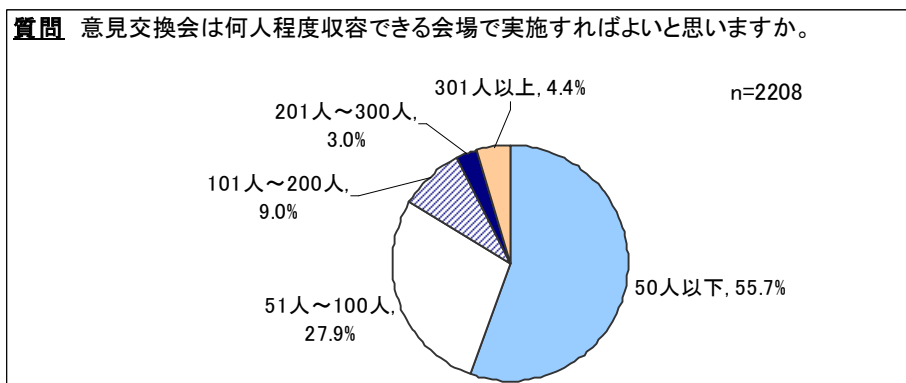


図 2-22 意見交換会の開催規模の要望

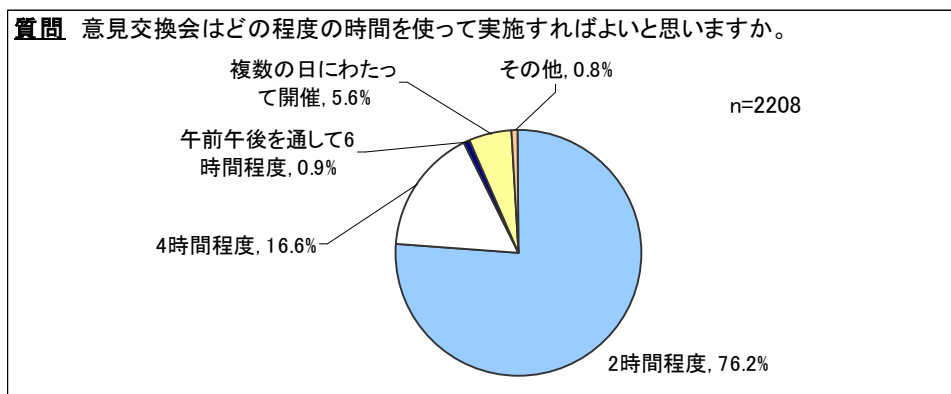


図 2-23 意見交換会の開催時間に関する要望

意見交換会に期待するテーマとしては「残留農薬」(79.5%)や「食品添加物」(70.7%)、「食品中の汚染物質・化学物質」(65.7%)など、日常の食生活に深く密着する内容が多く挙げられた。

なお、現在の不安の程度と意見交換会のテーマとの関連は小さい。たとえば現在不安を持つ程度は低いですが、意見交換会のテーマとしての要望が大きいものとしては、食品添加物や遺伝子組換え食品などがある。これらは食品を購入する際に目にすることが多い言葉でもあるため、興味関心が高いものであると考えられる。

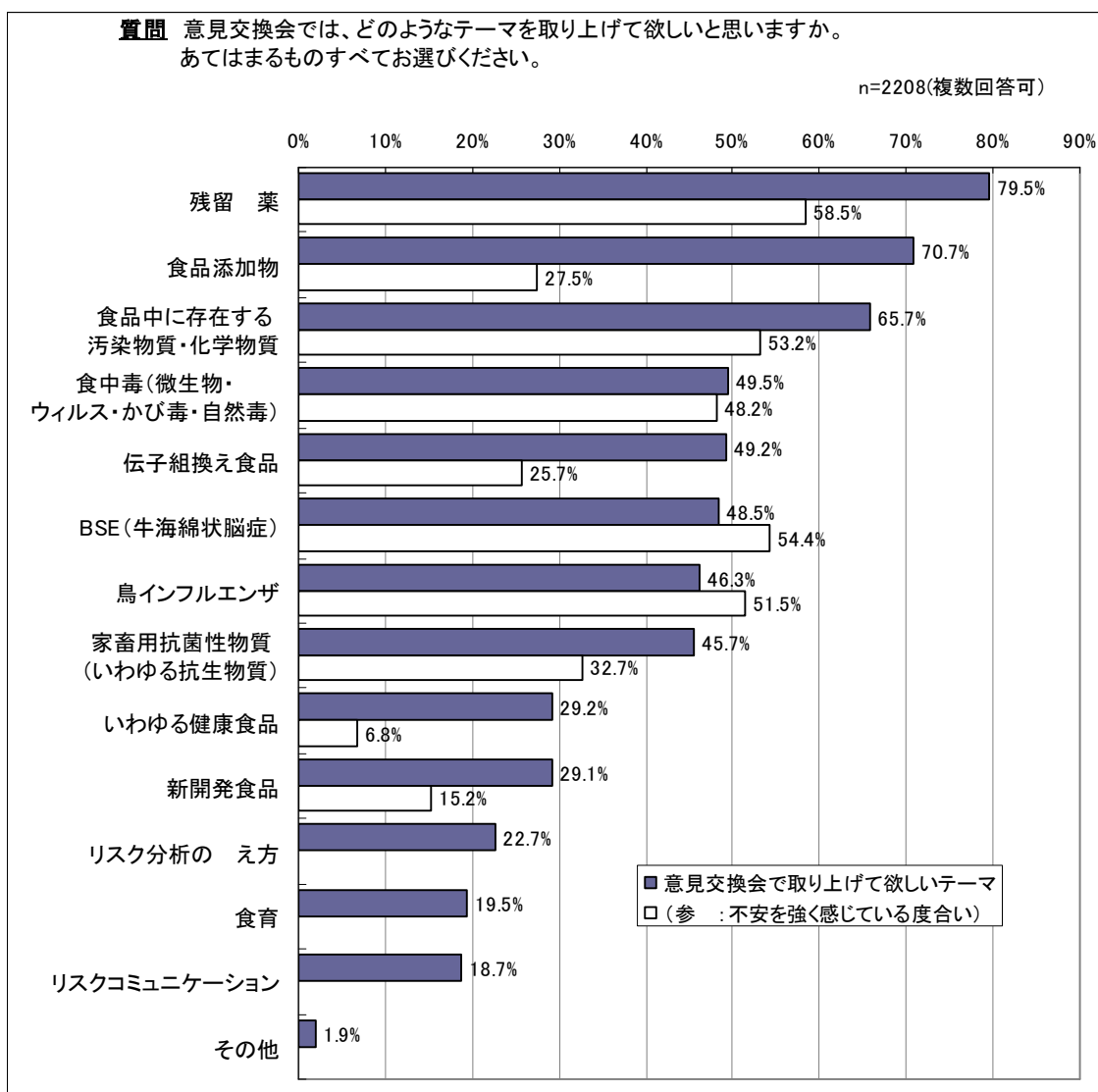


図 2-24 意見交換会で取り上げて欲しいテーマ

意見交換会で期待するプログラムについては、「専門家による講演」が最も多く73.6%を占め、次いで「消費者からの意見」(57.7%)や「パネルディスカッション」(45.4%)を挙げる割合が高い。一方、現在頻繁に行われている「行政による政策の説明」の要望は比較的低い結果となった。

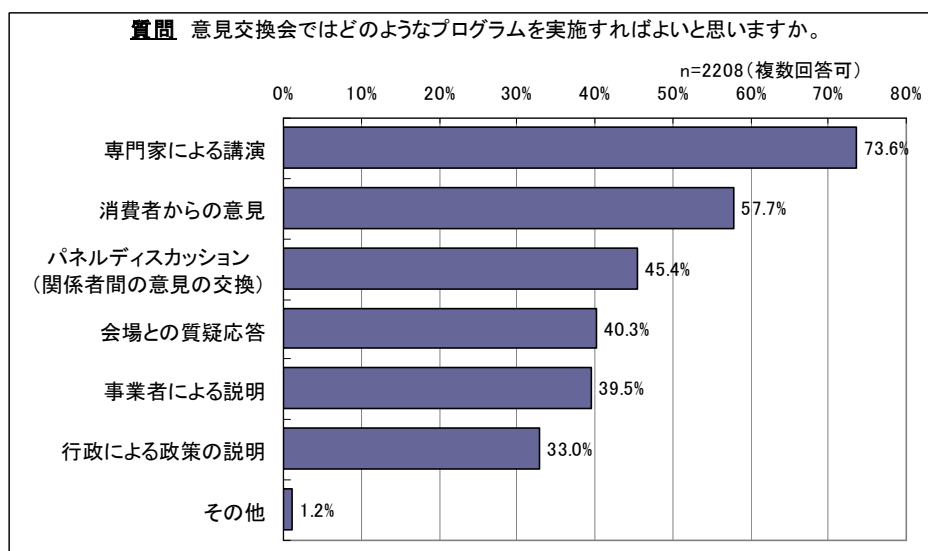


図 2-25 意見交換会に期待するプログラム

2.3 結果の考察

(1) 食の安全に関する意識

食品の購買行動などから消費者の食の安全への関心が高まりを見せており、特に産地や生産・流通事業者など、食の流通の川上への関心が高まっていることが推察できる。食の安全への考え方としても、外国産の食品へのリスク意識が高まっていることが特徴的である。

食の安全性の面から不安を感じる要因としては、「残留農薬」や「食品中の汚染物質・化学物質」が最も高い。次いで「BSE」、「食中毒」、「鳥インフルエンザ」、「食品添加物」に対する不安を持つ消費者が多く、食の安全性に関して多様な要因について不安を感じていることが読み取れる。

(2) 食の安全に対する知識レベルのミスマッチ

食に関する知識の有無についての自己認識は、他の全国レベルの調査においても実施されており、「十分にある、ある程度あると思う」という回答が半数を超えている。本調査でも同様の傾向があり、消費者は、食の安全について知識を持っている、と自

己認識している実態がわかった。

本調査では更に具体的な知識の有無を把握するため、食中毒防止方法や残留農薬に関する記載について、正しいものを選択してもらう設問を設けた。その結果、具体的な食中毒を防ぐ行動として「手洗い」や「加熱調理」などの一部の対策は認知されているものの、残留農薬に関する知識については、誤った認識を持つ回答者が多い結果であった。

これらの結果から、消費者の食の安全に知識については自己認識で知識の有無を問うのではなく、具体的な設問による確認を行うことが重要であることが示唆された。

情報発信する際は、情報を受信する側の状況を正しく理解することが必要である。たとえば、消費者の大半に食の安全に関する基礎知識があるという前提で情報発信すると、消理解してもらえない状況が発生する。

食品安全委員会のホームページについては、「専門的すぎる」、「文字が多い」、などの意見が多く挙げられている。一方で「情報が充実している」など、評価する意見も得られた。

(3) 意見交換会に関する要望

意見交換会の認知度は約1割で低い状況にあるが、参加の意向は3割程度の回答者から得られた。参加したい理由としては、詳しい情報やわかりやすい説明が聞けるなど、他では得られない情報入手に期待する意見が多い。

また特に男性の回答者からは、専門家との意見交換や他の参加者とのコミュニケーションの場として期待する意見も挙げられた。プログラム内容としても、専門家の講演の他、他の消費者の意見やパネルディスカッションなどへの要望が強い。この要望は、開催規模を50人以下の小規模なものがよいとする希望が多いことにも符合する。

つまり意見交換会に関しては、政策説明の場としてではなく、様々な立場の人が互いにディスカッションしあう場として機能することが必要であると考えられる。

また、参加を阻害する要因として、実施日時が周知されていない点や実施日時の都合が悪い点などが挙げられている。具体的な要望としては休日の午後や休日の午前など、休日開催の要望が強い。

今後、開催日時について再考するとともに、開催プログラムや方法を検討することが必要であると考えられる。

(4) 食の安全に関するリスクコミュニケーションについて

現在、食の安全に関する情報として、国の機関の情報は最も重要だと考えられており、次いでテレビ、新聞などが挙げられている。国の機関の情報が最も重要視されている点は特筆すべきであるが、食品安全委員会の認知度は約半数を占めているものの、

食品安全委員会のホームページやパンフレット類の認知度は各々1割未満に留まる。一方、食品安全委員会が BSE のリスク評価結果を発表したことについての認知度は24%に上る。前者は、食品安全委員会が自ら発信する媒体で、後者はマスコミ等を通じて発信するものである。

自ら発信する情報媒体には限りがあり、マスコミ等を通じた発信には規模的に及ばない。食品安全委員会の認知度を向上するためには、マスコミ等を活用することが有効であると考えられる。現在もリスク評価等の結果についてはプレス発表等が行われているが、今後プレス発表の表現方法やタイミング等を戦略的に行っていくことが重要であろう。

3. 調査結果の整理、分析、検証

3.1 食品安全に関する消費者の意識

(1) インタビュー結果に基づく世代間の意識の比較

a. 食品の安全性に関する認識

- 食品の安全性については、20代、40代とも共通して、「添加物（着色料・保存料）」、「産地（国産／外国産）」、「残留農薬」への関心、懸念が高い。これは、昨年度調査の30代の結果とも一致している。
- 食品の安全性に関する情報源は、各世代とも共通して、マスメディア、特にテレビの影響を挙げる。また、店頭でのポップ表示や食品パッケージも重要な情報源になっている。
- 添加物については、20代が学校での授業を情報源としている。40代も子供の授業から情報を得ている側面がある。30代の情報源としては、育児期に友達や母親から仕入れた可能性がある。いずれも着色料や保存料への懸念が強いが、完全に忌避するのは現実的ではなく、ある程度の摂取はしかたがない、との認識。
- 残留農薬への懸念は強く、派生して、中国からの輸入食品への強い忌避感、国産の生産者の顔の見える食材への安心感につながっている。
- BSE に対しては、20代では米国産牛肉の不安感はかなり払拭されている。一方、40代では、まだ忌避感が残っており米国産牛肉の消費選択にはつながっていない。

b. 食育の認知

- 「食育」という言葉は20代、40代とも認知されている。その内容は、主に食生活の改善と受け止められており、また生活全体を見直すなどの精神論も認識されている。
- スローフードやロハス志向とあいまって、添加物の入らない食生活を食育の一つの方向と考える側面もある。

c. 食品安全委員会の認知について

- テレビ報道などにより、各世代とも“名前を聞いたことがある”程度には認知されている。
- 食品安全委員会に対して、食品の安全に関する専門家で“白衣を着て検査をしている”とのイメージを持っている。
- 食品安全委員会のホームページも一般消費者にとって距離のある存在である。ホームページの印象は20代、40代共に、身近でない、専門的過ぎる、言葉が多くて

見づらい、一般の人に何を伝えようとしているかわからない、自分の関心に対応した入り口がない、など距離を感じさせる感想を持った。

(2) インタビュー結果とアンケート結果の比較

a. 食の安全に関する情報

- アンケートの結果では、食品の安全に関する情報で重視するものは国の機関(23%)、テレビ(15%)、新聞(13%)の順となった。一方、実際に得ている情報源では、インタビュー結果ではテレビの報道が最も影響が大きいとの結果となっている。従って、国の機関からもっと食品の安全性について情報を得たいが、現状では消費者にまでその情報が届いていない、との認識が持たれている可能性がある。

b. 食品の安全性について関心のあるテーマ、不安を感じるテーマ

- アンケート結果では、残留農薬、食品中に存在する汚染物質・化学物質、BSE、食中毒、鳥インフルエンザへの関心・懸念が高く、いずれも50%を超えた結果を得ている。一方、インタビューの結果は、「産地(国産/外国産)」、「残留農薬」、「添加物(着色料・保存料)」への懸念が代表的なものであった。
- 両者に共通するのは残留農薬で、不安や現実的なリスクを身近に感じているものと考えられる。
- BSEや鳥インフルエンザは、不安は高いものの、身近にある現実的なリスクとしては強く感じられてはいないので、インタビュー結果では特段の話題にならなかったのではないかと考えられる。また、添加物は逆に、強いリスク感は伴わないものの、身近で現実的なものとして懸念されている可能性がある。

3.2 意見交換会に関する消費者意識

(1) 認知度

a. アンケート結果

- 意見交換会の認知度は約10%、参加経験があるとする回答者は1.5%である。

(2) 参加意欲とその理由

a. アンケート結果

- 「参加したいと思う」という回答は32%であった。男女では、10ポイント前後、女性の方が高い参加意欲を示している。世代的な傾向としては男女とも年齢が高いほど意欲も向上しており、特に女性の場合は40代以降が総じて高い。
- 参加したい理由としては、「詳しい情報が得られる(79%)」が他に比して高く、続

いて「わかりやすい説明が聞ける(47%)」「両論を言われているものの安全性について結論が得られる(42%)」を挙げる比率も高い。男女の比較では、女性の方が高い割合を示しているものは「他では得られない詳しい情報が得られる」「わかりやすい説明を聞ける」「両論をいわれているものに結論が得られる」であり、男性は「聞きたいことを質問できる」「参加者と意見交換できる」の割合が高い。

- 「参加したくないと思う」という回答は68%であった。
- 参加したくない理由としては、「いつどこで開催されているかわからない(38%)」、「開催の日時や場所が都合に合わない(36%)」、「安全かどうかの結論が得られない(30%)」の比率が総じて高かった。一方、「関心がない(14%)」「知りたい情報が得られるとは思わない(20%)」などは低い比率に留まった。男女の比較では、女性の方が高い割合を示しているものは「開催の日時や場所が都合に合わない」「参加しても内容が難しくてわからない」であり、男性は「参加しても結論が得られない」「参加しても知りたい情報が得られない」「関心がない」の割合が高い。
- 全体として、意見交換会に対して一般消費者は一定の参加意欲を持っており、他で得られない詳しい情報の得られることに期待を持っている。参加しないという理由も、開催日時や場所などの都合に関するものであり、意見交換会の内容そのものに期待していないためではない(特に女性の場合はこの傾向が強い)。
- したがって、意見交換会の周知方法、開催の日時や場所などの運営面を配慮することにより、一般消費者の参加を促すことは可能と考えられる。
- なお、「安全かどうかの結論を得ること」については期待も高い反面、参加しても結論は得られないとする否定的な見方も根強い。一般消費者の参加を得るにはこの点に関する情報発信や伝え方に配慮する必要がある(特に男性の場合、この傾向が強い)。

b. インタビュー結果

- 意見交換会に実際に参加するかどうかについてインタビューでは、身近でない、専門的過ぎる、誰に何を伝えようとしているのかわからない、どう信じればよいかわからない、専門家に任しておけばよい、結論ありきなので参加しても意味が無い、参加するメリットが見えない、インターネットで見ればよい、などの理由で消極的な意見が得られた。
- 主な意見は以下の通り
 - ・ 内容の案内を見ると、専門家のための会であって、自分が行く場所ではないと感じる
 - ・ 食品の安全には興味があるが、参加するのは面倒
 - ・ 会の主目的が食品安全委員会の活動をアピールすることにあるようでメリットを感じない

- ・ 実際、自分の生活に照らし合わせるとスーパーマーケットなどでどういうところを気をつけたらいいのかなどを知りたいが、その答えは得られにくそう
 - ・ 既に決まっていることを“それでいいですね”と確認することが目的のように感じる
 - ・ インターネットのところで自分の興味あるところだけ読めばそれでいい
- 意見交換会の説明資料についても、専門用語が多く前提知識もないのでわかりにくい、誰に何を伝えようとしているのかわからない、との評価であった

(3) 開催目的への期待

a. アンケート結果

- 意見交換会で取り上げて欲しいテーマとしては「残留農薬（80%）」、「食品添加物（71%）」、「食品中に存在する汚染物質、化学物資（66%）」が総じて高く、次いで「食中毒（50%）」、「遺伝子組換え食品（49%）」、「BSE（49%）」、「鳥インフルエンザ（46%）」、「家畜用抗菌性物質（46%）」の順に半数近い選択があった。
- 意見交換会のプログラムとして実施して欲しいものは「専門家による講演（74%）」が他に比して高く、続いて「消費者からの意見（58%）」、「パネルディスカッション（関係者間の意見交換）（45%）」などに半数近い選択を得た。

(4) 開催形態への期待

a. アンケート結果

- 望ましい開催日時については「休日の午後（43%）」が他に比して高く、その他「休日の午前中（27%）」、「平日の午後（22%）」などにも一定の選択者があった。
- 望ましい意見交換会の実施規模については「50人以下（56%）」と過半数を占めて他の比して高く、続いて「51～100人（28%）」、「101～200人（9%）」、「201～300人（3%）」と、小規模なほど支持を集めている。
- 望ましい意見交換会の実施時間については「2時間程度（76%）」と他の引き離して高く、続いてと、「4時間程度（17%）」「午前午後を通して6時間程度（1%）」と時間の短いほど支持を集めている。
- 以上より、意見交換会の参加形態としては、小規模短時間で参加しやすい休日の午後という期待があり、気軽に参加できる身近な会の開催が望まれていると考えられる。

4. 効果的な意見交換会の企画及び実施方法の検討

意見交換会は、食品安全委員会が行うリスクコミュニケーションの一環として実施されている。意見交換会全体の実施目的は、食品安全委員会の主要な任務である科学的なリスク評価を中心とした食品の安全性の確保に関する施策の策定にあたって、以下の項目の促進を図るものである（“意見交換会の実施に関するガイドライン”、食品安全委員会・第35回リスクコミュニケーション専門調査会における配布資料、平成20年1月18日より）。

- 当該施策の策定への国民の意見の反映
- その過程の公正性及び透明性の確保
- 情報の提供
- 意見を述べる機会の提供
- 関係者間相互の情報及び意見の交換の促進

これまで実施されてきた意見交換会を通じて、以下のような課題が指摘されている（専門調査会、意見交換会アンケートより）。

- 意見交換会の目標として、誰に何を伝え何を達成するか、が明確にされていない
- 前提とする知識を持たない一般の参加者にとって内容が専門的でわかりにくい
- 消費者や生産者の具体的な関心や疑問への対応が不十分
- 時間の制約もあり意見交換が不十分
- 参加者が限定され固定されてしまっている。もう少し一般の消費者が参加しやすいように間口を広げることが必要
- 関心の低い層に参加を求めることは困難

効果的な意見交換会とは、上記の開催目的を満足するにあたり現状の課題への対処が適切になされているものであると考えられる。

4.1 目的

意見交換会は、誰に対して何を伝え何を達成するか、の設定が重要である。先にあげた意見交換会全体の目的に沿って個々の会を実施する際の目的のあり方を“何をテーマとし、誰に、何を伝え何を達成するか”というパターンで書き下すと、以下のようになる。

表 4-1 目的設定のパターン分類（何をテーマとし、誰に、何を伝え何を達成するか）

テーマとする リスク評価等、施策	意見交換会の対象者	伝えるもの・達成するもの
<ul style="list-style-type: none"> ➤ 社会的な関心や不安の高いもの ➤ 実態としてリスクが懸念されるもの ➤ 関係者間の利害関係が大きいもの ➤ リスクの実態について不確実性や誤解の大きいもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者 ・ 生産者 ・ 食品関連事業者（加工、販売、流通） ・ 食品衛生関係者 ・ 保健医療関係者 ・ メディア ・ 食品安全行政関係者 ・ 食品関連研究・教育機関 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 国民各層の意見を聴く ➤ 情報を公開し意見を聴くことで、その過程の公正性及び透明性を確保する ➤ 情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する ➤ 意見を述べる機会を提供する ➤ 関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する

実際の意見交換会の開催に際しては、個別のテーマについて、上記の分類に照らし具体的な目的設定を行う。（なお、伝えるもの・達成するもののうち、第2項目の「公正性及び透明性を確保する」は、他の項目に重複したものであるのでそれらに付託することで、以降の目標設定では省略する）

4.2 目標

意見交換会開催の目標は、前項においてパターン分類した個別の開催目的を具体化するために設定する。この目標は、個別の開催目的の達成を調べる指標となるものであり、また現状抱える課題にも配慮したものである必要がある。

表 4-2 意見交換会の目標設定（個別の開催目的の達成を調べる指標）

開催目的	目標	各意見交換会において具体的に設定すべき目標
国民各層の意見を聴く	意見交換会の対象からバランスよく参加者を募る	意見交換会の対象者
	特に消費者の積極的な参加を得る	—
	意見交換会の対象者が参加しやすい日時と場所を設定する	—
	広く参加を募るために、対象者の関心、懸念、疑問や社会的な重要性に対応したテーマを設定する	—
	広く参加を募るために、効果的な周知を行う	—
情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する	意見交換会の対象者の関心、懸念、疑問に適切に応える情報を提供する	—
	意見交換会の対象者の安全意識を改善する	期待する安全意識の改善
	意見交換会の対象者の理解を促進する	期待する理解の促進
	一般の消費者にとってわかりやすい情報の提供を行う	—
	意見交換会の対象者の安全確保の行動を促進する	期待する安全確保の行動
意見を述べる機会を提供する	意見交換会の参加者から多数の意見を募る	—
関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する	意見交換会の参加者相互の積極的な情報及び意見交換を実現する	—
	意見交換会の参加者の望む情報及び意見交換を実現する	—

4.3 対象、規模

a. 対象者

- 意見交換会の対象者は、個別の会の開催趣旨に照らし設定する
- 対象者の区分は以下の通り
 - 消費者
 - 生産者
 - 食品関連事業者（加工、販売、流通）
 - 食品衛生関係者
 - 保健医療関係者
 - メディア
 - 食品安全行政関係者
 - 食品関連研究・教育機関
- 会の開催趣旨として、以下の区分に関し、関心や懸念、利害関係などの高さを考慮し、適切な対象者を設定する
 - 社会的な関心や不安に応える
 - 実態としてリスクを周知する
 - 関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る
 - リスクの実態について不確実性や誤解の大きいものについて理解を得る
- 特に、意見交換会の現状の課題として“参加者が限定され固定されてしまっている。もう少し一般の消費者が参加しやすいように間口を広げることが必要”と指摘されている点に配慮し、一般の消費者の積極的な参加を得るための配慮を行う。
- 意見交換会への参加の拡大を期待する一般の消費者としては、特定の消費者団体に所属していたりこれまでに意見交換会に積極的に参加してきている高関心層に加えて、意見交換会に参加するほどではないが食品安全に関する情報収集に熱心であったり、食品の安全に関し漠然とした不安を抱いているなど、潜在的な参加可能性を持つ消費者を想定する。
- また、こうした一般の消費者の参加を拡大するために、参加した方々による口コミ等による他の関心層への普及を期待するとともに、配布した資料の他方面での 2 次利用やインターネットによる配信にも配慮する。すなわち、対象者として直接参加を得ない関心層への周知も想定するものであり、そのためにわかりやすい説明や説明資料の配布に配慮する。

b. 規模

- 一般の消費者の参加を促進するためには、50人以下や50～100人程度の規模の開催が望ましい。
- 一般の消費者は、身近で気軽に参加できるかたちで、小規模な意見交換会を交通の利便性の高い地域で頻繁に開催されることを望んでいると考えられる。一般の消費者の参加拡大を重視する場合には、この点に配慮する必要がある。

4.4 実施方法

a. 実施時期と時間

- 一般の消費者の参加を促進するためには、開催時期は、休日の午後が最も望ましく、続いて休日の午前、平日の午後などが候補となる。
- また、実施時間が短いほうが参加しやすいと受け止められており、2時間程度が最も望ましく、長くても4時間程度が現実的である。
- こうした事情は業務内容の一環として参加しづらい生産者にとっても同様であると考えられる。

b. テーマ設定

- テーマの設定は、前項でも検討したように、食品安全委員会側からのニーズに加えて、意見交換会対象者の関心や懸念、利害関係に配慮して、以下の点を重視して設定することが望ましい。
 - 社会的な関心や不安に応える
 - 実態としてリスクを周知する
 - 関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る
 - リスクの実態について不確実性や誤解の大きいものについて理解を得る
- 特に一般消費者の関心や懸念への対応を重視する場合には、以下の調査結果を参照することが望ましい。

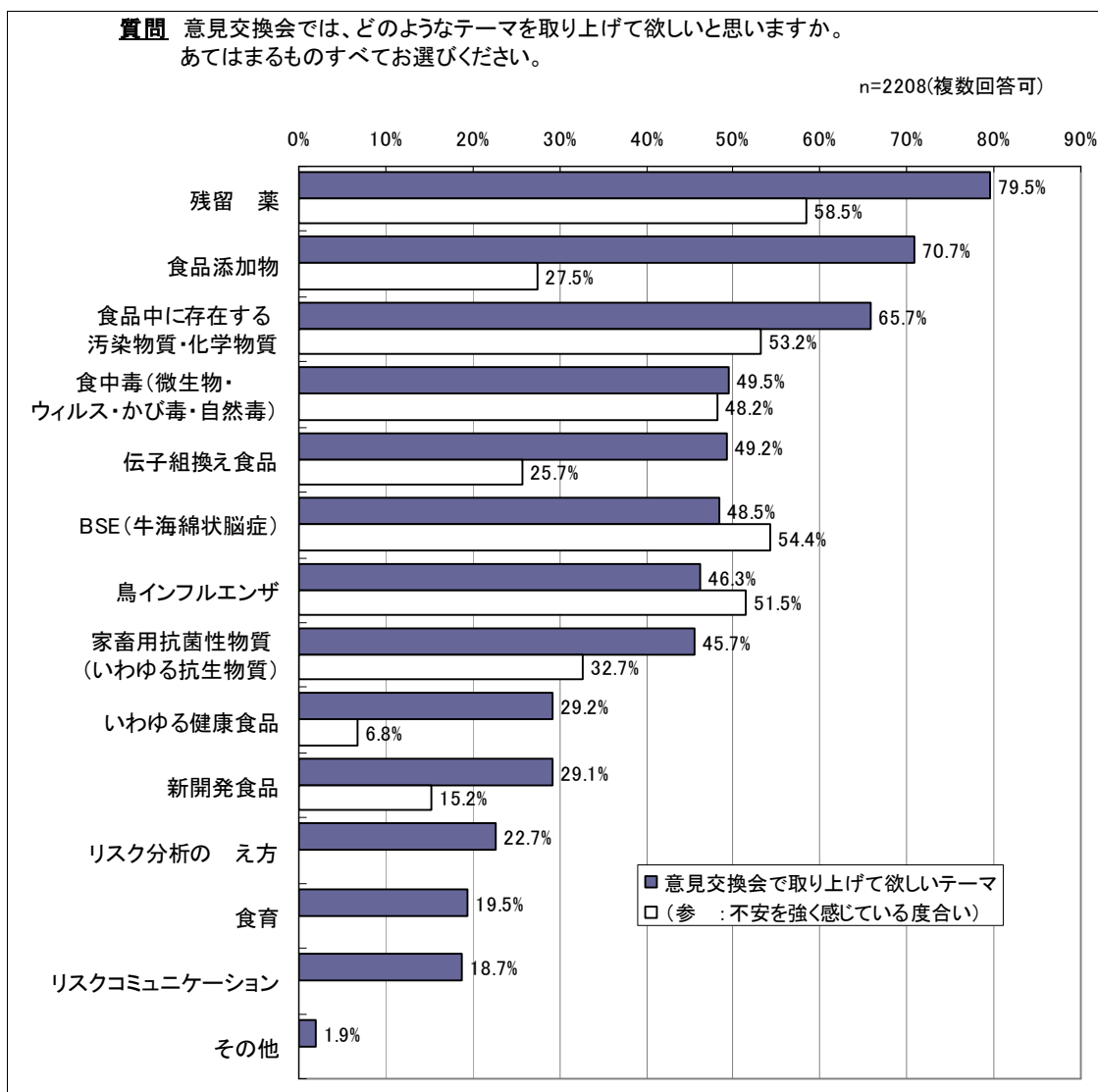


図 4-1 意見交換会で取り上げて欲しいテーマ (再掲)

c. プログラム構成

- 意見交換会のプログラム構成については、これまでの参加者へのアンケート結果から、質疑応答や意見交換に十分な時間をとって欲しいとの要望があり、配慮する必要がある。
- また、一般の消費者へのネットアンケートの結果からは、専門家による講演が最も求められており、続いて質疑応答と意見交換が挙げられている。一般の消費者は、会の参加目的として、他では得られない詳しい情報やわかりやすい解説を望んでいるので、この点に配慮した専門家の講演をプログラムとして実現する必要がある。

d. その他の配慮事項

- 一般の消費者は、前項でも記したように、他では得られない詳しい情報やわかりやすい解説を望んでおり、特に“実際、自分の生活に照らし合わせるとスーパーマーケットなどでどういうところを気をつけたらいいのかなどを知りたい”という、日頃の食生活に直結した関心、懸念、疑問への答えを求めている。このため、できるだけ専門用語を排した説明を行うとともに、説明の組み立てについても消費者の生活上の視点に配慮したものとする必要がある。
- 加えて、消費者は、「安全かどうかの結論を得ること」についても高い期待を持っている。一般の消費者への説明に当たっては、消費者の持つ懸念や疑問を汲み取った上で、できるだけ簡潔に要点を説明するよう心がける必要がある。

Ⅲ. 意見交換会の評価手法に関する調査

目次

1. アンケート票の作成	74
1.1 留意事項.....	74
1.2 アンケート票の作成.....	75
2. アンケート実施方法に関する調査	91
2.1 アンケートの効果的な実施方法	91
2.2 アンケート結果の分析・活用方法.....	95

1. アンケート票の作成

消費者等のニーズに応じた意見交換会及び食品安全委員会として実施すべき意見交換会について、その有効性に関する評価手法の一つであるアンケートの実施方法について調査、検討した。

また、今後の意見交換会の企画に当たっての留意事項等の抽出を可能とするアンケート票を作成した。なお、アンケート票の作成に当たっては、意見交換会の実施前後における参加者の意識や理解度の変化を把握し、意見交換会の企画及び実施方法の妥当性を検証することができるものとし、以下の事項に留意した。

1.1 留意事項

(1) 想定するアンケート実施対象者（回答者）

食品安全委員会が開催する意見交換会の参加者で想定する条件は以下の通り

- 一開催地当たりの参加者は 100～150 名程度
- 開催地は、主に首都圏
- 参加費無料
- 参加資格（職業、年齢等）等の条件は設定しない
- 開催当日に参加（随時受付）が可能

(2) アンケート項目に含まれるもの

①年代

②性別

③居移住地域

④意見交換会に参加する前の状態

- 意見交換会のテーマに対する意識のレベル
- 意見交換会のテーマの内容に対する認識や理解の程度
- 意見交換会のテーマに対する行動

⑤意見交換会に参加した後の状態

- 意見交換会のテーマに対する意識のレベルの変化について
- 意見交換会のテーマの内容に対する認識や理解の程度の変化について
- 意見交換会のテーマに対する行動変容について

⑥ ⑤の設問によって明示される変化・変容の要因

1.2 アンケート票の作成

(1) アンケート項目の候補の設定

アンケートで評価すべきものには、以下の項目が含まれる必要がある。

- 前項の留意事項①～⑥（Ⅲ.1.1 項参照）
- 意見交換会の目標の達成を調べる指標に関する項目（Ⅱ.4.2 項参照）
- 既存の意見交換会アンケートより継続する項目
- 意見交換会を実施したことによる理解度と満足度を調べる指標に関する項目

表 1-1 アンケート項目候補の設定

アンケート項目の候補	留意事項	目標の指標	既存票の継続	理解度と満足度
性別	●			
年代	●			
居住地域	●			
職業		●		
意見交換会を知った経緯			●	
過去の意見交換会への参加回数			●	
参加目的			●	●
参加目的の満足度				●
テーマに関する理解の促進	●	●		●
テーマに関するわかりやすさ		●		
参加者の関心、懸念、疑問への対応		●		
安全意識の改善	●	●	●	
安全確保の行動の促進	●	●		
参加者の望む意見交換の実現		●		●
意見交換会のプレゼンテーション (変化・変容の要因)	●			
意見交換会の取組の周知度			●	
意見交換会で取り上げて欲しいテーマ			●	

(2) 意見交換会におけるアンケート項目の調査

前項で設定したアンケート項目の候補について、実際の意見交換会において試行的な評価を行い、アンケートの項目の具体的な内容の在り方を検討した。

試行的な評価の方法は以下の通りである。

表 1-2 意見交換会のモニター評価の方法

評価の対象とする質問項目	<ul style="list-style-type: none">・ 参加目的・動機・ 参加目的の満足度・ テーマに関する理解の促進・ テーマに関するわかりやすさ・ 参加者の関心、懸念、疑問への対応・ 安全意識の改善・ 安全確保の行動の促進・ 参加者の望む意見交換の実現・ 意見交換会のプレゼンテーション
評価の観点	<ul style="list-style-type: none">・ 模擬質問に対する試行的な回答・ 回答の自由記述における選択肢の探索・ 質問のあり方の評価
モニター評価者	三菱総合研究所（6名）

評価の対象とした意見交換会は、食品中の鉛に関する自ら評価をテーマとしたものである。以下の意見交換会の概要を示す。

表 1-3 評価対象とした意見交換会の概要

日時 : 平成20年3月19日(水) 14:00~16:15
場所 : 食品安全委員会大会議室(東京都千代田区永田町2-13-10)
主催 : 食品安全委員会
議事 :
(1) 講演
○ 食品中の鉛を自ら評価の案件とした経緯 日野 明寛 (内閣府食品安全委員会事務局次長)
○ 鉛の基礎的知識 千葉 百子 (国際医療福祉大学薬学部教授)
○ 陶磁器等及び乳幼児玩具の鉛等の規格基準の改正について 光岡 俊成 (厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課課長補佐)
(2) 会場参加者との意見交換

①参加目的

意見交換会への参加目的はどのようなものか？

- ・他では得られない詳しい情報を得たい
- ・わかりやすい説明を聞きたい
- ・聞きたいことを質問したい
- ・他の参加者と意見交換をしたい
- ・両論のあるものについて明確な結論を得たい
- ・どのような人々が関わっているのか知りたい
- ・その他 [自由記述]

[モニター評価結果]

- 模擬質問に対する試行的な回答
 - ✓ 「他では得られない詳しい情報を得たい」が最も多く、その他、「わかりやすい説明を聞きたい」が選択された。この結果はアンケートとも一致している。
- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 「他の参加者の意見を聞きたい」「自分の考える意見を述べたい」「最新の科学的知見を得たい」「評価の考え方を知りたい」「規制の動向を知りたい」「周辺知識を得たい」という選択肢もありうる、との評価があった。
- 質問のあり方の評価
 - ✓ 「両論あるものについて明確な結論を得たい」という質問には、“誰が”が明確になるよう、「両論あるものについて明確な結論を聞きたい」とするべきでは、との評価があった。

②参加目的の満足度

※本項目はプログラムごとの質問に対する評価の総合

##による説明／意見交換は、参加目的を満足するものであったか？

- ・他では得られない詳しい情報を得たい
満足した / どちらでもない / 満足しなかった
その具体的な理由 []
- ・わかりやすい説明を聞きたい
満足した / どちらでもない / 満足しなかった
その具体的な理由 []
- ・両論のあるものについて明確な結論を得たい
満足した / どちらでもない / 満足しなかった
その具体的な理由 []
- ・どのような人々が関わっているのか知りたい
満足した / どちらでもない / 満足しなかった
その具体的な理由 []
- ・聞きたいことを質問したい
満足した / どちらでもない / 満足しなかった
その具体的な理由 []
- ・他の参加者と意見交換をしたい
満足した / どちらでもない / 満足しなかった
その具体的な理由 []

[モニター評価結果]

- 模擬質問に対する試行的な回答
 - ✓ 基本的には「満足した」「満足しなかった」を明確に答えられるが、一般消費者と立場からは「どちらでもない」とする回答もあった。これは、説明の情報は有用でわかりやすいと受け止められるものの、消費者として聞きたい情報とはずれていることが理由であった。「関心、懸念、疑問」への対応の程度を聞く必要も考えられる。
- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 食品中の鉛に関する情報が少ない、国際基準と国内の規制基準との関連がわかりにくかった、日常生活における食品中の鉛リスクを評価することの必要性がわかりにくかった、などの評価があった。
- 質問のあり方の評価
 - ✓ 貴重な情報を聞けたが自分の関心には対応したものではない、とする感

想をすくい取る問いが必要、との評価があった。

③テーマに関する理解の促進 ※本項目はプログラムごとの質問に対する評価の総合

##による説明／意見交換により、新しく得た知識はどのようなものか？

- ・食品に含まれている鉛の実態
その具体的な理由 []
- ・食品に含まれている鉛の危険性
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する健康影響評価
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する基準の設定
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する検査のあり方
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する規制のあり方
その具体的な理由 []
- ・その他
その具体的な理由 []

[モニター評価結果]

- 模擬質問に対する試行的な回答
 - ✓ 「食品に含まれている鉛の実態」「食品に含まれている鉛の危険性」「食品中の鉛に対する健康影響評価」「食品中の鉛に対する基準の設定」などが新しく得た知識の分類として満遍なく選択されており、基本的にはこの知識分類は妥当であると考えられる。
- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 「飲料水中にも鉛が含まれている」「米が主な摂取源である」「国際基準もある」「日常的な摂取量では健康リスクは低い」「過剰に摂取された場合は造血・腎臓・中枢神経系への影響がもたらされる」「治療法が示された」ことなどが新しく得た知識として挙げられた。
- 質問のあり方の評価
 - ✓ 貴重な情報を聞けたが自分の関心には対応したものではない、とする感想をすくい取る問いが必要、との評価があった。

④テーマに関するわかりやすさ ※本項目はプログラムごとの質問に対する評価の総合

##による説明／意見交換で、理解の促進に役立ったと思うものは何か？

- ・パワーポイントなど、資料による説明

その具体的な理由 []

- ・口頭による説明

その具体的な理由 []

- ・説明内容のわかりやすさ

その具体的な理由 []

- ・説明内容の詳しさ

その具体的な理由 []

- ・その他

その具体的な理由 []

[モニター評価結果]

➤ 模擬質問に対する試行的な回答

- ✓ 各評価項目（「資料による説明」「口頭による説明」「説明内容のわかりやすさ」「説明内容の詳しさ」）とも評価すべき内容が得られており、基本的にはこの質問項目は有効と考えられる。ただし、前半と後半は視点が違い答えにくい、などの難点もあった。

➤ 回答の自由記述における選択肢の探索

- ✓ 「動画の効果的な利用」「“主観的見解”の頻度」「説明者間の内容の重複」「行政としての問題意識や背景の説明」「数値による説明」「日常生活との関連や歴史的な背景」「話のポイントの置きかた」「話すスピード」などがわかりやすい／わかりにくいポイントとして挙げられた。

➤ 質問のあり方の評価

- ✓ わかりやすさについては、今回の質問の設定である程度評価が可能であるが、前半と後半は視点が違い答えにくいなどの難点もあり、改善が必要である。

⑤参加者の関心、懸念、疑問への対応 ※本項目はプログラムごとの質問に対する評価の総合

##による説明／意見交換により、解消された疑問はどのようなものか？

- ・食品に含まれている鉛の実態
その具体的な理由 []
- ・食品に含まれている鉛の危険性
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する健康影響評価
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する基準の設定
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する検査のあり方
その具体的な理由 []
- ・食品中の鉛に対する規制のあり方
その具体的な理由 []
- ・その他
その具体的な理由 []

[モニター評価結果]

- 模擬質問に対する試行的な回答
 - ✓ 「食品に含まれている鉛の実態」「食品に含まれている鉛の危険性」「食品中の鉛に対する基準の設定」などが解消された疑問の分類として選択された。疑問点に関するモニターの回答は多くはなかったが、今回のモニター評価の参加者はもともと食品中の鉛に特段の疑問や懸念を抱いて意見交換会に臨んだのではないことが背景にあると考えられる。疑問点の区分は新しく得た知識の区分と共通するものであり、新しく得た知識の区分では有用な回答を得ているので、基本的にはこの知識と疑問の分類は妥当であると考えられる。
- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 「鉛の危険性に関し国内で注目された事例」「消費者としての日常生活での留意点」「日常生活をするうえでは低いリスクの規制の必要性」「食品に含まれる鉛の現実的な危険性」ことなどが新しく得た知識として挙げられた。
- 質問のあり方の評価
 - ✓ テーマについて抱いている疑問や懸念が薄い参加者の感想をすくい取る

問い（関心、疑問、懸念を問う質問）が必要と考えられる。

⑥安全意識の改善

意見交換に参加して、どのようなことを考えたか？

- ・食品中には有害物質が含まれている場合があるので、気をつけたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []
- ・食品中に含まれている有害物質は基準が設けられ規制されているので、あまり心配しすぎないようにしたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []
- ・食品中に含まれている鉛を採りすぎないように、気をつけたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []
- ・食品中に含まれている鉛には基準が設けられ規制されているので、あまり心配しすぎないようにしたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []

[モニター評価結果]

- 模擬質問に対する試行的な回答
 - ✓ 「鉛は規制されているので心配しすぎないようにしたい」との選択肢に“そう思う”との回答があったが、他には安全に関する意識が改善されたとの評価は得られなかった。
- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 「鉛の取りすぎに気をつける」「鉛を心配しすぎない」の項目について“そう思わない”とする回答の理由としては、「食品中の鉛はそもそも日常生活において問題ないとの話だった」「日本での規制の状況が海外との関係においてよくわからなかった」「(そのような考えに至る)明確な説明がなかった」などが挙げられた。
- 質問のあり方の評価
 - ✓ 別項の安全確保の行動に関する質問との区別が難しいとの評価があった。
 - ✓ 安全意識については、過剰な懸念と現実にあるリスクに対する無防備さが問題となるが、今回の模擬質問では想定する回答者の意識やその変化

を汲み取りにくいと考えられる。一方、「100%の安全はないと考えるか」を問う現行の質問に対しては、唐突であるなどの指摘がある。質問の流れの中で自然に位置づけられ、安全意識を効果的に聴取できる質問を健闘する必要がある。

⑦安全確保の行動の促進

意見交換に参加して、どのようなことを自分で行なおうと考えたか？

- ・食品中に含まれている有害物質の種類や含有量を自分でも調べたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []
- ・食品中に含まれている有害物質を採り過ぎないように、食品を買うときに気をつけたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []
- ・食品中に含まれている鉛を採り過ぎないように、食品を買うときに気をつけたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []
- ・食品中に含まれている鉛を採りすぎないように、他の人にも教えてあげたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []
- ・食品中に含まれている鉛には基準が設けられ規制されているので、あまり心配しすぎないように、他の人にも教えてあげたい
強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
その具体的な理由 []

[モニター評価結果]

- 模擬質問に対する試行的な回答
 - ✓ 選択肢全体を通じて“そう思う”との回答はなく、安全確保の行動が促進されたとの評価は得られなかった。
- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 食品中の鉛はそもそも日常生活において大きな影響はないとのことだったので買い物時にも特に気をつけようとは思わなかった、などの評価があった。

- 質問のあり方の評価
 - ✓ 別項の安全確保の行動に関する質問との区別が難しいとの評価があった。
 - ✓ 安全確保の行動については、食品の安全問題に関する情報収集、消費行動、他者への情報伝達を選択肢に想定したが、安全意識の質問との混同の可能性などから、選択肢を絞り込むことを検討することが望ましい。例えば、消費行動に絞り込むことが考えられる。

⑧参加者の望む意見交換の実現

会場参加者との意見交換は、そのような点に役立つと考えたか？

- 会場参加者の理解の促進に役立つ
 強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
 その具体的な理由 []
- 会場参加者の疑問の解消に役立つ
 強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
 その具体的な理由 []
- 様々な考え方や意見のあることを知ることができる
 強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
 その具体的な理由 []
- 意見交換の内容を国の政策に活かすことができる
 強くそう思う／そう思う／どちらでもない／そう思わない／まったく思わない
 その具体的な理由 []
- その他、具体的に []

[モニター評価結果]

- 模擬質問に対する試行的な回答
 - ✓ 「会場参加者の疑問の解消に役立つ」点で、“そう思う”との回答があった。その他の選択肢については“そう思う”との評価はなかった。これは、今回の意見交換会において明示的な意見交換がなかったためと考えられる。
- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 疑問の解消に役立つのは、説明者が会場からの質問に丁寧に答えていたため、との評価であった。
- 質問のあり方の評価
 - ✓ 「参加者の望む意見交換の実現」は、他項の「(意見交換を評価対象とし

た) 参加目的の満足」との区別が難しいとの評価があった。後者で質問意図を満足できる場合には、質問数の縮減にも配慮して本項は省略することが考えられる。

⑨意見交換会のプレゼンテーション

(本項目は、設問④“テーマに関するわかりやすさ”と併用して調べるものである)

[モニター評価結果]

- 回答の自由記述における選択肢の探索
 - ✓ 「動画の効果的な利用」「“主観的見解”の頻度」「説明者間の内容の重複」「行政としての問題意識や背景の説明」「数値による説明」「日常生活との関連や歴史的な背景」「話のポイントの置きかた」「話すスピード」などがわかりやすい／わかりにくいポイントとして挙げられた。
 - ✓ 参加者の理解や安全意識、安全確保の行動変容の要因を調べるにあたっては、これらのポイントが参考になる。

(3) 具体的なアンケート票の作成

(1)項において設定した質問項目に基づき、(2)項で実際の意見交換会（食品中の鉛について考える）で模擬的に試行した評価結果を反映させ、具体的なアンケート票を作成した。

ここでは食品中の鉛に関する意見交換会を対象に作成した。アンケート票は、基本的にはどの意見交換会についても共通のものであるが、質問の中には一部、意見交換会ごとの具体的な内容を提示すべきものがある。この質問は備考に説明を付した。また各質問には質問の意図を明記した。

表 1-4 アンケート票の設計

問1. ご自身についてお聞かせください。 以下の設問について、それぞれあてはまるもの1つを選んでください。
①性別 選択肢： 男性／女性 質問意図： アンケート結果の男女による差異を調べる
②年齢 選択肢： 20歳未満／20歳代／30歳代／40歳代／50歳代／60歳代／70歳以上 質問意図： アンケート結果の年齢による差異を調べる
③職業 選択肢： 消費者団体／主婦、学生、無職／生産者／食品関連業者／マスコミ ／行政／食品関連研究／その他 質問意図： アンケート結果の職業による差異を調べる
④本日の意見交換会開催をどこでお知りになりましたか。（意見交換会を知った経緯） 選択肢： 食品安全委員会のホームページ／食品安全委員会からのご案内資料 ／食品安全委員会のメールマガジン（e-マガジン） ／関係団体からのご案内資料／知人からの紹介 質問意図： 意見交換会開催の周知が効果的になされているか調べる
⑤食品安全委員会が実施する意見交換会への参加回数 (過去の意見交換会への参加回数) 選択肢： 初めて／2回目／3回目／4回目／5回以上

質問意図： 参加者は固定されているのか、新規の拡大はどの程度かを調べる

問2. 本日の意見交換会の内容について伺います。

以下の設問について、それぞれあてはまるもの1つを選んでください。

①本日の意見交換会に参加された目的 (参加目的)

選択肢： 他では得られない詳しい情報を得たい

／専門的な内容についてわかりやすい説明を聞きたい

／どのような施策がとられるのか知りたい

／疑問のある点について質問したい

／自分の考える意見を述べたい

／他の人と意見交換をしたい

／様々な考え方のあるものについて明確な結論を聞きたい

／業務の一環として参加する必要がある

／国が行なうリスクコミュニケーションの取組を知りたい

／その他 [自由記述]

質問意図： 参加目的の満足度を調べ、意見交換会の開催目的の達成度を把握する資料とする

②本日の意見交換会は、①でお答えいただいた参加の目的に対して、どの程度満足できるものでしたか。

選択肢： 充分満足した／ほぼ満足した／あまり満足できなかった

／まったく満足できなかった／どちらでもない

(満足できなかったとした人のみ)

／満足できなかった理由 [自由記述]

質問意図： ①項と組み合わせ、参加目的の満足度を調べ、意見交換会の開催目的の達成度を把握する資料とする

③本日の意見交換会は、有益な情報が得られるものでしたでしょうか。

有益だと思われたものがありましたら、○で囲んでください。(複数選択可)

(テーマに関する理解の促進)

(参加者の関心、懸念、疑問への対応)

選択肢： 食品に含まれている鉛の実態について

／食品に含まれている鉛の危険性について

／食品に含まれている鉛の健康影響評価の結果について

／食品中の鉛に対して設定された基準について

／食品中の鉛に対する検査の方法について

／食品中の鉛に対する規制のあり方について

／その他 [自由記述]

／有益な情報は得られなかった [自由記述]

質問意図： 有益な情報の具体的な内容を尋ねて、理解の促進の程度を調べる。
すなわち、“参加者の＃％が有益な知識を新たに得た”と解釈する。
また、得られなかった情報を聞くことで、参加者の関心、懸念、
疑問への対応度も調べる。

備考： 本項目については、意見交換会の企画時に会において普及を図りたい知
識を設定し、この選択肢に反映しておく必要がある。

④本日の意見交換会に参加されて、食品中の鉛についてはどのようにお考えになりましたか。

④-a 食品中の鉛のリスクについて (安全意識の改善)

選択肢： 食品中の鉛を摂り過ぎないように、これからは気をつけたい
／食品中の鉛については、あまり心配しすぎないようにしたい
／食品中の鉛のリスクについて、もっと調べたい

質問意図： 安全意識として、過剰な懸念と現実にあるリスクに対する無防備さ
の双方についての改善の程度を調べる。「考えに変化がありましたか」と直接尋ねることは質問意図が露骨に顕れるので避け、間接的に聞くアプローチをとった。“参加者の＃％に過剰な懸念の改善が見られた”と解釈する。

備考： 本項目については、意見交換会の企画時に会において改善を図りたい安全意識の内容を設定し、この選択肢に反映しておく必要がある。

④-b 食品中の鉛の評価について (行動の促進)

選択肢： 「自ら評価」の実施状況について関心を持って注目したい
／清涼飲料水の規格基準の改正について関心を持って注目したい
／(第3の選択肢)

質問意図： 行動の促進として、消費行動や情報収集の行動変容を調べる。“参加者の＃％に行動の促進が見られた”と解釈する。今回の意見交換会で期待されるものとしては、消費行動の変化ではなく事業者を主な対象とした「自ら評価」への理解と考えられるため、上記の選択肢を設定している。

備考： 本項目については、意見交換会の企画時に会において促進したい行動変容の内容を設定し、この選択肢に反映しておく必要がある。

問3. 本日の意見交換会の進め方について伺います。会のプログラムごとに感じた印象についてお聞かせください。

(意見交換会のプレゼンテーション<変化・変容の要因>)

①開催時間は適切でしたか

選択肢： 長すぎる／やや長い／ちょうど良い／やや短い／短すぎる

②参加人数は適切でしたか

選択肢： 多すぎる／やや多い／ちょうど良い／やや少ない／少なすぎる

③説明の方法について伺います

③-a 説明の詳しさ

選択肢： 詳しすぎる／ちょうど良い／簡単すぎる／どちらでもない

③-b 説明のわかりやすさ

選択肢： わかりやすい／ちょうど良い／簡単すぎる／どちらでもない

③-c 説明資料の読みやすさ

選択肢： 読みやすい／読みにくい／どちらでもない

③-d 説明者の話し方

選択肢： 早すぎる／ちょうど良い／ゆっくりすぎる／どちらでもない

③-e 説明者の話のポイント

選択肢： 話しのポイントは明確だった／話しのポイントが不明瞭だった
／どちらでもない

③-f 専門用語の使い方

選択肢： 専門用語が多くて難解だった／ちょうど良い／言葉遣いが平易すぎてかえってわかりにくい／どちらでもない

質問意図（問3 共通）：効果的な意見交換会の開催に影響を与えうるプレゼンテーションの良し悪しを調べる。回答者の負担を考慮して、意見交換会全体について尋ねている。

問4. 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のもの、あるいは利用したことのあるものがあれば、すべて選んで○をつけてください。

選択肢： 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと
／食品安全委員会のホームページ／食の安全ダイヤル
／食品安全委員会メールマガジン／食品安全モニター制度
／季刊誌「食品安全」／食品の安全性に関する用語集
／食品の安全性に関する政府広報／その他 [自由記述]

質問意図： 食品安全委員会の広報活動の周知度を調べる

問5. 食品の安全性を確保していく観点から意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げて欲しいテーマについてお聞かせください。

選択肢： 食品添加物／残留農薬／食品中に存在する汚染物質・化学物質
／遺伝子組換え食品／動物用抗菌性物質（いわゆる抗生物質）
／BSE（牛海綿状脳症）／食中毒（微生物、ウイルス、かび毒、自然毒）
／鳥インフルエンザ／新開発食品／いわゆる健康食品
／リスクコミュニケーション／リスク分析の考え方／食育
／その他 [自由記述]

質問意図： 参加者の関心事項を把握し、次回の意見交換会の企画に資する。

問6. 最後に、全体を通してご意見、ご感想がありましたらお聞かせください。

選択肢： [自由記述]

質問意図： 意見交換会全体についての評価を把握する。

2. アンケート実施方法に関する調査

前章において、アンケートの基本的な質問項目を設定し、実際の意見交換会（食品中の鉛）において質問内容の妥当性に関し調査を行った。またその結果を、アンケート設計項目としてまとめている。ここでは、これらの調査、検討結果を踏まえ、アンケートの効果的な実施方法と分析・活用方法を検討した。

2.1 アンケートの効果的な実施方法

(1) アンケート票の作成

意見交換会の開催にあたって、開催目的を具体化し、その目的に応じたアンケート票を作成する。

a. 開催テーマに照らした、開催趣旨の明確化

開催テーマ（例えば、食品中の鉛に関する自ら評価の実施）に照らし、開催趣旨を明確化する。目的としては、例えば以下の区分を考える。

- 社会的な関心や不安に応える
- 実態としてリスクを周知する
- 関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る
- リスクの実態について不確実性や誤解の大きいものについて理解を得る

b. 開催目的の具体化

開催テーマと開催趣旨に応じて、開催目的を「誰に、何を伝え、何を達成するか」の観点から具体化する。

意見交換会の対象者（誰に）に関しては、以下の区分を参考とし具体化する。

- 消費者
- 生産者
- 食品関連事業者（加工、販売、流通）
- 食品衛生関係者
- 保健医療関係者
- メディア
- 食品安全行政関係者
- 食品関連研究・教育機関

意見交換会で伝え達成するものについては、以下の区分を参考とし具体化する。

- 国民各層の意見を聴く

- 情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する
- 意見を述べる機会を提供する
- 関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する

理解や適切な安全確保の行動促進の具体的な目標として、以下の項目を設定する。これらの具体的な目標は、アンケート票の質問の選択肢に反映する。

- 期待する安全意識の改善
 - (具体例：食品中の鉛の場合)
 - 食品中の鉛の摂取に対する過剰な懸念を払拭する
- 期待する理解の促進
 - (具体例：食品中の鉛の場合)
 - 食品に含まれている鉛の実態
 - 食品に含まれている鉛の危険性
 - 食品に含まれている鉛の健康影響評価の結果
 - 食品中の鉛に対して設定された基準
 - 食品中の鉛に対する検査の方法
 - 食品中の鉛に対する規制のあり方
- 期待する安全確保の行動の促進
 - (具体例：食品中の鉛の場合)
 - 「自ら評価」の実施に理解を示し注目する

以下の表 2-1 を参考とし、上記以外の目標についても必要ならば具体化し、また目標の優先度についても事前に設定しておく。

c. アンケート票の作成

目標として設定した「安全意識の改善」「理解の促進」「安全確保の行動の促進」の具体的な内容を反映し、アンケート票の選択肢を完成させる。

表 2-1 目標設定とアンケート項目設定

開催目的	目標	各意見交換会において具体的に設定すべき目標
国民各層の意見を聴く	意見交換会の対象からバランスよく参加者を募る	意見交換会の対象者
	特に消費者の積極的な参加を得る	—
	意見交換会の対象者が参加しやすい日時と場所を設定する	—
	広く参加を募るために、対象者の関心、懸念、疑問や社会的な重要性に対応したテーマを設定する	—
	広く参加を募るために、効果的な周知を行う	—
情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する	意見交換会の対象者の関心、懸念、疑問に適切に応える情報を提供する	—
	意見交換会の対象者の安全意識を改善する	期待する安全意識の改善
	意見交換会の対象者の理解を促進する	期待する理解の促進
	一般の消費者にとってわかりやすい情報の提供を行う	—
	意見交換会の対象者の安全確保の行動を促進する	期待する安全確保の行動
意見を述べる機会を提供する	意見交換会の参加者から多数の意見を募る	—
関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する	意見交換会の参加者相互の積極的な情報及び意見交換を実現する	—
	意見交換会の参加者の望む情報及び意見交換を実現する	—

(2) アンケートの実施

アンケートの実施にあたっては、以下の点に配慮する。

- 無記名とする
- 実施機会は、各意見交換会につき1回とする。配布資料中に事前に封入しておき、会の開催中に記入いただき、終了後回収する
- これまでの実績から、A4、両面2ページでも十分な回収数を得ていることから、今後もこの分量とする
- アンケート票にはカラーペーパーを用い、他の資料にまぎれず差別化できるようにする

2.2 アンケート結果の分析・活用方法

アンケート結果を用いて、事前に設定した目標の達成度を評価する。アンケートの項目と目標の関係を以下に示す。

表 2-2 設定した目標と達成度を評価するためのアンケート項目との関係

開催目的	目標	達成度の評価 (関連アンケート項目)
国民各層の意見を聴く	意見交換会の対象からバランスよく参加者を募る	対象とした参加者が得られたか (問1③職業)
	特に消費者の積極的な参加を得る	同上
	意見交換会の対象者が参加しやすい日時と場所を設定する	十分な参加者が得られたか
	広く参加を募るために、対象者の関心、懸念、疑問や社会的な重要性に対応したテーマを設定する	参加者の期待するテーマとの乖離はなかったか (問2③有益な情報)
	広く参加を募るために、効果的な周知を行う	想定どおりの周知が行なえたか (問1④経緯)
情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する	意見交換会の対象者の関心、懸念、疑問に適切に応える情報を提供する	参加者の期待する情報との乖離はなかったか (問2③有益な情報)
	意見交換会の対象者の安全意識を改善する	安全意識の具体的な目標は改善されたか (問2④-a)
	意見交換会の対象者の理解を促進する	理解の具体的な目標は改善されたか (問2③)
	一般の消費者にとってわかりやすい情報の提供を行う	情報提供はわかりやすかったか (問3③)
	意見交換会の対象者の安全確保の行動を促進する	安全確保行動の具体的な目標は促進されたか (問2④-b)
意見を述べる機会を提供する	意見交換会の参加者から多数の意見を募る	多数の質問が参加者からなされたか
関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する	意見交換会の参加者相互の積極的な情報及び意見交換を実現する	多数の意見交換が参加者間でなされたか
	意見交換会の参加者の望む情報及び意見交換を実現する	参加者の望む意見交換が行なわれたか (問2①②参加目的)

IV. まとめ及び今後の課題

本調査では、以下の3項目について調査検討を行った。

- ①消費者等の関心事項に対応した効果的な意見交換会の実施に関する調査
- ②意見交換会の評価手法に関する調査
- ③調査結果の取りまとめ

これらの調査結果から明らかになった点と今後の課題を以下にまとめる。

1. 消費者等の関心事項に対応した効果的な意見交換会の実施に関する調査

食品の安全性に対する消費者等の関心度を把握するため、フォーカスグループインタビュー及びインターネットアンケートによる調査を実施するとともに、当該調査結果と類似調査（世論調査等）の結果を照合し、当該調査結果の妥当性を検証した。また、消費者等の関心度の高いテーマについて、効果的な意見交換会の企画、実施方法について検討を行った。

主たる調査結果を以下に示す。

1.1 フォーカスグループインタビューの結果

①食品の安全性に関する認識

- 食品の安全性については、20代、40代とも共通して、「添加物（着色料・保存料）」、「産地（国産／外国産）」、「残留農薬」への関心、懸念が高い。これは、昨年度調査の30代の結果とも一致している。
- 食品の安全性に関する情報源は、各世代とも共通して、マスメディア、特にテレビの影響を挙げる。また、店頭でのポップ表示や食品パッケージも重要な情報源になっている。
- 添加物については、20代が学校での授業を情報源としている。40代も子供の授業から情報を得ている側面がある。30代の情報源としては、育児期に友達や母親から仕入れた可能性がある。いずれも着色料や保存料への懸念が強いが、完全に忌避するのは現実的ではなく、ある程度の摂取はしかたがない、との認識。
- 残留農薬への懸念は強く、派生して、中国からの輸入食品への強い忌避感、国産の生産者の顔の見える食材への安心感につながっている。
- BSE に対しては、20代では米国産牛肉の不安感はかなり払拭されている。一方、40代では、まだ忌避感が残っており米国産牛肉の消費選択にはつながっていない。

②食育の認知

- 「食育」という言葉は20代、40代とも認知されている。その内容は、主に食生活の改善と受け止められており、また生活全体を見直すなどの精神論も認識されている。
- スローフードやロハス志向とあいまって、添加物の入らない食生活を食育の一つの方向と考える側面もある。

③食品安全委員会の認知について

- テレビ報道などにより、各世代とも“名前を聞いたことがある”程度には認知されている。
- 食品安全委員会に対して、食品の安全に関する専門家で“白衣を着て検査をしている”とのイメージを持っている。
- 食品安全委員会のホームページも一般消費者にとって距離のある存在である。ホームページの印象は20代、40代共に、身近でない、専門的過ぎる、言葉が多くて見づらい、一般の人に何を伝えようとしているかわからない、自分の関心に対応した入り口がない、など距離を感じさせる感想を持った。

1.2 インターネットアンケートの結果

①食の安全に関する意識

食品の購買行動などから消費者の食の安全への関心が高まりを見せており、特に産地や生産・流通事業者など、食の流通の川上への関心が高まっていることが推察できる。食の安全への考え方としても、外国産の食品へのリスク意識が高まっていることが特徴的である。

食の安全性の面から不安を感じる要因としては、「残留農薬」や「食品中の汚染物質・化学物質」が最も高い。次いで「BSE」、「食中毒」、「鳥インフルエンザ」、「食品添加物」に対する不安を持つ消費者が多く、食の安全性に関して多様な要因について不安を感じていることが読み取れる。

②食の安全に対する知識レベルのミスマッチ

食に関する知識の有無についての自己認識は、他の全国レベルの調査においても実施されており、「十分にある、ある程度あると思う」という回答が半数を超えている。本調査でも同様の傾向があり、消費者は、食の安全について知識を持っている、と自己認識している実態がわかった。

本調査では更に具体的な知識の有無を把握するため、食中毒防止方法や残留農薬に関する記載について、正しいものを選択してもらう設問を設けた。その結果、具体的

な食中毒を防ぐ行動として「手洗い」や「加熱調理」などの一部の対策は認知されているものの、残留農薬に関する知識については、誤った認識を持つ回答者が多い結果であった。

これらの結果から、消費者の食の安全に知識については自己認識で知識の有無を問うのではなく、具体的な設問による確認を行うことが重要であることが示唆された。

情報発信する際は、情報を受信する側の状況を正しく理解することが必要である。たとえば、消費者の大半に食の安全に関する基礎知識があるという前提で情報発信すると、消理解してもらえない状況が発生する。

食品安全委員会のホームページについては、「専門的すぎる」、「文字が多い」、などの意見が多く挙げられている。一方で「情報が充実している」など、評価する意見も得られた。

③意見交換会に関する要望

意見交換会の認知度は約1割で低い状況にあるが、参加の意向は3割程度の回答者から得られた。参加したい理由としては、詳しい情報やわかりやすい説明が聞けるなど、他では得られない情報入手に期待する意見が多い。

また特に男性の回答者からは、専門家との意見交換や他の参加者とのコミュニケーションの場として期待する意見も挙げられた。プログラム内容としても、専門家の講演の他、他の消費者の意見やパネルディスカッションなどへの要望が強い。この要望は、開催規模を50人以下の小規模なものがよいとする希望が多いことにも符合する。

つまり意見交換会に関しては、政策説明の場としてではなく、様々な立場の人が互いにディスカッションしあう場として機能することが必要であると考えられる。

また、参加を阻害する要因として、実施日時が周知されていない点や実施日時の都合が悪い点などが挙げられている。具体的な要望としては休日の午後や休日の午前など、休日開催の要望が強い。

今後、開催日時について再考するとともに、開催プログラムや方法を検討することが必要であると考えられる。

1.3 意見交換会に対する消費者意識

①認知度

- 意見交換会の認知度は約10%、参加経験があるとする回答者は1.5%である。

②参加意欲とその理由

- 「参加したいと思う」という回答は32%であった。男女では、10ポイント前後、

女性の方が高い参加意欲を示している。世代的な傾向としては男女とも年齢が高いほど意欲も向上しており、特に女性の場合は40代以降が総じて高い。

- 参加したい理由としては、「詳しい情報が得られる(79%)」が他に比して高く、続いて「わかりやすい説明が聞ける(47%)」「両論を言われているものの安全性について結論が得られる(42%)」を挙げる比率も高い。男女の比較では、女性の方が高い割合を示しているものは「他では得られない詳しい情報が得られる」「わかりやすい説明を聞ける」「両論をいわれているものに結論が得られる」であり、男性は「聞きたいことを質問できる」「参加者と意見交換できる」の割合が高い。
- 「参加したくないと思う」という回答は68%であった。
- 参加したくない理由としては、「いつどこで開催されているかわからない(38%)」、「開催の日時や場所が都合に合わない(36%)」、「安全かどうかの結論が得られない(30%)」の比率が総じて高かった。一方、「関心がない(14%)」「知りたい情報が得られるとは思わない(20%)」などは低い比率に留まった。男女の比較では、女性の方が高い割合を示しているものは「開催の日時や場所が都合に合わない」「参加しても内容が難しくてわからない」であり、男性は「参加しても結論が得られない」「参加しても知りたい情報が得られない」「関心がない」の割合が高い。
- 全体として、意見交換会に対して一般消費者は一定の参加意欲を持っており、他で得られない詳しい情報の得られることに期待を持っている。参加しないという理由も、開催日時や場所などの都合に関するものであり、意見交換会の内容そのものに期待していないためではない(特に女性の場合はこの傾向が強い)。
- したがって、意見交換会の周知方法、開催の日時や場所などの運営面を配慮することにより、一般消費者の参加を促すことは可能と考えられる。
- なお、「安全かどうかの結論を得ること」については期待も高い反面、参加しても結論は得られないとする否定的な見方も根強い。一般消費者の参加を得るにはこの点に関する情報発信や伝え方に配慮する必要がある(特に男性の場合、この傾向が強い)。
- 意見交換会に実際に参加するかどうかについてインタビューでは、身近でない、専門的過ぎる、誰に何を伝えようとしているのかわからない、どう信じればよいかかわからない、専門家に任しておけばよい、結論ありきなため参加しても意味が無い、参加するメリットが見えない、インターネットで見ればよい、などの理由で消極的な意見が得られた。
- 主な意見は以下の通り
 - ・ 内容の案内を見ると、専門家のための会であって、自分が行く場所ではないと感じる
 - ・ 食品の安全には興味があるが、参加するのは面倒
 - ・ 会の主目的が食品安全委員会の活動をアピールすることにあるようでメ

リットを感じない

- ・ 実際、自分の生活に照らし合わせるとスーパーマーケットなどでどうい
ところを気をつけたらいいのかなどを知りたいが、その答えは得られにく
そう
 - ・ 既に決まっていることを“それでいいですね”と確認することが目的のよ
うに感じる
 - ・ インターネットのところで自分の興味あるところだけ読めばそれでいい
- 意見交換会の説明資料についても、専門用語が多く前提知識もないのでわかりに
くい、誰に何を伝えようとしているのかわからない、との評価であった

③開催目的への期待

- 意見交換会で取り上げて欲しいテーマとしては「残留農薬（80%）」、「食品添加物
（71%）」、「食品中に存在する汚染物質、化学物資（66%）」が総じて高く、次いで
「食中毒（50%）」、「遺伝子組換え食品（49%）」、「BSE（49%）」、「鳥インフルエ
ンザ（46%）」、「家畜用抗菌性物質（46%）」の順に半数近い選択があった。
- 意見交換会のプログラムとして実施して欲しいものは「専門家による講演（74%）」
が他に比して高く、続いて「消費者からの意見（58%）」、「パネルディスカッショ
ン（関係者間の意見交換）（45%）」などに半数近い選択を得た。

④開催形態への期待

- 望ましい開催日時については「休日の午後（43%）」が他に比して高く、その他「休
日の午前中（27%）」、「平日の午後（22%）」などにも一定の選択者があった。
- 望ましい意見交換会の実施規模については「50人以下（56%）」と過半数を占めて
他の比して高く、続いて「51～100人（28%）」、「101～200人（9%）」、「201～300
人（3%）」と、小規模なほど支持を集めている。
- 望ましい意見交換会の実施時間については「2時間程度（76%）」と他の引き離し
て高く、続いてと、「4時間程度（17%）」「午前午後を通して6時間程度（1%）」
と時間の短いほど支持を集めている。
- 以上より、意見交換会の参加形態としては、小規模短時間で参加しやすい休日の
午後という期待があり、気軽に参加できる身近な会の開催が望まれていると考え
られる。

2. 意見交換会の評価手法に関する調査

消費者等のニーズに応じた意見交換会及び食品安全委員会として実施すべき意見交換会について、その有効性に関する評価手法の一つであるアンケートの実施方法について調査、検討した。

調査の結果得られたアンケートの効果的な実施方法を以下に示す。

2.1 アンケート票の作成

意見交換会の開催にあたって、開催目的を具体化し、その目的に応じたアンケート票を作成する。

①開催テーマに照らした、開催趣旨の明確化

開催テーマ（例えば、食品中の鉛に関する自ら評価の実施）に照らし、開催趣旨を明確化する。目的としては、例えば以下の区分を考える。

- 社会的な関心や不安に応える
- 実態としてリスクを周知する
- 関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る
- リスクの実態について不確実性や誤解の大きいものについて理解を得る

②開催目的の具体化

開催テーマと開催趣旨に応じて、開催目的を「誰に、何を伝え、何を達成するか」の観点から具体化する。

意見交換会の対象者（誰に）に関しては、以下の区分を参考とし具体化する。

- 消費者
- 生産者
- 食品関連事業者（加工、販売、流通）
- 食品衛生関係者
- 保健医療関係者
- メディア
- 食品安全行政関係者
- 食品関連研究・教育機関

意見交換会で伝え達成するものについては、以下の区分を参考とし具体化する。

- 国民各層の意見を聴く
- 情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する
- 意見を述べる機会を提供する

- 関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する

理解や適切な安全確保の行動促進の具体的な目標として、以下の項目を設定する。
これらの具体的な目標は、アンケート票の質問の選択肢に反映する。

- 期待する安全意識の改善
(具体例：食品中の鉛の場合)
 - 食品中の鉛の摂取に対する過剰な懸念を払拭する
- 期待する理解の促進
(具体例：食品中の鉛の場合)
 - 食品に含まれている鉛の実態
 - 食品に含まれている鉛の危険性
 - 食品に含まれている鉛の健康影響評価の結果
 - 食品中の鉛に対して設定された基準
 - 食品中の鉛に対する検査の方法
 - 食品中の鉛に対する規制のあり方
- 期待する安全確保の行動の促進
(具体例：食品中の鉛の場合)
 - 「自ら評価」の実施に理解を示し注目する
 - 清涼飲料水の規格基準の改正に理解を示し注目する

上記以外の目標についても必要ならば具体化し、また目標の優先度についても事前に設定しておく。

③アンケート票の作成

目標として設定した「安全意識の改善」「理解の促進」「安全確保の行動の促進」の具体的な内容を反映し、アンケート票の選択肢を完成させる。

④アンケートの実施

アンケートの実施にあたっては、以下の点に配慮する。

- 無記名とする
- 実施機会は、各意見交換会につき1回とする。配布資料中に事前に封入しておき、会の開催中に記入いただき、終了後回収する
- これまでの実績から、A4、両面2ページでも十分な回収数を得ていることから、今後もこの分量とする
- アンケート票にはカラーペーパーを用い、他の資料にまぎれず差別化できるようにする

⑤アンケート結果の分析・活用方法

アンケート結果を用いて、事前に設定した目標の達成度を評価する。アンケートの項目と目標の関係をⅢの表 2-2 に示す。

3. 調査結果の取りまとめ

Ⅳの 1 で取りまとめられた結果を参考にして、Ⅳの 2 により得られた意見交換会の評価手法に基づき、意見交換会の評価のシミュレーションを行い、評価手法の有効性を検討するとともに、消費者の関心事項等に基づいて実施する意見交換会の評価手法を検討するための資料を取りまとめた。

このため、まずⅢの表 1-1 に示すようなアンケート項目の候補を設定したうえで、この候補に沿って実際の意見交換会（“食品中の鉛に関する自ら評価”、平成 20 年 3 月 19 日）において試行的なモニター評価を実施した。

モニター評価の結果、意見交換会の評価、質問のあり方に関し、以下の結果が得られた。

①参加目的

- ✓ 「両論あるものについて明確な結論を得たい」という質問には、“誰が”が明確になるよう、「両論あるものについて明確な結論を聞きたい」とするべきでは、との評価があった。

②参加目的の満足度

- ✓ 貴重な情報を聞けたが自分の関心には対応したものではない、とする感想をすくい取る問いが必要、との評価があった。

③テーマに関する理解の促進

- ✓ 貴重な情報を聞けたが自分の関心には対応したものではない、とする感想をすくい取る問いが必要、との評価があった。

④テーマに関するわかりやすさ

- ✓ わかりやすさについては、今回の質問の設定である程度評価が可能であるが、前半と後半は視点が違い答えにくいなどの難点もあり、改善が必要である。

⑤参加者の関心、懸念、疑問への対応

- ✓ テーマについて抱いている疑問や懸念が薄い参加者の感想をすくい取る問い（関心、疑問、懸念を問う質問）が必要と考えられる。

⑥安全意識の改善

- ✓ 別項の安全確保の行動に関する質問との区別が難しいとの評価があった。

- ✓ 安全意識については、過剰な懸念と現実にあるリスクに対する無防備さが問題となるが、今回の模擬質問では想定する回答者の意識やその変化を汲み取りにくいと考えられる。一方、「100%の安全はないと考えるか」を問う現行の質問に対しては、唐突であるなどの指摘がある。質問の流れの中で自然に位置づけられ、安全意識を効果的に聴取できる質問を健闘する必要がある。

⑦安全確保の行動の促進

- ✓ 別項の安全確保の行動に関する質問との区別が難しいとの評価があった。
- ✓ 安全確保の行動については、食品の安全問題に関する情報収集、消費行動、他者への情報伝達を選択肢に想定したが、安全意識の質問との混同の可能性などから、選択肢を絞り込むことを検討することが望ましい。例えば、消費行動に絞り込むことが考えられる。

⑧参加者の望む意見交換の実現

- ✓ 「参加者の望む意見交換の実現」は、他項で問う「参加目的の満足」との区別が難しいとの評価があった。後方で質問意図を満足できる場合には、質問数の縮減にも配慮して本項は省略することが考えられる。

この結果を踏まえて、付録に示す、意見交換会評価用アンケートテンプレートを作成した。また、意見交換会の評価を有効に行うための評価ガイドを作成した。

4. 今後の課題

4.1 消費者の食の安全に関する意識について

各世代とも共通して、「添加物（着色料・保存料）」「産地（国産／外国産）」「残留農薬」への懸念が強い。「添加物」については、マスメディアや店頭での表示、学校教育などが主な情報源となっている。今後、一般の消費者への食品安全委員からのリスクコミュニケーションをより強化することで、添加物への正しい理解を得ていく必要がある。

産地に関しては、昨年度も中国産への懸念が見られたが、今年度の調査ではさらにその懸念が強化されているとの結果を得た。また残留農薬についても同様に、外国産への懸念が見られる。これらについては、輸入食品の安全性やわが国の食糧自給といったより総合的なテーマのなかで地道にリスクコミュニケーションを図っていくことが必要である。

4.2 意見交換会に関する消費者の意識について

一般の消費者の意見交換会への参加意識としては総じて消極的な傾向が見られた。主な理由には、身近でない、専門的過ぎる、誰に何を伝えようとしているのかわからない、どう信じればよいかかわからない、専門家に任しておけばよい、結論ありきなので参加しても意味が無い、参加するメリットが見えない、インターネットで見ればよい、などが挙げられる。

これらの消費者の消極的な意識を払拭するためには、食品安全委員会のホームページの改善を図り、消費者の求めている食品安全情報がトップページからも手軽に入手できるような工夫が必要となる。一般の消費者にとっての食品安全委員会の活動内容の見え方が、身近で自分たち消費者に直接関係している、と受け止められるものとなれば、そこを入り口として意見交換会にもより効果的に誘うことが可能となる。また、この過程で、消費者に対する食品安全委員会の活動内容の表現方法が改善されれば、意見交換会のテーマ構成や説明のあり方もそれに準じて変更を加えることで、より消費者にとって参加しやすい、また参加意欲を感じる意見交換会の開催につながるものと考えられる。加えて、意見交換会に参加せずとも、インターネット上で開催している内容がわかるような消費者向けの資料提供の用意も望まれる。

4.3 意見交換会の評価について

意見交換会の4つの開催目的に沿って、具体的な目標を設定し、その目標の達成度を測るためのアンケート票とその結果の評価方法を検討した。

今後の意見交換会において実際に適用し、この趣旨に沿って有効に評価が行なわれるか、運用面で配慮していく必要がある。また、評価の過程では、冒頭に意見交換会の開催目的に照らして具体的なプログラムの内容を設計する流れとなっているが、その結果として、有効な意見交換会のプログラム設計がもたらされているかに注目して運用を行

なうことが重要である。

付録 意見交換会評価用アンケートテンプレート

本日の意見交換会の内容について伺います。
以下の設問について、あてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

Q6 本日の意見交換会に参加された目的はどのようなものですか？
(複数該当する方は、主なものを1つ選んでご回答ください。)

- ① 他では得られない詳しい情報を得たい
- ② 専門的な内容について、わかりやすい説明を聞きたい
- ③ どのような施策がとられるのか知りたい
- ④ 疑問のある点について質問したい
- ⑤ 自分の考える意見を述べたい
- ⑥ 他の人と意見交換をしたい
- ⑦ 様々な考え方のあるものについて、明確な結論を聞きたい
- ⑧ 業務の一環として参加する必要がある
- ⑨ 国が行なうリスクコミュニケーションの取組を知りたい
- ⑩ その他 [具体的に

Q7 上の質問 (Q6) でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会はどの程度満足できるものでしたか？

- ① 充分満足した
- ② ほぼ満足した
- ③ あまり満足できなかった
- ④ まったく満足できなかった
- ⑤ どちらでもない



Q8 “あまり満足できなかった” “まったく満足できなかった” “どちらでもない” と答えた方に伺います。
本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

満足できなかった点

(具体的に

Q9 本日の意見交換会では、有益な情報が得られましたでしょうか？
有益だと思われたものがありましたら、○で囲んでください。（複数選択可）

- | | |
|---------------------------------|---|
| ① [###の安全性]の実態について | |
| ② [###の安全性]の健康影響の程度や評価結果について | |
| ③ [###の安全性]について設定されている規制の基準について | |
| ④ [###の安全性]を監視、検査する方法について | |
| ⑤ [###の安全性]に関する規制の動向について | |
| ⑥ その他 [具体的に |] |
| ⑦ 有益な情報は得られなかった | |
| [その理由を具体的に |] |

Q10 本日の意見交換会に参加されて、[###の安全性]についてはどのようにお考えになりましたか？あてはまるものがありましたら、○で囲んでください。（複数選択可）

- | | |
|---------------------------------|---|
| ① [###の安全性に対する過剰な懸念の改善] | |
| ② [###の安全性に対する希薄な安全意識の改善] | |
| ③ [###の安全性に関する情報収集行動の改善] | |
| ④ [###の安全性に関する消費行動の改善] | |
| ⑤ [###の安全性に関する意識・行動の改善のその他の選択肢] | |
| ⑥ その他 [具体的に |] |

Q11 本日の意見交換の進め方について伺います。会の全体の印象を通じて感じた印象についてお聞かせください。

- | | |
|-----------------------|---|
| a. 説明の詳しさ | ① 詳しすぎる ② ちょうど良い ③ 簡単すぎる ④ どちらでもない |
| b. 説明資料の
わかりやすさ | ① わかりやすい ② わかりにくい ③ どちらでもない |
| c. 説明者の
話し方 | ① 早すぎる ② ちょうど良い ③ 遅すぎる ④ どちらでもない |
| d. 説明者の
話のポイント | ① 話しのポイントは明瞭だった
② 話しのポイントは不明瞭だった ③ どちらでもない |
| e. 専門用語の
使い方 | ① 専門用語が多く難しかった ② ちょうど良い
③ 言葉遣いが易しすぎてかえってわかりにくい ④ どちらでもない |
| f. その他、進め方で
お気づきの点 | [具体的に |

Q12 以下の食品安全委員会の取り組みのうち、ご存知のもの、あるいは利用したことのあるものがあれば、すべて選んで○で囲んでください。（複数選択可）

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ① 委員会、専門調査会が一般の人にも傍聴が可能なこと | |
| ② 食品安全委員会のホームページ | ③ 食の安全ダイヤル |
| ④ 食品安全委員のメールマガジン(e-マガジン) | ⑤ 食品安全モニター制度 |
| ④ 季刊誌「食品安全」 | ⑤ 食品の安全性に関する用語集 |
| ⑥ 食品の安全性に関する政府広報 | |
| ⑦ その他 [具体的に |] |

Q13 食品の安全性を確保していく観点から意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げて欲しいテーマについてお聞かせください。（複数選択可）

- | | | |
|----------------|-------------------------|---------------------|
| ① 食品添加物 | ② 残留農薬 | ③ 食品中に存在する汚染物質・化学物質 |
| ④ 遺伝子組換え食品 | ⑤ 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質) | |
| ⑥ BSE(牛海綿状脳症) | ⑦ 食中毒(微生物、ウィルス、かび毒、自然毒) | |
| ⑧ 鳥インフルエンザ | ⑨ 新開発食品 | ⑩ いわゆる健康食品 |
| ⑪ リスクコミュニケーション | ⑫ リスク分析の考え方 | ⑬ 食育 |
| ⑭ その他 [具体的に | |] |

Q14 最後に、全体を通してのご意見、ご要望、ご感想がありましたらお聞かせください。

アンケートにご協力いただき、有難うございました。

いただきましたご意見に基づき、より良い意見交換会の開催に努めてまいります。

付録 意見交換会評価ガイド

[アンケートの効果的な実施方法]

①アンケート票の作成

意見交換会の開催にあたって、開催目的を具体化し、その目的に応じたアンケート票を作成する。

a. 開催テーマに照らした、開催趣旨の明確化

開催テーマ（例えば、食品中の鉛に関する自ら評価の実施）に照らし、開催趣旨を明確化する。目的としては、例えば以下の区分を考える。

- 社会的な関心や不安に応える
- 実態としてリスクを周知する
- 関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る
- リスクの実態について不確実性や誤解の大きいものについて理解を得る

b. 開催目的の具体化

開催テーマと開催趣旨に応じて、開催目的を「誰に、何を伝え、何を達成するか」の観点から具体化する。

意見交換会の対象者（誰に）に関しては、以下の区分を参考とし具体化する。

- 消費者
- 生産者
- 食品関連事業者（加工、販売、流通）
- 食品衛生関係者
- 保健医療関係者
- メディア
- 食品安全行政関係者
- 食品関連研究・教育機関

意見交換会の対象者への周知方法に関しては、以下の区分を参考とし具体化する。

- 食品安全委員会のホームページ
- 食品安全委員会からのご案内資料
- 食品安全委員会メールマガジン（e-マガジン）
- 関係団体からのご案内資料

- 知人からの紹介

意見交換会で伝え達成するものについては、以下の区分を参考とし具体化する。

- 国民各層の意見を聴く
- 情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する
- 意見を述べる機会を提供する
- 関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する

理解や適切な安全確保の行動促進の具体的な目標として、以下の項目を設定する。これらの具体的な目標は、アンケート票の質問の選択肢に反映する。

- 期待する安全意識の改善
(具体例：食品中の鉛の場合)
 - 食品中の鉛の摂取に対する過剰な懸念を払拭する
 - 食品中の鉛に関する希薄な安全意識を改善する、など
- 期待する理解の促進
(具体例：食品中の鉛の場合)
 - 食品に含まれている鉛の実態
 - 食品に含まれている鉛の危険性
 - 食品に含まれている鉛の健康影響評価の結果
 - 食品中の鉛に対して設定された基準
 - 食品中の鉛に対する検査の方法
 - 食品中の鉛に対する規制のあり方、など
- 期待する安全確保の行動の促進
(具体例：食品中の鉛の場合)
 - 食品中の鉛に関する情報収集行動の改善
 - 食品中の鉛に関する消費行動の改善、など

上記の目標について具体化し、また目標の優先度についても事前に設定し、[意見交換会評価の設計検討、評価実施用シート] の該当箇所に記入する。

c. アンケート票の作成

目標として設定した「安全意識の改善」「理解の促進」「安全確保の行動の促進」の具体的な内容を反映し、アンケート票の選択肢を完成させる。

- 安全意識の改善 → アンケート項目 Q10 に反映
- 理解の促進 → アンケート項目 Q9 に反映
- 安全確保の行動の促進 → アンケート項目 Q10 に反映

②アンケートの実施

アンケートの実施にあたっては、以下の点に配慮する。

- 無記名とする
- 実施機会は、各意見交換会につき1回とする。配布資料中に事前に封入しておき、会の開催中に記入いただき、終了後回収する
- これまでの実績から、A4、両面2ページでも十分な回収数を得ていることから、今後もこの分量とする
- アンケート票にはカラーペーパーを用い、他の資料にまぎれず差別化できるようにする

[アンケート結果の分析・活用方法]

アンケート結果を用いて、事前に設定した目標の達成度を評価する。具体的には、[意見交換会評価の設計検討、評価実施用シート]の達成度評価の欄において、「評価項目」と「関連アンケート項目と評価の視点」を参考に評価を行ない、結果をまとめる。

[意見交換会評価の設計検討、評価実施用シート]

開催テーマ:

テーマの特徴:

(参考)社会的に関心や不安の高いもの、実態としてリスクが懸念されるもの、関係者間の利害関係が大きいもの、リスクの実態について不確実性や誤解の大きいもの

プログラム: [講演1] (講演者)

(テーマ)

[講演2] (講演者)

(テーマ)

[講演3] (講演者)

(テーマ)

「意見交換」(テーマ)

開催目的	目標			達成度の評価		
	優先度 (◎,○,-)	目標の内容	具体的な設定事項	評価項目	関連アンケート項目と 評価の視点	評価結果
国 各層の意見を聴く		意見交換会の対象からバランスよく参加者を募る	[意見交換会の対象者]	対象とした参加者が得られたか	Q1:性別、Q2:年齢、Q3:職業 対象参加者の参加人数	
		特に消費者の積極的な参加を得る		(同上)	Q3:職業 消費者の参加人数	
		意見交換会の対象者が参加しやすい日時と場所を設定する		十分な参加者が得られたか	— 意見交換会の参加人数	
		広く参加を募るために、対象者の関心、懸念、疑問や社会的な重要性に対応したテーマを設定する	[設定するテーマ]	参加者の期待するテーマとの乖離はなかったか	Q6,7:参加目的と満足度 参加者の関心、懸念等に対する参加の満足度	
		広く参加を募るために、効果的な周知を行う	[重点を <周知方法]	想定どおりの周知が行なえたか	Q4:周知の経路 重点を置く方法により開催を知った人の割合	
情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する		意見交換会の対象者の関心、懸念、疑問に適切に応える情報を提供する		参加者の期待する情報との乖離はなかったか	Q6,7:参加目的と満足度 情報取得を望む参加者の満足度	
		意見交換会の対象者の安全意識を改善する	[重点を <安全意識の改善]	安全意識の具体的な目標は改善されたか	Q10:安全意識と行動の改善 具体的に設定した安全意識改善目標について“改善した”とする回答者の割合	
		意見交換会の対象者の理解を促進する	[重点を <理解の促進]	理解の具体的な目標は改善されたか	Q9:得られた有益な情報 具体的に設定した理解促進目標について“情報が得られた”とする回答者の割合	
		一般の消費者にとってわかりやすい情報の提供を行う		情報提供はわかりやすかったか	Q11:説明のわかりやすさ 説明について“わかりやすい”とする回答者の割合	
		意見交換会の対象者の安全確保の行動を促進する	[重点を <安全確保行動の促進]	安全確保行動の具体的な目標は促進されたか	Q10:安全意識と行動の改善 具体的に設定した安全行動改善目標について“改善した”とする回答者の割合	
意見を述べる会を提供する		意見交換会の参加者から多数の意見を募る		多数の質問が参加者からなされたか	— 会場からの質問数と内容	
関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する		意見交換会の参加者相互の積極的な情報及び意見交換を実現する		多数の意見交換が参加者間でなされたか	— 会場でなされた意見交換の件数と内容	
		意見交換会の参加者の望む情報及び意見交換を実現する		参加者の望む意見交換が行なわれたか	Q6,7:参加目的と満足度 意見交換を望む参加者の満足度	

[アンケートの作成例]

以下にアンケートの作成例として、意見交換会の開催テーマを「食品中の鉛について える」に想定した場合を例に説明する。作成は、「意見交換会評価の設計検討、評価実施用シート」のグレーの網掛け部分に記入していく形で進める。

[意見交換会の開催内容の設定]

①開催テーマ：食品中の鉛について える

- ✓ テーマは事務局の検討により与えられたものとして設定した

②テーマの特徴：関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る

- ✓ 評価ガイド① a 項目より選択する
 - 社会的な関心や不安に応える
 - 実態としてリスクを周知する
 - 関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る
 - リスクの実態について不確実性や誤解の大きいものについて理解を得る
- ✓ 今回は、鉛の安全性に関する自ら評価を行なうことの必要性や背景、規制との関連を利害関係のある事業者の説明することが会の開催趣旨であるとして、設定した

③プログラム：

講演1（講演者）日野 明寛（内閣府食品安全委員会事務局次長）

（テーマ）食品中の鉛を自ら評価の案件とした経緯

講演2（講演者）千葉 百子（国際医療福祉大学薬学部教授）

（テーマ）鉛に関する基礎的 識

講演3（講演者）光岡 俊成（厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課課長補佐）

（テーマ）陶磁器等及び乳幼児玩具の鉛等の規格基準の改正について

意見交換（テーマ）会場との意見交換

- ✓ プログラムの内容は事務局の検討により与えられたものとして設定した

[目標の設定]

①優先度：

- ◎（重要な目標）：「意見交換会の対象からバランスよく参加者を募る」「意見交換会の対象者の関心、懸念、疑問に適切に応える情報を提供する」「意見交換会の対

象者の理解を促進する」「意見交換会の参加者の望む情報及び意見交換を実現する」

○(副次的目標):「意見交換会の対象者が参加しやすい日時と場所を設定する」

－(特に目標には設定しない): (その他の目標)

- ✓ 今回の意見交換会においては、“鉛の安全性に関する自ら評価を行なうことの必要性や背景、規制との関連を利害関係のある事業者の説明することが会の開催趣旨”であることから、関係のある事業者が参加することと、そうした事業者に鉛に関する自ら評価を行なう必要性や背景、規制との関連などの情報提供が有効に行なえ、また意見交換のなされることを重要な目標として設定した。

①具体的な設定事項:

意見交換会の対象者: 特に食品関連事業者を中心に、生産者、食品衛生関係者など

- ✓ 評価ガイド①b項目より選択する
 - 消費者
 - 生産者
 - 食品関連事業者 (加工、販売、流通)
 - 食品衛生関係者
 - 保健医療関係者
 - メディア
 - 食品安全行政関係者
 - 食品関連研究・教育機関
- ✓ 今回は、鉛の安全性に関する自ら評価を行なうことの必要性や背景、規制との関連を利害関係のある事業者の説明することが会の開催趣旨であるとして、設定した

設定するテーマ: (なし)

- ✓ 今回は広く一般の参加を募ることを目標として想定しないので、本項目の設定も行なわない
- ✓ ただし、広く一般に参加を募ることが目標となった場合には、鉛については例えば、輸入食品中の鉛含有の実態などがテーマとなりうる

重点を ぐ周 方法: (なし)

- ✓ 今回は広く一般の参加を募ることを目標として想定しないので、本項目の設定も行なわない
- ✓ ただし、広く一般に参加を募ることが目標となった場合には、評価ガイド①b項目より選択する
 - 食品安全委員会のホームページ
 - 食品安全委員会からのご案内資料

- 食品安全委員会メールマガジン (e-マガジン)
- 関係団体からのご案内資料
- 知人からの紹介

重点を く**安全意識の改善：(なし)**

- ✓ 今回は意見交換会出席者の安全意識の改善を目標として想定しないので、本項目の設定も行なわない
- ✓ ただし、これを目標とする場合は、評価ガイド①b項目の「期待する安全意識の改善」にあげられている例示を参考に設定し、その内容を意見交換会評価用アンケートの Q10 に反映する

重点を く**理解の促進：「食品安全委員会が自ら評価を行なうことの趣旨」「食品中の鉛について自ら評価を行なうことの必要性」「食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法」「食品中の鉛に関する規格基準の改正の動向」**

- ✓ 今回は、鉛の安全性に関する自ら評価を行なうことの必要性や背景、規制との関連を利害関係のある事業者の説明することが会の開催趣旨であるとして、設定した
- ✓ 評価ガイド①b項目の「期待する理解の促進」にあげられている例示を参考に設定し、その内容を意見交換会評価用アンケートの Q9 に反映する

重点を く**安全確保行動の促進：(なし)**

- ✓ 今回は意見交換会出席者の安全確保行動の促進を目標として想定しないので、本項目の設定も行なわない
- ✓ ただし、これを目標とする場合は、評価ガイド①b項目の「期待する安全確保の行動の促進」にあげられている例示を参考に設定し、その内容を意見交換会評価用アンケートの Q10 に反映する

[達成度の評価]

対象とした参加者が得られたか： 参加者は食品関連事業者が#人(%)、生産者が#人(%)、食品衛生関係者が#人(%)など、特に食品関連事業者を中心に、生産者、食品衛生関係者の参加が得られた。

- ✓ アンケートの Q1,Q2,Q3 より得られる、対象とする層の参加人数とその割合で達成度を評価する

十分な参加者が得られたか： 参加者は全体で#人であり、当初想定していた参加人数#人に対し#%となった。このため、十分な参加人数が得られたといえる。

- ✓ 想定する参加人数(会場のキャパシティ)の充足率により、達成度を評価する
- 参加者の期待する情報との乖離はなかったか：** 参加者は主として「他では得られない詳しい情

報を得たい(＃%)」「どのような施策がとられるのか りたい(＃%)」を参加する目的としてあげた。それに対し、前者では＃%満足したと回答し、後者では＃%が満足するとした。また全体の参加者については＃%が満足したと回答している。このため、参加者の期待する情報との大きな乖離はなかったといえる。

- ✓ アンケートの Q6,Q7,Q8 より得られる、情報提供に関する参加者の参加目的とその満足度の割合を持って、参加者の期待する情報との乖離の程度を評価する

理解の具体的な目標は改善されたか： 理解の促進の具体的な目標について、有益な情報が得られたとする回答は「食品安全委員会が自ら評価を行なうことの趣旨」が＃%、「食品中の鉛について自ら評価を行なうことの必要性」が＃%、「食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法」が＃%、「食品中の鉛に関する規格基準の改正の動向」が＃%となった。また何がしかの有益な情報が得られたと回答した人は全体の＃%であった。「食品中の鉛について自ら評価を行なうことの必要性」と「食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法」については過半数を超えており、有効であったとえられる。一方、「食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法」は低調な値であり理解促進の効果は限定的なものに留まっている。なお、全体としては、過半数を超える参加者がなんらかの有益な情報を得たと答えているので理解促進の効果を確認できる。

- ✓ アンケートの Q9 より得られる、有益な情報を得た参加者の割合により、理解の促進度を評価する

多数の質問が参加者からなされたか： 「成人の鉛摂取の正常な範囲とは」「##社製のガラス器具は規制の対象となるのか」「規制値は余裕を持って決められていないのではないか」「ハイリスクグループは PTWI の平均からどの程度リスクが高まるのか」など、7 件の質問があった。限られた時間の中で活発な質問が行なわれ、またその内容も当を得ており、多数の意見を募るという目標は十分に達成された。

- ✓ 会場から寄せられた質問の件数とその内容により、多数の意見を募るという目標の達成度を評価する

参加者の望む意見交換が行なわれたか： 参加者があげた意見交換に関する参加目的としては、「自分の える意見を述べたい(＃%)」「他の人と意見交換をしたい(＃%)」であり、どちらも少数にとどまった。それに対

し、前者では#%満足したと回答し、後者では#%が満足する
とした。このため、意見交換を望む参加者は少数であったが、
そうした参加者にとっては一定の満足の得られる意見交換が
実施されたといえる。

- ✓ アンケートの Q6,Q7,Q8 より得られる、意見交換に関する参加者の参加目的とそ
の満足度の割合を持って、参加者の期待する情報との乖離の程度を評価する

この例について、次頁以降に、「意見交換会評価の設計検討、評価実施用シートの記
入例」と「意見交換会評価用アンケート票の作成例」を示す。

[意見交換会評価の設計検討、評価実施用シート]



開催テーマ： 食品中の鉛について える

テーマの特徴： 関係者間の利害関係が大きいものについて理解を得る

(参考) 社会的に関心や不安の高いもの、実態としてリスクが懸念されるもの、関係者間の利害関係が大きいもの、リスクの実態について不確実性や誤解の大きいもの

プログラム： [講演1] (講演者) 日野 明寛 (内閣府食品安全委員会事務局次長)

(テーマ) 食品中の鉛を自ら評価の案件とした経緯

[講演2] (講演者) 千葉 百子 (国際医療福祉大学薬学部教授)

(テーマ) 鉛に関する基礎的知識

[講演3] (講演者) 光岡 俊成 (厚生労働省医薬食品局食品安全全部基準審査課課長補佐)

(テーマ) 陶磁器等及び乳幼児玩具の鉛等の規格基準の改正について

「意見交換」 (テーマ) 会場との意見交換

開催目的	目標			達成度の評価		
	優先度 (◎,○,―)	目標の内容	具体的な設定事項	評価項目	関連アンケート項目と 評価の視点	評価結果
国 各層の意見を聴く	◎	意見交換会の対象からバランスよく参加者を募る	[意見交換会の対象者] 特に食品関連事業者を中心に、生産者、食品衛生関係者など	対象とした参加者が得られたか	Q1:性別、Q2:年齢、Q3:職業 対象参加者の参加人数	参加者は食品関連事業者が#人(%)、生産者が#人(%)、食品衛生関係者が#人(%)など、特に食品関連事業者を中心に、生産者、食品衛生関係者の参加が得られた
	―	特に消費者の積極的な参加を得る		(同上)	Q3:職業 消費者の参加人数	
	○	意見交換会の対象者が参加しやすい日時と場所を設定する		十分な参加者が得られたか	― 意見交換会の参加人数	参加者は全体で#人であり、当初想定していた参加人数#人に対し#%となった。このため、十分な参加人数が得られたといえる。
	―	広く参加を募るために、対象者の関心、懸念、疑問や社会的な重要性に対応したテーマを設定する	[設定するテーマ]	参加者の期待するテーマとの乖離はなかったか	Q6,7:参加目的と満足度 参加者の関心、懸念等に対する参加の満足度	
	―	広く参加を募るために、効果的な周知を行う	[重点を 周知 方法]	想定どおりの周知が行なえたか	Q4:周知の経路 重点を置く方法により開催を知った人の割合	
情報を提供し、理解や適切な安全確保の行動を促進する	◎	意見交換会の対象者の関心、懸念、疑問に適切に応える情報を提供する		参加者の期待する情報との乖離はなかったか	Q6,7:参加目的と満足度 情報取得を望む参加者の満足度	参加者は主として「他では得られない詳しい情報を得たい(%)」「どのような施策がとられるのか 知りたい(%)」を参加する目的としてあげた。それに対し、前者では#%満足したと回答し、後者では#%が満足するとした。また全体の参加者については#%が満足したと回答している。このため、参加者の期待する情報との大きな乖離はなかったといえる。
	―	意見交換会の対象者の安全意識を改善する	[重点を 安全意識の改善]	安全意識の具体的な目標は改善されたか	Q10:安全意識と行動の改善 具体的に設定した安全意識改善目標について“改善した”とする回答者の割合	

	◎	意見交換会の対象者の理解を促進する	[重点を く理解の促進] 「食品安全委員会が自ら評価を行なうことの趣旨」「食品中の鉛について自ら評価を行なうことの必要性」「食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法」「食品中の鉛に関する規格基準の改正の動向」	理解の具体的な目標は改善されたか	Q9:得られた有益な情報 具体的に設定した理解促進目標について“情報が得られた”とする回答者の割合	理解の促進の具体的な目標について、有益な情報が得られたとする回答は「食品安全委員会が自ら評価を行なうことの趣旨」が#%、「食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法」が#%、「食品中の鉛に関する規格基準の改正の動向」が#%となった。また何がしかの有益な情報が得られたと回答した人は全体の#%であった。「食品安全委員会が自ら評価を行なうことの趣旨」と「食品中の鉛について自ら評価を行なうことの必要性」については過半数を超えており、有効であったとえられる。一方、「食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法」は低調な値であり理解促進の効果は限定的なものに留まっている。なお、全体としては、過半数を超える参加者がなんらかの有益な情報を得たと答えているので理解促進の効果を確認できる。
	—	一般の消費者にとってわかりやすい情報の提供を行う		情報提供はわかりやすかったか	Q11:説明のわかりやすさ 説明について“わかりやすい”とする回答者の割合	
	—	意見交換会の対象者の安全確保の行動を促進する	[重点を く安全確保行動の促進]	安全確保行動の具体的な目標は促進されたか	Q10:安全意識と行動の改善 具体的に設定した安全行動改善目標について“改善した”とする回答者の割合	
意見を述べる会を提供する	○	意見交換会の参加者から多数の意見を募る		多数の質問が参加者からなされたか	— 会場からの質問数と内容	「成人の鉛摂取の正常な範囲とは」「##社製のガラス器具は規制の対象となるのか」「規制値は余裕を持って決められていないのではないか」「ハイリスクグループは PTWI の平均からどの程度リスクが高まるのか」など、7 件の質問があった。限られた時間の中で活発な質問が行なわれ、またその内容も当を得ており、多数の意見を募るという目標は十分に達成された。
関係者間相互の情報及び意見の交換を促進する	—	意見交換会の参加者相互の積極的な情報及び意見交換を実現する		多数の意見交換が参加者間でなされたか	— 会場でなされた意見交換の件数と内容	
	◎	意見交換会の参加者の望む情報及び意見交換を実現する		参加者の望む意見交換が行なわれたか	Q6,7:参加目的と満足度 意見交換を望む参加者の満足度	参加者があげた意見交換に関する参加目的としては、「自分の える意見を述べたい(##%)」「他の人と意見交換をしたい(##%)」であり、どちらも少数にとどまった。それに対し、前者では##%満足したと回答し、後者では##%が満足するとした。このため、意見交換を望む参加者は少数であったが、そうした参加者にとっては一定の満足の得られる意見交換が実施されたといえる。

アンケート票 作成例

本日の意見交換会の内容について伺います。
以下の設問について、あてはまるもの1つを選んで番号を○で囲んでください。

Q6 本日の意見交換会に参加された目的はどのようなものですか？
(複数該当する方は、主なものを1つ選んでご回答ください。)

- ① 他では得られない詳しい情報を得たい
- ② 専門的な内容について、わかりやすい説明を聞きたい
- ③ どのような施策がとられるのか 聞きたい
- ④ 疑問のある点について質問したい
- ⑤ 自分の える意見を述べたい
- ⑥ 他の人と意見交換をしたい
- ⑦ 々な え方のあるものについて、明確な結論を聞きたい
- ⑧ 業務の一環として参加する必要がある
- ⑨ 国が行なうリスクコミュニケーションの取組を 聞きたい
- ⑩ その他 [具体的に]

Q7 上の質問 (Q6) でお答えいただいた目的に対して、本日の意見交換会はどの程度満足できるものでしたか？

- ① 充分満足した ② ほぼ満足した ③ あまり満足できなかった
- ④ まったく満足できなかった ⑤ どちらでもない



Q8 “あまり満足できなかった” “まったく満足できなかった” “どちらでもない” と答えた方に伺います。
本日の意見交換会で満足できなかったとお考えになる点をお聞かせください。

満足できなかった点

(具体的に)

つづくページにもご記入ください >>>>

アンケート票 作成例

食品に関するリスクコミュニケーション アンケート

Q9 本日の意見交換会では、有益な情報が得られましたでしょうか？
有益だと思われたものがありましたら、○で囲んでください。（複数選択可）

- ① 食品安全委員会が自ら評価を行なうことの趣旨
- ② 食品中の鉛について自ら評価を行なうことの必要性
- ③ 食品中の鉛について自ら評価を実施する場合の手法
- ④ 食品中の鉛に関する規格基準の改正の動向
- ⑤ その他 [具体的に]
- ⑥ 有益な情報は得られなかった
[その理由を具体的に]

Q10 本日の意見交換会に参加されて、[###の安全性]についてはどのようにお考えになりましたか？あまるものがありましたら、○で囲んでください。（複数選択可）

- 削除
- ① [###]に関する過剰な懸念の改善
 - ② [###]に関する希薄な安全意識の改善
 - ③ [###]に関する情報収集行動の改善
 - ④ [###]に関する消費行動の改善
 - ⑤ [###]に関する意識・行動の改善のその他の選択肢
 - ⑥ その他 [具体的に]

Q11 本日の意見交換の進め方について伺います。会の全体の印象を通じて感じた印象についてお聞かせください。

- a. 説明の詳しさ

① 詳しすぎる	② ちょうど良い	③ 簡単すぎる	④ どちらでもない
---------	----------	---------	-----------
- b. 説明資料のわかりやすさ

① わかりやすい	② わかりにくい	③ どちらでもない
----------	----------	-----------
- c. 説明者の話し方

① 早すぎる	② ちょうど良い	③ 遅すぎる	④ どちらでもない
--------	----------	--------	-----------
- d. 説明者の話のポイント

① 話しのポイントは明瞭だった	③ どちらでもない
② 話しのポイントは不明瞭だった	
- e. 専門用語の使い方

① 専門用語が多く難しかった	② ちょうど良い
③ 言葉が易しすぎてかえってわかりにくい	④ どちらでもない
- f. その他、進め方でお気づきの点

[具体的に]

つづくページにもご記入ください >>>>

アンケート票 作成例

食品に関するリスクコミュニケーション アンケート

Q12 以下の食品安全委員会の取り組みのうち、ご存知のもの、あるいは利用したことのあるものがあれば、すべて選んで○で囲んでください。（複数選択可）

- | | |
|----------------------------|-----------------|
| ① 委員会、専門調査会が一般の人にも傍聴が可能なこと | ③ 食の安全ダイヤル |
| ② 食品安全委員会のホームページ | ④ 食品安全モニター制度 |
| ④ 食品安全委員のメールマガジン(e-マガジン) | ⑤ 食品の安全性に関する用語集 |
| ④ 季刊誌「食品安全」 | |
| ⑥ 食品の安全性に関する政府広報 | |
| ⑦ その他 [具体的に |] |

Q13 食品の安全性を確保していく観点から意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げて欲しいテーマについてお聞かせください。（複数選択可）

- | | | |
|----------------|-------------------------|---------------------|
| ① 食品添加物 | ② 残留薬 | ③ 食品中に存在する汚染物質・化学物質 |
| ④ 伝子組換え食品 | ⑤ 動物用抗菌性物質(いわゆる抗生物質) | |
| ⑥ BSE(牛海綿状脳症) | ⑦ 食中毒(微生物、ウイルス、かび毒、自然毒) | |
| ⑧ 鳥インフルエンザ | ⑨ 新開発食品 | ⑩ いわゆる健康食品 |
| ⑪ リスクコミュニケーション | ⑫ リスク分析の え方 | ⑬ 食育 |
| ⑭ その他 [具体的に | |] |

Q14 最後に、全体を通してのご意見、ご要望、ご感想がありましたらお聞かせください。

アンケートにご協力いただき、有難うございました。
いただきましたご意見に基づき、より良い意見交換会の開催に努めてまいります。

付録 インターネットアンケートデータ

(FA)問1 あなたは普段、店、宅配を問わず、合計して一週間のうち平均、何日、食料品を買いますか。		
	2208	100.0%
1 0日	47	2.1%
2 1日	205	9.3%
3 2日	416	18.8%
4 3日	515	23.3%
5 4日	335	15.2%
6 5日	311	14.1%
7 6日	164	7.4%
8 7日	215	9.7%
(SA)問2 スーパー -あなたが普段自分で料理したり食べたりするための食料品を買い物される店とその頻度についてあてはまるものをお選びください。		
	2208	100.0%
1 ほとんど毎日	210	9.5%
2 週に5-6回	239	10.8%
3 週に3-4回	608	27.5%
4 週に1-2回	888	40.2%
5 月に1-2回	168	7.6%
6 その他	9	0.4%
7 ほとんど買わない	86	3.9%
(SA)問2 コンビニエンスストア -あなたが普段自分で料理したり食べたりするための食料品を買い物される店とその頻度についてあてはまるものをお選びください。		
	2208	100.0%
1 ほとんど毎日	75	3.4%
2 週に5-6回	93	4.2%
3 週に3-4回	188	8.5%
4 週に1-2回	548	24.8%
5 月に1-2回	505	22.9%
6 その他	101	4.6%
7 ほとんど買わない	698	31.6%
(SA)問2 個人商店、専門店(青果店、精肉店、鮮魚店、パン屋など) -あなたが普段自分で料理したり食べたりするための食料品を買い物される店とその頻度についてあてはまるものをお選びください。		
	2208	100.0%
1 ほとんど毎日	11	0.5%
2 週に5-6回	21	1.0%
3 週に3-4回	103	4.7%
4 週に1-2回	390	17.7%
5 月に1-2回	499	22.6%
6 その他	128	5.8%
7 ほとんど買わない	1056	47.8%

(SA)問2 デパートの地下食料品売場や高級食料品店 -あなたが普段自分で料理したり食べたりするための食料品を買い物される店とその頻度についてあてはまるものをお選びください。		
	2208	100.0%
1 ほとんど毎日	8	0.4%
2 週に5-6回	3	0.1%
3 週に3-4回	33	1.5%
4 週に1-2回	138	6.3%
5 月に1-2回	605	27.4%
6 その他	274	12.4%
7 ほとんど買わない	1147	52.0%
(SA)問2 生協(宅配・店舗とも) -あなたが普段自分で料理したり食べたりするための食料品を買い物される店とその頻度についてあてはまるものをお選びください。		
	2208	100.0%
1 ほとんど毎日	14	0.6%
2 週に5-6回	9	0.4%
3 週に3-4回	54	2.5%
4 週に1-2回	465	21.1%
5 月に1-2回	185	8.4%
6 その他	58	2.6%
7 ほとんど買わない	1423	64.5%
(SA)問2 生協以外の宅配、通信販売 -あなたが普段自分で料理したり食べたりするための食料品を買い物される店とその頻度についてあてはまるものをお選びください。		
	2208	100.0%
1 ほとんど毎日	8	0.4%
2 週に5-6回	7	0.3%
3 週に3-4回	10	0.5%
4 週に1-2回	60	2.7%
5 月に1-2回	213	9.7%
6 その他	245	11.1%
7 ほとんど買わない	1665	75.4%
(SA)問3 レトルトなど加工食品は、原料の安全性や添加物が気になるので買わない -以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。		
	2208	100.0%
1 あてはまる	241	10.9%
2 まああてはまる	528	23.9%
3 どちらともいえない	674	30.5%
4 あまりあてはまらない	570	25.8%
5 あてはまらない	195	8.8%
(SA)問3 弁当・惣菜類は、原料の安全性や添加物が気になるので買わない -以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。		
	2208	100.0%
1 あてはまる	161	7.3%
2 まああてはまる	440	19.9%
3 どちらともいえない	651	29.5%
4 あまりあてはまらない	714	32.3%
5 あてはまらない	242	11.0%

SA：単一選択

MA：複数選択

FA：自由回答（回答内容は省略）

(SA)問3 価格が高くて、安全な食品を選択している-以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。			
		2208	100.0%
1	あてはまる	259	11.7%
2	まああてはまる	757	34.3%
3	どちらともいえない	758	34.3%
4	あまりあてはまらない	321	14.5%
5	あてはまらない	113	5.1%
(SA)問3 外国産の野菜や肉は危険だと思う-以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。			
		2208	100.0%
1	あてはまる	484	21.9%
2	まああてはまる	811	36.7%
3	どちらともいえない	631	28.6%
4	あまりあてはまらない	214	9.7%
5	あてはまらない	68	3.1%
(SA)問3 子どもには炭 飲料やスナック菓子は与えない-以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。			
		2208	100.0%
1	あてはまる	259	11.7%
2	まああてはまる	573	26.0%
3	どちらともいえない	766	34.7%
4	あまりあてはまらない	373	16.9%
5	あてはまらない	237	10.7%
(SA)問3 ファーストフードは、身体に悪いので食べない-以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。			
		2208	100.0%
1	あてはまる	158	7.2%
2	まああてはまる	495	22.4%
3	どちらともいえない	666	30.2%
4	あまりあてはまらない	622	28.2%
5	あてはまらない	267	12.1%
(SA)問3 残留 薬や食品添加物について、日頃から勉強している-以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。			
		2208	100.0%
1	あてはまる	128	5.8%
2	まああてはまる	516	23.4%
3	どちらともいえない	699	31.7%
4	あまりあてはまらない	570	25.8%
5	あてはまらない	295	13.4%

(SA)問3 食品についての表示や賞味期限などはそのまま信じない-以下のような え方や行動は、あなたにどの程度あてはまりますか。			
		2208	100.0%
1	あてはまる	148	6.7%
2	まああてはまる	656	29.7%
3	どちらともいえない	868	39.3%
4	あまりあてはまらない	414	18.8%
5	あてはまらない	122	5.5%
(SA)問4 「食品安全委員会が開催している」意見交換会への参加経験はありますか。			
		2208	100.0%
1	ある	34	1.5%
2	ない	2174	98.5%
(MA)問5 以下の中で、あなたが食事について、普段気をつけていることがありますか。あてはまるものすべてお選びください。			
		2208	↓ MAX100.0%
1	1日3食をきちんと取る	1574	71.3%
2	夜遅い時間に食事をしない	1027	46.5%
3	家族といっしょに食事を取る	919	41.6%
4	栄養のバランスが、かたよらないようにする	1363	61.7%
5	カロリーをとりすぎない	1061	48.1%
6	間食をしない	535	24.2%
7	その他	50	2.3%
8	特に無い	158	7.2%
(FA)問5 FAその他の自由記述			
		50	100.0%
	(自由記述)		
(SA)問6 最も重要視するもの-あなたが食品の安全性に関する情報で重要視するものを、以下の選択肢の中から3つ選んで順位をつけてください。			
		2208	100.0%
1	国の 関	501	22.7%
2	地方自治体	37	1.7%
3	食品メーカー	205	9.3%
4	新聞	277	12.6%
5	雑誌	9	0.4%
6	テレビ	328	14.9%
7	ラジオ	7	0.3%
8	消費者団体	181	8.2%
9	スーパー・小売店等	29	1.3%
10	生協などの協同組合	62	2.8%
11	大学や国の研究 関・研究者	84	3.8%
12	学校・町内会	2	0.1%
13	家族・人	72	3.3%
14	インターネット(上記のものを除く)	65	2.9%
15	食品パッケージの食品表示	217	9.8%
16	その他	14	0.6%
17	どこからも情報を得ていない	118	5.3%

SA：単一選択

MA：複数選択

FA：自由回答（回答内容は省略）

(SA)問6 2番目に重要視するもの-あなたが食品の安全性に関する情報で重要視するものを、以下の選択肢の中から3つ選んで順位をつけてください。

	2090	100.0%
1 国の 関	209	10.0%
2 地方自治体	219	10.5%
3 食品メーカー	239	11.4%
4 新聞	332	15.9%
5 雑誌	29	1.4%
6 テレビ	321	15.4%
7 ラジオ	18	0.9%
8 消費者団体	171	8.2%
9 スーパー・小売店等	92	4.4%
10 生協などの協同組合	70	3.4%
11 大学や国の研究 関・研究者	73	3.5%
12 学校・町内会	4	0.2%
13 家族・ 人	76	3.6%
14 インターネット(上記のものを除く)	89	4.3%
15 食品パッケージの食品表示	144	6.9%
16 その他	4	0.2%
17 どこからも情報を得ていない	0	0.0%

(SA)問6 3番目に重視するもの-あなたが食品の安全性に関する情報で重要視するものを、以下の選択肢の中から3つ選んで順位をつけてください。

	2090	100.0%
1 国の 関	220	10.5%
2 地方自治体	143	6.8%
3 食品メーカー	256	12.3%
4 新聞	203	9.7%
5 雑誌	51	2.4%
6 テレビ	231	11.1%
7 ラジオ	21	1.0%
8 消費者団体	175	8.4%
9 スーパー・小売店等	111	5.3%
10 生協などの協同組合	63	3.0%
11 大学や国の研究 関・研究者	89	4.3%
12 学校・町内会	10	0.5%
13 家族・ 人	105	5.0%
14 インターネット(上記のものを除く)	137	6.6%
15 食品パッケージの食品表示	259	12.4%
16 その他	16	0.8%
17 どこからも情報を得ていない	0	0.0%

(FA)問6-1FA その他の自由記述

(自由記述)	13	100.0%
--------	----	--------

(FA)問6-2FA その他の自由記述

(自由記述)	2	100.0%
--------	---	--------

(FA)問6-3FA その他の自由記述

(自由記述)	5	100.0%
--------	---	--------

(SA)問7 食品添加物-以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください

	2208	100.0%
1 非常に不安である	607	27.5%
2 ある程度不安である	1270	57.5%
3 あまり不安を感じない	294	13.3%
4 全く不安を感じない	21	1.0%
5 よく らない	16	0.7%

(SA)問7 残留 薬-以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください

	2208	100.0%
1 非常に不安である	1292	58.5%
2 ある程度不安である	797	36.1%
3 あまり不安を感じない	96	4.4%
4 全く不安を感じない	10	0.5%
5 よく らない	13	0.6%

(SA)問7 食品中に存在する汚染物質・化学物質-以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください

	2208	100.0%
1 非常に不安である	1175	53.2%
2 ある程度不安である	878	39.8%
3 あまり不安を感じない	128	5.8%
4 全く不安を感じない	9	0.4%
5 よく らない	18	0.8%

(SA)問7 伝子組換え食品-以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください

	2208	100.0%
1 非常に不安である	568	25.7%
2 ある程度不安である	964	43.7%
3 あまり不安を感じない	575	26.0%
4 全く不安を感じない	66	3.0%
5 よく らない	35	1.6%

(SA)問7 家畜用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)-以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください

	2208	100.0%
1 非常に不安である	722	32.7%
2 ある程度不安である	1072	48.6%
3 あまり不安を感じない	314	14.2%
4 全く不安を感じない	18	0.8%
5 よく らない	82	3.7%

SA：単一選択

MA：複数選択

FA：自由回答（回答内容は省略）

(SA)問7 BSE(牛海綿状脳症) -以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください			
		2208	100.0%
1	非常に不安である	1200	54.4%
2	ある程度不安である	714	32.3%
3	あまり不安を感じない	243	11.0%
4	全く不安を感じない	26	1.2%
5	よく らない	25	1.1%
(SA)問7 食中毒(微生物・ウイルス・かび毒・自然毒) -以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください			
		2208	100.0%
1	非常に不安である	1065	48.2%
2	ある程度不安である	865	39.2%
3	あまり不安を感じない	245	11.1%
4	全く不安を感じない	18	0.8%
5	よく らない	15	0.7%
(SA)問7 鳥インフルエンザ -以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください			
		2208	100.0%
1	非常に不安である	1137	51.5%
2	ある程度不安である	770	34.9%
3	あまり不安を感じない	261	11.8%
4	全く不安を感じない	25	1.1%
5	よく らない	15	0.7%
(SA)問7 新開発食品 -以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください			
		2208	100.0%
1	非常に不安である	336	15.2%
2	ある程度不安である	988	44.8%
3	あまり不安を感じない	710	32.2%
4	全く不安を感じない	61	2.8%
5	よく らない	113	5.1%
(SA)問7 いわゆる健康食品 -以下の10の要因それぞれについて、食の安全性の観点からあなたが感じている不安の程度をお選びください			
		2208	100.0%
1	非常に不安である	149	6.8%
2	ある程度不安である	790	35.8%
3	あまり不安を感じない	1053	47.7%
4	全く不安を感じない	139	6.3%
5	よく らない	77	3.5%
(FA)問8 食品の安全についてあなたが関心を持たれていることを具体的にお聞かせください。			
		2208	100.0%
	フリーアンサーは分析されません		

(SA)問9 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方がよいかや、どのような調理が必要かについての 識があると思いますか。			
		2208	100.0%
1	十分にあると思う	90	4.1%
2	ある程度あると思う	1181	53.5%
3	あまりないと思う	847	38.4%
4	まったくないと思う	90	4.1%
(MA)問10 食品をより安全に保ち、食中毒を防ぐために有効だと思うものを、以下の中からすべてお選びください。			
		2208	↓ MAX100.0%
1	正しい手洗いや調理器具の洗浄・消毒を行い、清潔に保つこと	1989	90.1%
2	生の食品と加熱済み食品などの異なる食材を分けて取り扱うこと	1357	61.5%
3	加熱が必要な食品をよく加熱すること	1847	83.7%
4	調理済み食品を室温に二時間以上放 しないこと	959	43.4%
5	野菜や果物など生で食べる食材をよく洗うこと	1381	62.6%
6	賞味期限を過ぎたものは食べないようにすること	832	37.7%
7	わからない	21	1.0%
8	その他	39	1.8%
9	上記のいずれもあてはまらない	17	0.8%
(FA)問10FA その他の自由記述			
		40	100.0%
	(自由記述)		
(MA)問11 食品中に残留する 薬の基準について以下の中から正しいと思うものをすべて選んでください。			
		2208	↓ MAX100.0%
1	人の健康を損なうおそれのない量の 薬の食品中への残留が認められている	1218	55.2%
2	一部の 薬については、残留基準(一律基準を含む。)が設定されていない	923	41.8%
3	残留 薬に対する規制は加工食品も対象である	708	32.1%
4	加工食品には 薬が残留してはいけない	426	19.3%
5	わからない	442	20.0%
6	その他	8	0.4%
7	上記のいずれも正しくない	60	2.7%
(FA)問11FA その他の自由記述			
		8	100.0%
	(自由記述)		

SA：単一選択

MA：複数選択

FA：自由回答（回答内容は省略）

(MA)問12 食材を購入される際に気をつけていることは何ですか。あてはまるものすべてお選びください。			
		2208	↓ MAX100.0%
1	価格	1636	74.1%
2	見栄え	201	9.1%
3	季節もの	910	41.2%
4	産地(国産、海外産等)	1792	81.2%
5	安全性	1319	59.7%
6	鮮度	1779	80.6%
7	生産者、流通業者	707	32.0%
8	食べるために掛ける手間	287	13.0%
9	その他	14	0.6%
(FA)問12FA その他の自由記述			
		14	100.0%
	(自由記述)		
(SA)問13 内容量 -食品を購入される際に参 に関する表示の内容についてお聞かせください。			
		2208	100.0%
1	参 に関する	991	44.9%
2	たまたま参 に関する	726	32.9%
3	どちらともいえない	279	12.6%
4	あまり参 に関するにしない	179	8.1%
5	参 に関するにしない	33	1.5%
(SA)問13 賞味期限 -食品を購入される際に参 に関する表示の内容についてお聞かせください。			
		2208	100.0%
1	参 に関する	1711	77.49%
2	たまたま参 に関する	357	16.17%
3	どちらともいえない	88	3.99%
4	あまり参 に関するにしない	39	1.77%
5	参 に関するにしない	13	0.59%
(SA)問13 保存方法 -食品を購入される際に参 に関する表示の内容についてお聞かせください。			
		2208	100.0%
1	参 に関する	989	44.79%
2	たまたま参 に関する	763	34.56%
3	どちらともいえない	297	13.45%
4	あまり参 に関するにしない	134	6.07%
5	参 に関するにしない	25	1.13%
(SA)問13 製造業者の氏名又は名称及び住所 -食品を購入される際に参 に関する表示の内容についてお聞かせください。			
		2208	100.0%
1	参 に関する	634	28.7%
2	たまたま参 に関する	794	36.0%
3	どちらともいえない	433	19.6%
4	あまり参 に関するにしない	276	12.5%
5	参 に関するにしない	71	3.2%

(SA)問13 値段 -食品を購入される際に参 に関する表示の内容についてお聞かせください。			
		2208	100.0%
1	参 に関する	1496	67.8%
2	たまたま参 に関する	441	20.0%
3	どちらともいえない	233	10.6%
4	あまり参 に関するにしない	30	1.4%
5	参 に関するにしない	8	0.4%
(SA)問14 食品安全委員会 -以下の行政 関から出されている食品の安全性に関する情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。			
		2208	100.0%
1	よく見たり(聞いたり)する	193	8.7%
2	見たり(聞いたり)したことがある	891	40.4%
3	見たり(聞いたり)したことはない	1124	50.9%
(SA)問14 林水産省 -以下の行政 関から出されている食品の安全性に関する情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。			
		2208	100.0%
1	よく見たり(聞いたり)する	500	22.6%
2	見たり(聞いたり)したことがある	883	40.0%
3	見たり(聞いたり)したことはない	825	37.4%
(SA)問14 厚生労働省 -以下の行政 関から出されている食品の安全性に関する情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。			
		2208	100.0%
1	よく見たり(聞いたり)する	505	22.9%
2	見たり(聞いたり)したことがある	884	40.0%
3	見たり(聞いたり)したことはない	819	37.1%
(SA)問14 保健所 -以下の行政 関から出されている食品の安全性に関する情報を見たり、聞いたりしたことがありますか。			
		2208	100.0%
1	よく見たり(聞いたり)する	487	22.1%
2	見たり(聞いたり)したことがある	879	39.8%
3	見たり(聞いたり)したことはない	842	38.1%
(SA)問15 あなたは、食品安全委員会 でBSEのリスク評価結果が発表されたことをご存じでしたか。			
		2208	100.0%
1	良く 知っている	54	2.5%
2	ある程度 知っている	482	21.8%
3	あまり 知らなかった	731	33.1%
4	まったく 知らなかった(このアンケートで初めて った)	941	42.6%

SA：単一選択

MA：複数選択

FA：自由回答（回答内容は省略）

(MA)問16 以下の食品安全に関する情報を見たり(聞いたり)したことがありますか。あてはまるものをすべてお選びください。		
	2208	↓ MAX100.0%
1 食品安全委員会のホームページ	153	6.9%
2 食品安全委員会のパンフレット	146	6.6%
3 「科学の目で守る食品の安全」(リーフレット)	76	3.4%
4 食品安全委員会の季刊誌「食品安全」	58	2.6%
5 意見交換会など	34	1.5%
6 食品安全委員会のリスク評価(新聞発表)	268	12.1%
7 その他	35	1.6%
8 いずれも見たり(聞いたり)したことはない	1658	75.1%
(FA)問16FA その他の自由記述		
	34	100.0%
(自由記述)		
(SA)問17 あなたは、全国各地で食の安全の分野における意見交換会が開催されていることをっていましたか。		
	2208	100.0%
1 っていた	207	9.4%
2 らなかった	2001	90.6%
(SA)問18 あなたは、今後、食品の安全性に関連したシンポジウムや意見交換会などのイベントに参加したいと思いますか？		
	2208	100.0%
1 参加したいと思う	716	32.4%
2 参加したいと思わない	1492	67.6%
(MA)問19 参加したいと思う理由は何ですか？ あてはまるものすべてお選びください。		
	716	↓ MAX100.0%
1 他では得られない詳しい情報が得られるから	562	78.5%
2 わかりやすい説明が聞けるから	335	46.8%
3 聞きたいことを質問できるから	261	36.5%
4 参加者と意見を交換できるから	189	26.4%
5 両論をいわれているものに対して安全か安全でないかの結論が得られるから	303	42.3%
6 どのような人々が関わっているかわかるから	190	26.5%
7 人とのネットワークが持てるから	75	10.5%
8 その他	6	0.8%
(FA)問19FA その他の自由記述		
	6	100.0%
(自由記述)		

(MA)問20 参加したくないと思う理由は何ですか？ あてはまるものすべてお選びください。		
	1492	↓ MAX100.0%
1 関心がないから	206	13.8%
2 いっどこで開催されているかわからないから	569	38.1%
3 開催の日時や場所が都合に合わないから	529	35.5%
4 参加しても りたい情報が得られるとは思わないから	304	20.4%
5 参加しても内容が難しくわからないと思うから	296	19.8%
6 参加しても聞きたいことを質問できないから	137	9.2%
7 参加しても参加者と意見の交換ができないから	146	9.8%
8 参加しても安全か安全でないかの結論が得られないから	448	30.0%
9 その他	118	7.9%
(FA)問20FA その他の自由記述		
	116	100.0%
(自由記述)		
(MA)問21 意見交換会はどのような日時に実施すればよいと思いますか。		
	2208	↓ MAX100.0%
1 平日の午前中	376	17.0%
2 平日の午後	483	21.9%
3 平日の夕方	248	11.2%
4 休日の午前中	599	27.1%
5 休日の午後	958	43.4%
6 休日の夕方	187	8.5%
(SA)問22 意見交換会は何人程度収容できる会場で実施すればよいと思いますか。		
	2208	100.00%
1 50人以下	1229	55.66%
2 51人～100人	616	27.90%
3 101人～200人	199	9.01%
4 201人～300人	67	3.03%
5 301人以上	97	4.39%
(SA)問23 意見交換会は何の程度の時間を使って実施すればよいと思いますか。		
	2208	100.00%
1 (同日中で)2時間程度	1683	76.22%
2 (同日中で)4時間程度	366	16.58%
3 (同日中で)午前午後を通して6時間程度	19	0.86%
4 複数の日にわたって開催	123	5.57%
5 その他	17	0.77%
(FA)問23FA その他の自由記述		
	16	100.0%
(自由記述)		

SA：単一選択

MA：複数選択

FA：自由回答（回答内容は省略）

(MA)問24 意見交換会では、どのようなテーマを取り上げて欲しいと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。		
	2208	↓ MAX100.0%
1 食品添加物	1562	70.7%
2 残留薬	1756	79.5%
3 食品中に存在する汚染物質・化学物質	1451	65.7%
4 伝子組換え食品	1086	49.2%
5 家畜用抗菌性物質(いわゆる抗生物質)	1008	45.7%
6 BSE(牛海綿状脳症)	1070	48.5%
7 食中毒(微生物・ウイルス・かび毒・自然毒)	1093	49.5%
8 鳥インフルエンザ	1022	46.3%
9 新開発食品	643	29.1%
10 いわゆる健康食品	645	29.2%
11 リスクコミュニケーション	413	18.7%
12 リスク分析の 仕方	501	22.7%
13 食育	430	19.5%
14 その他	42	1.9%
(FA)問24FA その他の自由記述		
	40	100.0%
(自由記述)		
(MA)問25 意見交換会ではどのようなプログラムを実施すればよいと思いますか。あてはまるものすべてをお選びください。		
	2208	↓ MAX100.0%
1 専門家による講演	1626	73.6%
2 行政による政策の説明	728	33.0%
3 事業者による説明	873	39.5%
4 消費者からの意見	1275	57.7%
5 パネルディスカッション(関係者間の意見の交換)	1002	45.4%
6 会場との質疑応答	890	40.3%
7 その他	26	1.2%
(FA)問25FA その他の自由記述		
	24	100.0%
(自由記述)		
(FA)問26 画面は食品安全委員会のホームページですが、この内容をご覧頂いた感想をお聞かせください。		
	1982	100.0%
(自由記述)		
(FA)問27 上記の感想で改善を要望された方は、今後どのように改善していった方がよいか、簡単にご記入ください		
	1372	100.0%
(自由記述)		

SA：単一選択

MA：複数選択

FA：自由回答（回答内容は省略）